

Oracle8i Enterprise Edition for Windows NT

インストール・ガイド

リリース 8.1.7

2001 年 2 月

部品番号 : J02295-01

ORACLE®

Oracle8i Enterprise Edition for Windows NT インストール・ガイド リリース 8.1.7

部品番号 : J02295-01

原本名 : Oracle8i Installation Guide, Release 3 (8.1.7) for Windows NT

原本部品番号 : A85302-01

原本著者 : Mark Kennedy

原本協力者 : Harish Akali, Warren Briesse, Kristy Browder, Toby Close, Jonathan Creighton, Marcel De Maria, Mike DeMarco, Saheli Dey, Raj Gupta, Nicole Haba, Daniella Hansell, Anna Hernandez, Marilyn Hollinger, Clara Jaeckel, Stephen Lee, Matt McKerley, Miranda Nash, Anita Puronto, David Saslav, Helen Slattery, Debbie Steiner, Linus Tanaka, Tom Van Raalte, Alice Watson, Zakia Zerhouni

Copyright © 1996, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
------------	---

1 Oracle8i for Windows NT の紹介

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i および Oracle8i Personal Edition	1-2
Oracle8i for Windows NT の概要	1-2
サポートされるオペレーティング・システム	1-3
Windows NT での新機能およびコンポーネント	1-4
8.1.7 の新機能	1-4
8.1.6 の新機能	1-6

2 インストールの概要

Oracle Universal Installer	2-2
インストールに使用できる最上位コンポーネント	2-2
Oracle Universal Installer コンポーネントのインストールの概要	2-5
インストールの開始	2-7

3 インストール要件

最上位コンポーネントのシステム要件	3-2
FAT および NTFS ファイル・システムのシステム要件	3-2
Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	3-3
Oracle8i Client	3-4
Oracle8i Management and Integration	3-5
移行とアップグレードの要件	3-7
Oracle7 および Oracle8 の移行とアップグレードの要件	3-7
7.1.3.3.6 より前のリリースからの移行	3-7

Migration Utility での Oracle のコマンドライン・ツール	3-7
必要な Oracle7 Server SQL*Net パッチのリリース	3-8
Oracle Parallel Server の移行およびアップグレードの要件	3-9
個々のコンポーネントの必須要件	3-9
単一 Oracle ホーム・コンポーネント	3-14
Oracle Enterprise Manager の要件	3-15
Oracle Management Server の要件	3-15
既存のリポジトリの使用	3-15
新しいリポジトリの作成	3-16
Oracle Enterprise Manager の Web ブラウザ要件	3-17
Oracle Enterprise Manager Paging Server の要件	3-17
ネットワーク・プロトコル・ベンダーの要件	3-18

4 データベース作成と Net8 構成の方法の選択

データベース作成とネットワーク構成の方法	4-2
使用可能なデータベース環境	4-4
データベースの作成方法の選択	4-4
Net8 構成方法の選択	4-8
サーバーのネットワーク構成	4-9
クライアントのネットワーク構成	4-11

5 Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール

Windows NT と UNIX でのインストールの相違	5-2
キーボード・ナビゲーション	5-2
インストール前の作業	5-3
Oracle コンポーネントのインストール	5-4
Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	5-6
標準	5-6
最小	5-10
カスタム	5-13
Oracle8i Client	5-16
「管理者」、「プログラマ」、「アプリケーション・ユーザー」	5-16
カスタム	5-17
Oracle8i Management and Integration	5-19
Oracle Management Server	5-19
Oracle Internet Directory	5-23

Oracle Integration Server	5-27
カスタム	5-31
インストール・セッションのログの確認	5-35
Web ブラウザおよび Adobe Acrobat Reader のインストール	5-35
Web ブラウザでのドキュメントの表示	5-36
Web ブラウザがない場合のドキュメントの表示	5-37

6 インストールされた初期データベースの内容の表示

ユーザー名とパスワード	6-2
データベースの識別	6-5
表領域とデータ・ファイル	6-6
初期化パラメータ・ファイル	6-7
REDO ログ・ファイル	6-8
制御ファイル	6-9
ロールバック・セグメント	6-9
データ・ディクショナリ	6-10

7 インストール後の構成作業

NTFS ファイル・システムと Windows NT レジストリ権限の設定	7-2
NTFS ファイル・システムのセキュリティ	7-2
Windows NT レジストリのセキュリティ	7-3
UTLRP.SQL スクリプトでの無効な PL/SQL モジュールの妥当性チェック	7-3
個々のコンポーネントのインストール後の構成作業	7-4

8 Oracle のコンポーネントとサービスの削除

Oracle Universal Installer を使用した Oracle コンポーネントの削除	8-2
作業 1: Net8、Oracle Internet Directory および Oracle8i データベースのレジストリ・	
エントリを削除する	8-2
Oracle Windows NT サービスの停止	8-3
Net8 サービスの削除	8-3
Oracle Internet Directory サービスの削除	8-4
Oracle8i データベースおよびレジストリ・エントリの削除	8-4
作業 2: Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除する	8-4

手動でのすべての Oracle コンポーネントとサービスのコンピュータからの削除	8-5
Windows NT でのコンポーネントの削除	8-6
Windows 95 または Windows 98 でのコンポーネントの削除	8-7

A インストール可能な個々のコンポーネント

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition コンポーネント	A-2
Oracle8i Client のコンポーネント	A-9
Oracle8i Management and Integration のコンポーネント	A-14
8.1.7 では使用できないコンポーネント	A-19

B 個々のコンポーネントの説明

コンポーネントの説明	B-2
------------------	-----

C 各国語サポート

NLS_LANG パラメータ	C-2
一般的に使用される NLS_LANG の値	C-3
MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定	C-5

D Legato 製コンポーネントのインストールと削除

LSM Server	D-2
LSM Server の更新	D-2
LSM Server のインストール	D-2
LSM Server の削除	D-5
LSM Administrator GUI	D-6
LSM Administrator GUI の更新	D-6
LSM Administrator GUI のインストール	D-6
LSM Administrator GUI の削除	D-8

用語集

索引

はじめに

このガイドは、Oracle8i for Windows NT の概要、インストール前、インストール、インストール後の処理に関する主たる情報源です。

次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [構成](#)
- [表記規則](#)

対象読者

このドキュメントは、読者が次のことを十分理解していることを前提にしています。

- Windows NT を十分理解していて、コンピュータ・システムにインストールおよびテスト済であること
- オブジェクト・リレーショナル・データベース管理の概念

このガイドは、Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i および Oracle8i Personal Edition のデータベース・タイプのインストールまたは構成をする方に必要です。このガイドでは、用語 Oracle8i for Windows NT がすべてのタイプを説明するために使用されていることに注意してください。

このガイドでは、Windows NT、Windows 95、Windows 98 および Windows 2000 オペレーティング・システムに適用できる Oracle8i for Windows NT ソフトウェアの機能についてのみ説明します。

構成

このドキュメントは、次のように構成されています。

第 1 章「Oracle8i for Windows NT の紹介」

Oracle8i for Windows NT、サポートされるオペレーティング・システム、リリース 8.1.6 以降の Oracle8i for Windows NT の新機能を紹介し、Oracle ドキュメントの使用方法を説明します。

第 2 章「インストールの概要」

Oracle コンポーネントをインストールする方法の概要を提供します。

第 3 章「インストール要件」

Oracle8i for Windows NT のインストール・タイプおよび個別のコンポーネントに対する要件を説明します。

第 4 章「データベース作成と Net8 構成の方法の選択」

インストール中に使用可能な Oracle8i データベースの作成および Net8 クライアント / サーバー・ネットワーク構成について説明します。

第 5 章「Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール」

Oracle コンポーネントのインストール方法を説明します。

第 6 章「インストールされた初期データベースの内容の表示」

インストールされた初期データベースの内容について説明します。

第7章「インストール後の構成作業」

インストール後の構成作業について説明します。

第8章「Oracle のコンポーネントとサービスの削除」

Oracle コンポーネントおよびサービスの削除方法について説明します。

付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」

3つの最上位コンポーネントの各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントについて説明します。

付録 B「個々のコンポーネントの説明」

3つの最上位コンポーネントの各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントの説明とリリース番号を示します。

付録 C「各国語サポート」

各国語サポート（NLS）について説明します。

付録 D「Legato 製コンポーネントのインストールと削除」

Legato コンポーネントのインストールおよび削除の方法を示します。

表記規則

このドキュメントで使用される表記規則は、次のとおりです。

規則	例	意味
大文字	C:¥ORACLE¥ORA81	ALTER DATABASE のようなコマンド名、SQL 予約語、キーワードを示します。ディレクトリ名やファイル名も示します。
イタリック	■ 変数を示すために使用 <i>file name</i>	入力が必要な値を示します。たとえば、コマンドで <i>filename</i> を入力するように要求された場合は、ファイルの実際の名前を入力する必要があります。
大カッコ []	X:¥[PATHNAME]¥ORACLE¥ HOME_NAME	オプション項目を示します。たとえば、Oracle ホーム・ディレクトリを作成する場合、¥ORACLE パス名の前にパス名をオプションとして指定できます。 大カッコは [Enter] などのファンクション・キーも表します。
「スタート」→	「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Network Administration」→「Net8 Assistant」を 選択します。	プログラムの起動方法を示します。たとえば、Net8 Assistant を起動するには、タスクバーの「スタート」をクリックし、「プログラム」、「Oracle - HOME_NAME」、「Network Administration」、「Net8 Assistant」の順に選択します。
C:¥>	C:¥ORACLE¥ORADATA>	現行のハード・ディスク・ドライブの Windows NT コマンド・プロンプトを示します。プロンプトには、現在作業しているサブディレクトリが反映されます。このドキュメントでは、MS-DOS コマンド・プロンプトと呼びます。
ディレクトリ名の前の 円記号 (¥)	¥ORADATA	ディレクトリがルート・ディレクトリのサブディレクトリであることを示します。

規則	例	意味
ORACLE_HOME および ORACLE_BASE	ORACLE_BASE¥ ORACLE_HOME¥RDBMS¥ADMIN ディ レクトリに移動します。	<p>8.1 より前のリリースでは、Oracle コンポーネントをインストールした場合、すべてのサブディレクトリは最上位の Oracle ホーム・ディレクトリの下に配置されました。デフォルトは、次のとおりでした。</p> <p>Windows NT の場合、C:¥ORANT</p> <p>Windows 95 の場合、C:¥ORAWIN95</p> <p>Windows 98 の場合、C:¥ORAWIN98</p> <p>ユーザーが独自の Oracle ホームを設定することもできました。</p> <p>このリリースは、Optimal Flexible Architecture (OFA) に準拠しているため、すべてのサブディレクトリが最上位の ORACLE_HOME ディレクトリの下にあるわけではありません。新しい最上位ディレクトリの名前は ORACLE_BASE で、このディレクトリのデフォルトは C:¥ORACLE です。Oracle リリース 8.1.7 コンポーネントをクリーン・コンピュータ（他の Oracle ソフトウェアがインストールされていないコンピュータ）にインストールする場合、最初の Oracle ホーム・ディレクトリのデフォルト設定は、C:¥ORACLE¥ORA81 です。Oracle Universal Installer をもう一度実行してリリース 8.2.x をインストールする場合、2 番目の Oracle ホーム・ディレクトリの名前は ¥ORA82 です。これらの Oracle ホーム・ディレクトリは、ORACLE_BASE のすぐ下に配置されます。このドキュメントで例として使用されているディレクトリ・パスは、すべて OFA に準拠しています。</p> <p>OFA 準拠の詳細および OFA に準拠していないディレクトリに Oracle 製品をインストールする方法は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』を参照してください。</p>
%ORACLE_HOME%	SQL> @%ORACLE_HOME%¥ADMIN¥ DB_NAME¥ADHOC¥CATALOG.SQL	SQL*Plus コマンドでは %ORACLE_HOME% を使用できます。SQL*Plus は %ORACLE_HOME% 変数を使用して Oracle ホーム・ディレクトリを検索できます。この表記方法は、Server Manager、SQL*Plus、Export Utility および Import Utility で使用できます。

規則	例	意味
HOME_NAME	OracleHOME_NAMETNSListener	Oracle ホーム名を示します。 ホーム名は英数字 16 文字までです。ホーム名で 使用できる特殊文字はアンダースコアのみです。
HOMEID	HOME0、HOME1、HOME2	製品をインストールする各 Oracle ホーム・ディレクトリの一意なレジストリ・サブキーを示します。あるコンピュータ上の異なる Oracle ホーム・ディレクトリに製品をインストールするたびに、新しい HOMEID が作成されて増加します。各 HOMEID には、インストールされた Oracle 製品固有の構成パラメータが含まれます。
記号	ピリオド . カンマ , ハイフン - セミコロン ; コロン : 等号 = 円記号 ¥ 一重引用符 ' 二重引用符 " 丸カッコ ()	大カッコと垂直バー以外のコマンド内の記号は表記どおりに入力する必要があります。

Oracle8i for Windows NT の紹介

この章では、Oracle8i for Windows NT について説明します。

次の項目について説明します。

- [Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i および Oracle8i Personal Edition](#)
- [Oracle8i for Windows NT の概要](#)
- [サポートされるオペレーティング・システム](#)
- [Windows NT での新機能およびコンポーネント](#)

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i および Oracle8i Personal Edition

このガイドに記載されている情報は、次のデータベース・タイプにあてはまります。

- Oracle8i Enterprise Edition
- Oracle8i (Standard Edition と呼ばれることもあります。)
- Oracle8i Personal Edition (Windows NT および 2000 のみ)

Oracle8i for Windows NT という名前は、可能な場合はいつでもすべてのタイプを記述するために使用されます。混同を避けるために必要な場合にのみ、特定のデータベース・タイプ名が使用されます。特に注意されていない場合、このガイドに記載されている機能は、3つのデータベース・タイプすべてに共通です。

注意： このガイドでは、Windows 95 または 98 での Oracle8i Personal Edition のインストールおよび移行の手順については説明しません。インストールと移行の手順は、各コンポーネントに付属しているドキュメントを参照してください。

Oracle8i for Windows NT の概要

Oracle8i for Windows NT は、インターネット用の開発および実行プラットフォームです。Oracle8i for Windows NT の機能には、次のものが含まれます。

- Oracle8i データベース内に Java コードを保存し実行できる組込み JVM (Java Virtual Machine)
- CORBA (Common Object Request Broker Architecture)、IIOP (Internet Inter-ORB Protocol) および Enterprise JavaBeans のサポート
- Java プログラム内に SQL 文の埋込み可能なプログラミング構文である SQLJ のサポート
- COM (Component Object Model) や Microsoft Transaction Server との統合
- Oracle Enterprise Manager コンソールやクライアントから完全にアクセスできるフロントエンドの管理アプリケーション (Web ブラウザを含む) との統合

参照：

- 『Oracle8i 概要』
- 『Oracle Enterprise Manager 概説』

サポートされるオペレーティング・システム

Oracle8i のサーバー・ソフトウェアおよびクライアント・ソフトウェアは、次の Microsoft オペレーティング・システムのいずれかが稼働するパーソナル・コンピュータ（PC）で動作します。

オペレーティング・システム	Oracle8i Server ソフトウェア	Oracle8i Client ソフトウェア
次のものを含む Windows NT 4.0:		
■ Windows NT Workstation 4.0	◎	◎
■ Windows NT Server 4.0	◎	◎
■ Windows NT Server, Enterprise Edition 4.0	◎	◎
次のものを含む Windows 2000:		
■ Windows 2000 Professional	◎	◎
■ Windows 2000 Server	◎	◎
■ Windows 2000 Advanced Server	◎	◎
■ Windows 2000 Datacenter	◎	◎
Windows 95	×	◎
Windows 98	×	◎

参照： Windows Terminal Server での Oracle8i のサポートについては、『Oracle8i for Windows リリース・ノート』を参照してください。

Windows NT での新機能およびコンポーネント

この項では、Windows NT 上でリリース 8.1.7 および 8.1.6 で使用可能な新機能およびコンポーネントの一部を説明します。

8.1.7 の新機能

次の表では、Windows NT 上でのリリース 8.1.7 の新機能およびコンポーネントをいくつか説明します。

機能 / コンポーネント	説明	参照先
Oracle Provider for OLE DB の拡張	<p>Oracle Provider for OLE DB は、次のサポートを提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 複数の行セットを返す この機能を使用して、ストアド・プロシージャによって返されるすべての REF カーソルにアクセスできます。■ Unicode キャラクタ・セット この機能を使用して、同じクライアント・マシン上で複数の言語でデータにアクセスできます。この機能は、Unicode 標準に準拠するために多数の言語をサポートするグローバル・インターネット・アプリケーションの作成に役立ちます。たとえば、Oracle8i データベースにアクセスする単一の active server page (ASP) を作成して、日本語、アラビア語、英語およびタイ語のコンテンツを動的に生成できます。	『Oracle Provider for OLE DB ユーザーズ・ガイド』
Oracle Objects for OLE (OO4O) の拡張	<p>コマンドは、非同期処理を使用して実行できるようになりました。これにより、SQL 文および PL/SQL ブロックを非ブロック化モードで実行できます。非ブロック化モードでは、実行が完了していなくても、制御がすぐにアプリケーションに戻されます。これにより、アプリケーションは、最後の実行の結果に依存しない他のタスクを実行できます。</p>	インストール後に「スタート」メニューで使用可能な OO4O のオンライン・ヘルプ

機能 / コンポーネント	説明	参照先
8.1.7 用の Oracle Universal Installer インストールに統合された新規コンポーネント	<p>新規コンポーネントは、インストールに統合されています。</p> <ul style="list-style-type: none">■ JVM Accelerator■ Oracle Applications InterConnect■ Oracle HTTP Server および Apache コンポーネント■ 次のものを含む「Oracle Integration Server」インストール・タイプ：<ul style="list-style-type: none">Oracle Message BrokerOracle Workflow■ Oracle Servlet Engine■ Oracle XML Developer's Kit■ Oracle XML SQL Utility■ PL/SQL Embedded Gateway	<ul style="list-style-type: none">■ 付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」■ 付録 B「個々のコンポーネントの説明」

8.1.6 の新機能

次の表では、Windows NT 上でのリリース 8.1.6 の新機能およびコンポーネントをいくつか説明します。

機能 / コンポーネント	説明	参照先
Oracle Provider for OLE DB	<p>OLE DB はデータ・アクセス方法のオープン・スタンダードで、あらゆる型のデータにアクセスし操作するための一連のインタフェースを使用します。これらのインタフェースは、様々なデータベース提供元から入手できます。</p> <p>Oracle Provider for OLE DB インタフェースは高速で、アプリケーション、コンパイラおよびその他のデータベース・コンポーネントからの Oracle データに対する効率のよいアクセスを提供します。</p>	『Oracle Provider for OLE DB ユーザーズ・ガイド』
Active Directory サポート	<p>Active Directory は、Windows 2000 に付属している LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 準拠のディレクトリ・サーバーです。Active Directory には、ユーザー、グループおよびポリシーを含むすべての Windows 2000 情報が格納されます。</p> <p>Oracle8i リリース 8.1.6 以上では、ユーザーはデータベース・サービス名および Net8 ネット・サービス名をディレクトリ・オブジェクトとして Active Directory に格納できます。Active Directory との統合により、次のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ データベースやネット・サービス名を表す Oracle オブジェクトが Active Directory に作成され、Oracle8i データベースへの接続時に様々な Oracle アプリケーションによって使用されます。■ ネット・サービス名情報を単一の集中化された場所に格納することで、個々のクライアント・コンピュータ上で別個の TNSNAMES.ORA ファイルを管理する必要がなくなります。■ 管理者は Oracle8i データベースに対するエンタープライズ・ユーザーとロールを作成し、Active Directory に格納することで、複数のデータベースに渡るユーザーやロールの管理を集中化できます。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 4 章「Active Directory での Oracle8i ディレクトリ・サーバー機能の使用方法」
Windows 固有の認証の拡張	これらの拡張は、Active Directory を使用する Windows 2000 ドメインでの Windows 固有の認証に、グローバル・ユーザー認証とロール認証のサポートを提供します。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 8 章「Windows を使用したデータベース・ユーザーの認証」

インストールの概要

この章では、Oracle コンポーネントのインストールの概要を説明します。
次の項目について説明します。

- [Oracle Universal Installer](#)
- [インストールに使用できる最上位コンポーネント](#)
- [Oracle Universal Installer コンポーネントのインストールの概要](#)
- [インストールの開始](#)

Oracle Universal Installer

Oracle Universal Installer は、CD-ROM から Oracle コンポーネントをインストールするための Java ベースのグラフィカル・ユーザー・インタフェース（GUI）です。Oracle Universal Installer には、次の機能があります。

- コンポーネントおよびコンポーネント・セットのインストール
- Web ベースのインストール
- 各国語およびグローバル化のサポート
- 分散インストール・サポート（Oracle Parallel Server）
- レスポンス・ファイルを使用した（対話を必要としない）サイレント・インストール
- インストール済コンポーネントの削除
- 複数の Oracle ホームのサポート

参照： Oracle Universal Installer の詳細は、『Oracle Universal Installer Concepts Guide』を参照してください。このガイドは、Oracle Universal Installer のインストール時に自動的にハードディスク・ドライブにインストールされます。このマニュアルを表示するには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer Concepts Guide」を選択します。

インストールに使用できる最上位コンポーネント

製品 CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行する際、3 つの異なる最上位コンポーネントから、インストールする個々のコンポーネントを選択できます。

- Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition
- Oracle8i Client
- Oracle8i Management and Integration

個々の最上位コンポーネントには、いくつかのインストール・タイプが含まれており、各タイプには一連の個々のコンポーネントが含まれています。次の表に、3 つの最上位コンポーネントと、そのインストール・タイプをリストします。

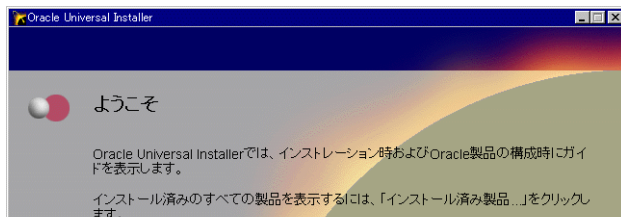
最上位コンポーネント	インストール・タイプ構成
<p>Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition</p> <p>注意： Oracle Universal Installer の実行時に表示される最上位コンポーネント名は、購入した Oracle8i データベースの種類によって決まります。</p>	<p>標準</p> <p>構成済の初期データベース、ネットワーキング・サービス、Oracle Utilities、Oracle Intelligent Agent、Oracle Enterprise Manager コンソール（Enterprise Management Tools を含む）、Oracle Management Server、Oracle HTTP Server powered by Apache および追加コンポーネントをインストールします（完全なデータベース・パッケージを必要とするユーザーに推奨）。</p> <p>最小</p> <p>構成済の初期データベースをインストールするオプションがあり、Oracle Intelligent Agent、ネットワーキング・サービス、Oracle Enterprise Manager コンソール（Enterprise Management Tools を含む）、Oracle HTTP Server powered by Apache および Oracle Utilities を自動的にインストールします（最小データベース・パッケージの必要なユーザーに推奨）。</p> <p>カスタム</p> <p>上のインストール・タイプからコンポーネントを選択してインストールできます。</p>
<p>Oracle8i Client</p>	<p>管理者</p> <p>Oracle Enterprise Manager コンソール（Enterprise Management Tools を含む）、ネットワーキング・サービス、ユーティリティおよび基本クライアント・ソフトウェアをインストールします。</p> <p>プログラマ</p> <p>Oracle8i データベースにアクセスするアプリケーションを作成するための開発ツール（プリコンパイラを含む）とインタフェースをインストールします。</p> <p>アプリケーション・ユーザー</p> <p>データベース・アプリケーションのユーザーが、Oracle8i データベースに接続して対話できるようにするネットワーキング・サービスとサポート・ファイルをインストールします。</p> <p>カスタム</p> <p>上のインストール・タイプからコンポーネントを選択してインストールできます。</p>

最上位コンポーネント	インストール・タイプ構成
Oracle8i Management and Integration	Oracle Management Server Oracle Management Server、Oracle Enterprise Manager コンソール（Enterprise Management Tools を含む）、ネットワーキング・サービス、ユーティリティおよび基本クライアント・ソフトウェアをインストールします。
	Oracle Internet Directory Oracle Internet Directory ディレクトリ・サーバーを Oracle8i データベース上のアプリケーションとして実装できるようにするコンポーネントをインストールします。
	Oracle Integration Server アドバンスト・キューイングで構成されたデータベース、Oracle8i JVM、Oracle Message Broker、および E-Business（customer relationship management、enterprise resource planning、B2B インターネット・マーケットプレイスおよびオークション・サイトを含む）を構成するアプリケーション間の通信を促進するために設計されたその他のコンポーネントをインストールします。
	カスタム 上のインストール・タイプからコンポーネントを選択してインストールできます。

参照： 各インストール・タイプでインストールされる個々のコンポーネントのリストは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。

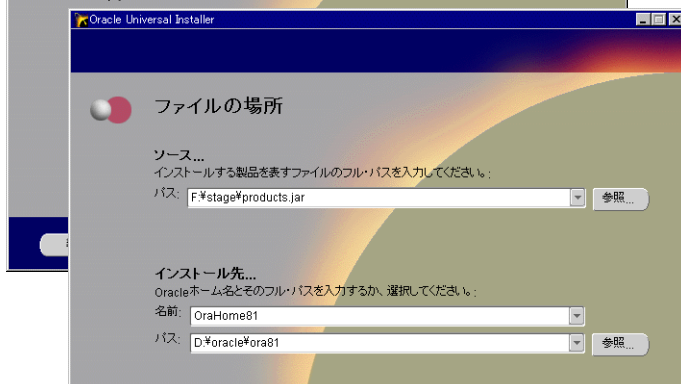
Oracle Universal Installer コンポーネントのインストールの概要

コンポーネント CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行すると、次のウィンドウが表示され、Oracle コンポーネントをインストールできます。ここでは、コンポーネントのインストールの選択肢の概要を説明します。特定のインストール手順は、[第 5 章「Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール」](#)に記載されています。



最初のウィンドウ：「ようこそ」

Oracle Universal Installer へようこそ。

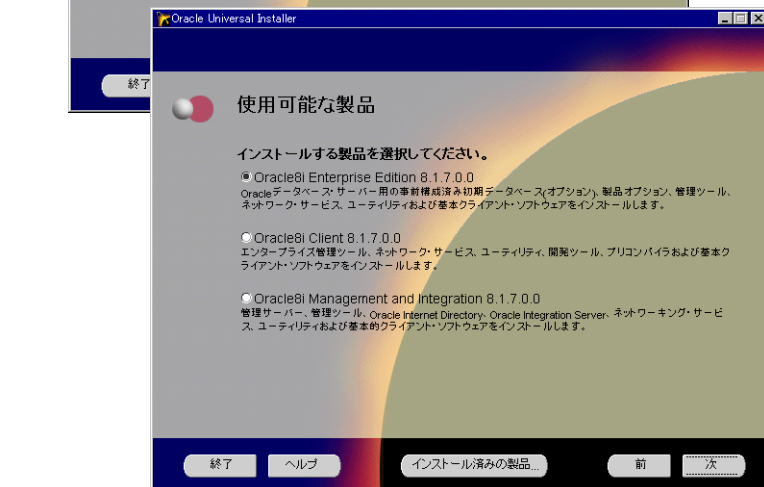


2 番目のウィンドウ：「ファイルの場所」

「インストール先」フィールドに次の項目を入力できます。

- Oracle ホーム名
- Oracle コンポーネントをインストールするディレクトリ位置

コンポーネント CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行している場合、「ソース」フィールドには CD-ROM の位置が自動的に表示されます。このフィールドは変更しないでください。



3 番目のウィンドウ：「使用可能な製品」

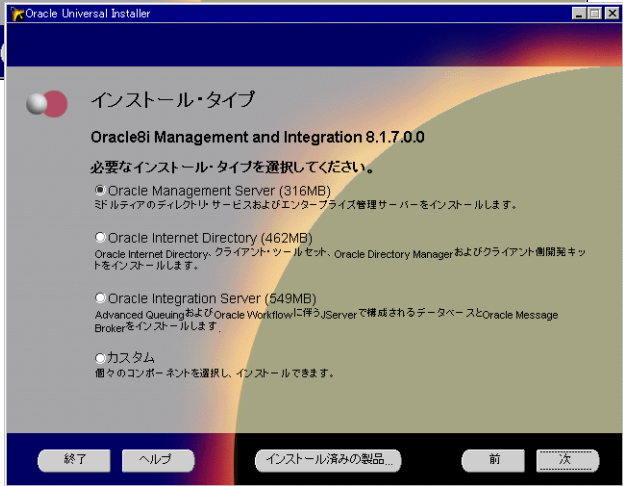
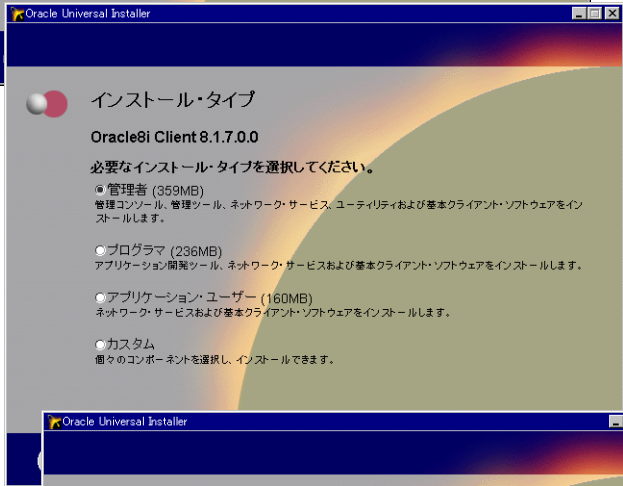
インストールする最上位コンポーネントを選択できます。

- Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition
- Oracle8i Client
- Oracle8i Management and Integration

それぞれの最上位コンポーネントを選択すると、次に示すいくつかのインストール・タイプが表示されます。

選択する最上位コンポーネントが

- Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition の場合、次のインストール・タイプが表示されます。
- Oracle8i Client の場合、次のインストール・タイプが表示されます。
- Oracle8i Management and Integration の場合、次のインストール・タイプが表示されます。



インストールの開始

インストール処理を始める準備ができました。迅速に作業を開始するには、次にリストした章に、この順序で正確に従います。

目的	参照先
次の事項のインストール要件を調べる <ul style="list-style-type: none">■ 個々のインストール・タイプ■ Oracle データベースの移行■ 個々のコンポーネント■ 単一 Oracle ホーム・コンポーネント■ Oracle Enterprise Manager のコンポーネント■ ネットワーク・プロトコルおよびベンダー	第 3 章「インストール要件」
Oracle8i データベースを作成して、Net8 クライアント / サーバー環境を構成する方法を選択する	第 4 章「データベース作成と Net8 構成の方法の選択」
Oracle コンポーネントをインストールする	第 5 章「Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール」

インストール要件

この章ではインストールの要件を説明します。

次の項目について説明します。

- 最上位コンポーネントのシステム要件
- 移行とアップグレードの要件
- 個々のコンポーネントの必須要件
- 単一 Oracle ホーム・コンポーネント
- Oracle Enterprise Manager の要件
- ネットワーク・プロトコル・ベンダーの要件

最上位コンポーネントのシステム要件

ここでは、各最上位コンポーネントごとのシステム要件をリストします。

- [Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition](#)
- [Oracle8i Client](#)
- [Oracle8i Management and Integration](#)

重要： Oracle8i の各最上位コンポーネントのハード・ディスク要件には、オペレーティング・システムがインストールされているパーティションに JRE (Java Runtime Environment) と Oracle Universal Installer をインストールするために必要な 25MB が含まれています。十分な容量が検出されない場合、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

後述の最上位コンポーネントの項を適宜参照してください。個々の最上位コンポーネントには、いくつかのインストール・タイプが含まれており、各タイプには一連の個々のコンポーネントが含まれています。一部のコンポーネントには、インストール前に満たす必要のある要件もあります。これらの要件は、3-9 ページの「[個々のコンポーネントの必須要件](#)」および 3-15 ページの「[Oracle Enterprise Manager の要件](#)」で説明します。

FAT および NTFS ファイル・システムのシステム要件

この章では、File Allocation Table (FAT) および NT File System (NTFS) の両方のファイル・システムのシステム要件をリストします。必要な値は、デフォルトのブロック・サイズが 32K の FAT ファイル・システムおよびデフォルトのブロック・サイズが 2K の NTFS ファイル・システムの 2GB のパーティションへのインストールから取得されました。両方のファイル・システムは領域割当てが異なるので、ハード・ディスク要件は異なります。

重要： この項にリストする FAT および NTFS システム要件を検討すると、インストールに十分なハード・ディスク容量があるかどうかを判断できます。これらの値は、Oracle Universal Installer の「インストール・タイプ」ウィンドウおよび「サマリー」ウィンドウでレポートされるハード・ディスク値よりも正確です。これらのウィンドウには、次の情報が含まれていません。

- 正確な FAT ディスク容量の値
 - データベースの作成に必要な領域
 - ハードディスク・ドライブ上に展開される圧縮ファイルのサイズ
-
-

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition

「Oracle8i Enterprise Edition」、「Oracle8i」または「Oracle8i Personal Edition」最上位コンポーネントは、次のインストール・タイプで構成されます。

- 標準
- 最小
- カスタム

Oracle Universal Installer の実行時に「使用可能な製品」ウィンドウに表示される最上位コンポーネント名は、購入した Oracle8i データベースの種類によって決まります。

次に、「標準」および「最小」のシステム要件を示します。「カスタム」の場合の要件は、インストール用に選択するコンポーネントに依存します。

要件	標準	最小
オペレーティング・システム	Windows NT 4.0 および Windows 2000	Windows NT 4.0 および Windows 2000
Windows NT 4.0 Service Pack	5.0 以上で認定	5.0 以上で認定
動作可能プロセッサ	Pentium 166MHz	Pentium 166MHz
推奨プロセッサ	Pentium 233MHz ¹	Pentium 233MHz
RAM	96MB (256MB を推奨)	96MB (256MB を推奨) ²
FAT ファイル・システム:		
■ Oracle ホーム・ドライブ	1.92GB	1.57GB
■ システム・ドライブ	69MB	68MB
NTFS ファイル・システム:		
■ Oracle ホーム・ドライブ	1.26GB	1.08GB
■ システム・ドライブ	69MB	68MB
画面	256 色	256 色

¹ Oracle Intelligent Agent、Oracle Management Server および Oracle Enterprise Manager Client を同一コンピュータ上で実行する場合、最小プロセッサ要件は Pentium 166MHz、推奨プロセッサ要件は Pentium II 300MHz、最小 RAM 要件は 128MB、推奨 RAM 要件は 256MB です。

² 64MB のコンピュータ上では、同じインストール・セッションでは Oracle Universal Installer と Oracle Data Migration Assistant または Oracle Database Configuration Assistant は同時に実行できません。これらの Assistant を実行するには、データベースを移行または作成するかどうかを尋ねるプロンプトに対して「いいえ」と答えます。インストールが完了し Oracle Universal Installer を終了した後で、これらの Assistant を実行します。仮想メモリーを 200MB に増やすこともお薦めします。（「コントロール パネル」の「システムのプロパティ」の「パフォーマンス」タブで変更します。）

参照： 各インストール・タイプでインストールされる個々のコンポーネントのリストは、A-2 ページの「[Oracle8i Enterprise Edition](#)、[Oracle8i](#) または [Oracle8i Personal Edition コンポーネント](#)」を参照してください。

Oracle8i Client

「Oracle8i Client」最上位コンポーネントは、次のインストール・タイプで構成されます。

- 管理者
- プログラマ
- アプリケーション・ユーザー
- カスタム

次に、「管理者」、「プログラマ」および「アプリケーション・ユーザー」のシステム要件を示します。「カスタム」の場合の要件は、インストール用に選択するコンポーネントに依存します。

要件	管理者 ¹	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
オペレーティング・システム	Windows NT 4.0、 Windows 95、Windows 98 および Windows 2000	Windows NT 4.0、 Windows 95、Windows 98 および Windows 2000	Windows NT 4.0、 Windows 95、Windows 98 および Windows 2000
Windows NT 4.0 Service Pack	5.0 以上で認定	5.0 以上で認定	5.0 以上で認定
動作可能プロセッサ	Pentium 166MHz	Pentium 133MHz	Pentium 133MHz
推奨プロセッサ	Pentium 266MHz	Pentium 166MHz	Pentium 166MHz
RAM	64MB（最小） 128MB（推奨）	32MB（64MB を推奨）	32MB（64MB を推奨）
FAT ファイル・システム：			
■ Oracle ホーム・ドライブ	861MB	270MB	180MB
■ システム・ドライブ	51MB	40MB	36MB
NTFS ファイル・システム：			
■ Oracle ホーム・ドライブ	336MB	192MB	120MB
■ システム・ドライブ	51MB	40MB	36MB

要件	管理者 ¹	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
Web ブラウザ (Oracle Enterprise Manager Web Site を使用している場合)	<ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Navigator 4.7 以上 ■ Microsoft Internet Explorer 5.0 以上 	なし	なし

¹ Oracle Enterprise Manager Client のオペレーティング・システム、サービス・パック、プロセッサおよび RAM の要件は、Oracle Enterprise Manager Web Site の要件と同じです。

参照： 各インストール・タイプでインストールされる個々のコンポーネントのリストは、A-9 ページの「[Oracle8i Client のコンポーネント](#)」を参照してください。

Oracle8i Management and Integration

「Oracle8i Management and Integration」最上位コンポーネントは、次のインストール・タイプで構成されます。

- Oracle Management Server
- Oracle Internet Directory
- Oracle Integration Server
- カスタム

次に、「Oracle Management Server」、「Oracle Internet Directory」および「Oracle Integration Server」のシステム要件を示します。「カスタム」の場合の要件は、インストール用に選択するコンポーネントに依存します。

要件	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
オペレーティング・システム	Windows NT 4.0 および Windows 2000	Windows NT 4.0 および Windows 2000	Windows NT 4.0 および Windows 2000
Windows NT 4.0 Service Pack	5.0 以上で認定	5.0 以上で認定	5.0 以上で認定
動作可能プロセッサ	Pentium 166MHz	Pentium 166MHz	Pentium 166MHz
プロセッサ	Pentium II 300MHz	Pentium II 300MHz	Pentium 233MHz

要件	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
UNIX エミュレーション・ ユーティリティ	なし	Cygwin 1.0。インターネット・アクセス： http://sourceware.cygнус.com/cygwin/ または MKS Toolkit 5.1 または 6.0。 インターネット・アクセス： http://www.datafocus.com/products/	なし
RAM	64MB（最小） 256MB（推奨）	96MB	64MB（最小） 256MB（推奨）
FAT ファイル・ システム：			
■ Oracle ホーム・ ドライブ	1.27GB	1.30GB	1.17GB
■ システム・ ドライブ	34MB	34MB	49MB
NTFS ファイル・ システム：			
■ Oracle ホーム・ ドライブ	334MB	1.21GB（データベースを含む。データベースなしの場合は 300MB。）	1.03GB
■ システム・ ドライブ	34MB	34MB	49MB

参照： 各インストール・タイプでインストールされる個々のコンポーネントのリストは、A-14 ページの「[Oracle8i Management and Integration のコンポーネント](#)」を参照してください。

注意： Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 は、Oracle Internet Directory リリース 2.1.1 のみと互換性があります（両方ともコンポーネント CD-ROM に含まれます）。リリース 2.1.1 より前の Oracle Internet Directory は、リリース 8.1.7 と互換性がありません。Oracle Internet Directory のリリース 2.0.6 は、Oracle8i データベースのリリース 8.1.7 と一緒に動作させるためには、リリース 2.1.1 にアップグレードする必要があります。アップグレード手順は、5-23 ページの「[Oracle Internet Directory](#)」を参照してください。

移行とアップグレードの要件

ここでは、特定の移行要件について説明します。

- [Oracle7 および Oracle8 の移行とアップグレードの要件](#)
- [Oracle Parallel Server の移行およびアップグレードの要件](#)

Oracle7 および Oracle8 の移行とアップグレードの要件

Windows NT での Oracle7 および Oracle8 データベースの移行とアップグレードの手順は、『Oracle8i 移行ガイド』に記載されています。ここでは、『Oracle8i 移行ガイド』の手順に従う前に理解すべきいくつかの Windows NT 固有の問題について説明します。

7.1.3.3.6 より前のリリースからの移行

データベースのリリースがリリース 7.1.3.3.6 よりも前の場合は、少なくともリリース 7.1.3.3.6 に移行してから、Migration Utility または Oracle Data Migration Assistant を使用して最新リリースに移行します。前のリリースのデータベースに付属のドキュメントを参照して、リリース 7.1.3.3.6 への移行方法を確認してください。

Migration Utility での Oracle のコマンドライン・ツール

Migration Utility を使用して Oracle データベースを移行またはアップグレードする場合、『Oracle8i 移行ガイド』では Oracle ツールのコマンド・プロンプトで情報を入力するよう指示されています。使用するコマンド・ツール（SQL*DBA、Server Manager または SQL*Plus）は、移行またはアップグレード前のデータベースのリリースに依存します。次の表に使用するツールと、その起動方法を示します。

動作	前の Oracle リリース	使用するツール	入力するコマンド
移行	7.1.x	SQL*DBA	C:¥> SQLDBA71 MODE=LINE
	7.2.x	SQL*DBA	C:¥> SQLDBA72 MODE=LINE
	7.3.x	Server Manager	C:¥> SVRMGR23
アップ グレード	8.0.x	Server Manager	C:¥> SVRMGR30
	8.1.x	Server Manager または SQL*Plus	C:¥> SVRMGRL または C:¥> SQLPLUS

Migration Utility を使用して Oracle データベースを移行またはアップグレードする場合、『Oracle8i 移行ガイド』では MS-DOS コマンド・プロンプトで ORADIM ユーティリティの使用も指示されます。ORADIM ユーティリティは、WindowsNT 上でデータベース・インスタンスを作成、開始、停止および変更します。ORADIM ユーティリティの起動方法は、移行またはアップグレード前のデータベースのリリースに依存します。

動作	前の Oracle リリース	使用する ユーティリティ	入力するコマンド
移行	7.1.x	ORADIM71	C:¥> ORADIM71 OPTIONS
	7.2.x	ORADIM72	C:¥> ORADIM72 OPTIONS
	7.3.x	ORADIM73	C:¥> ORADIM73 OPTIONS
アップ グレード	8.0.x	ORADIM80	C:¥> ORADIM80 OPTIONS
	8.1.x	ORADIM	C:¥> ORADIM OPTIONS

ORADIM ユーティリティの使用の詳細は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」を参照してください。

必要な Oracle7 Server SQL*Net パッチのリリース

Oracle7 Server リリース 7.3.2 または 7.3.3 から最新リリースに移行する場合、Oracle Data Migration Assistant または Migration Utility で移行する前に、7.3.2 または 7.3.3 の Oracle ホームに、適切な SQL*Net パッチをインストールします。適切な SQL*Net パッチをインストールしていない場合、移行は失敗します。次の表に、必要な SQL*Net パッチのリリースを示します。これらのパッチとインストール手順は、オラクル社カスタマ・サポート・センターから入手してください。

移行前のリリース	使用するパッチ・リリース
リリース 7.3.3	2.3.3.0.3
リリース 7.3.2	2.3.2.1.4
	2.3.2.1.12

Oracle Parallel Server の移行およびアップグレードの要件

Windows NT での Oracle Parallel Server の移行とアップグレードに関する問題はすべて『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』に記載されています。

個々のコンポーネントの必須要件

次の表に、インストール前に個々のコンポーネントが満たすべき必須要件を示します。各インストール・タイプでどのコンポーネントをインストールできるかは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。インストール前の一連の手順に関する適切なドキュメントも併記してあります。次の表には、Oracle Enterprise Manager コンポーネントのインストール前の要件は含まれていません。これについては、3-15 ページの[「Oracle Enterprise Manager の要件」](#)で説明します。

コンポーネント	説明	参照
Oracle Advanced Security	Oracle コンポーネントで認証サポートを使用するには、ハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たす必要があります。また、Oracle Advanced Security を Secure Socket Layer (SSL) および Private Key Infrastructure (PKI) とともに使用するには、コンポーネント CD-ROM で提供されている Oracle Internet Directory などの LDAP ディレクトリが事前にインストールされている必要があります。	『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』の第 1 章

コンポーネント	説明	参照
Oracle Parallel Server	次の作業を実行します。	
■ インストール	<div>1. 他社ベンダーにより提供されるオペレーティング・システム固有のレイヤーをインストールします。これにはクラスタ・ソフトウェアが含まれます。このレイヤーは Oracle で動作確認されている必要があります。</div> <div>2. Oracle8i Enterprise Edition および Oracle Parallel Server をインストールする前にロー・デバイスをセットアップします。</div> <div>3. Oracle Parallel Server は、インストールするシステムにプライベートで、そのシステムが専用に所有するディスク（たとえば、システム・ディスク）にのみインストールします。特定の理由があり、そのリスクを理解している場合を除き、複数のシステムから所有またはマウントできるディスクに Oracle Parallel Server をインストールしないでください。</div>	<div>■ オペレーティング・システム依存レイヤーのインストールに関する他社ベンダーのドキュメント</div> <div>■ ロー・デバイスのセットアップ手順は、『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』の第 2 章と第 3 章</div> <div>■ ロー・デバイスの作成と管理は、『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』の第 3 章と第 4 章</div>
■ アップグレードと移行	インストールの前に、すべてのアップグレードと移行の問題を検討します。	『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』

コンポーネント	説明	参照
Oracle Internet Directory	次の問題について検討します。	
■ アップグレード	<p>Oracle8i データベースのリリース 8.1.6 をリリース 8.1.7 に、Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 を 2.1.1 にアップグレードする場合は、次のことを行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle リスナー・サービス、Oracle データベース・サービスおよび Oracle Internet Directory サービスを停止します。 ■ アップグレードする Oracle8i データベースのシステム識別子 (SID)、Oracle ディレクトリ・サーバー (ODS) ユーザー・パスワードおよび Oracle Internet Directory 管理者パスワードを調べます。 ■ アップグレードの前に完全バックアップを実行します。 <p>マルチノード・レプリケーション環境での Oracle Internet Directory のアップグレード中に、ネットワーク停止時間は発生しません。あるノードのアップグレードの実行中でも、他のノードは使用できます。レプリケート環境では、あるノード上で稼働している Oracle Internet Directory 2.1.1 は、Oracle Internet Directory 2.0.6 が稼働している他のノードと共存できます。アップグレードの前に、マルチノード・レプリケーション・ネットワークのアップグレードに関するガイドラインをすべて検討してください。</p> <p>注意： Oracle Universal Installer を介して Oracle Internet Directory を自動的にアップグレードするかわりに、LDAP Data Interchange Format (LDIF) ベースの手動アップグレードを使用できます。</p> <p>Oracle8i データベース 8.1.6 および Oracle Internet Directory 2.0.6 を別々のインストール・セッションでインストールした場合は、これらを同じインストール・セッションで一緒にアップグレードしないでください。かわりに、異なるインストール・セッションでアップグレードしてください。最初に、Oracle8i データベースをリリース 8.1.7 にアップグレードします (たとえば、データベース・サーバーの「標準」インストール・タイプを選択します)。Oracle Universal Installer は、Oracle8i データベースをリリース 8.1.7 に自動的にアップグレードするかどうかを確認するプロンプトを表示します。データベースのアップグレードが完了した後で、「Oracle Internet Directory」インストール・タイプを使用して Oracle Internet Directory をリリース 2.1.1 にアップグレードします。プロンプトが表示されたら、直前にアップグレードしたデータベースの SID を入力します。Oracle Universal Installer は、Oracle Internet Directory のみをアップグレードします。</p> <p>「標準」および「Oracle Internet Directory」インストール・タイプへのアクセスについては、2-5 ページの「Oracle Universal Installer コンポーネントのインストールの概要」を参照してください。</p>	■ 『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』の第 3 章

コンポーネント	説明	参照
Oracle Internet Directory（続き）	<div><div><div>■ 現在インストールされている Oracle8i データベース</div><div>UTF8 キャラクタ・セットで構成されたりリリース 8.1.7 の Oracle8i データベースが、Oracle Internet Directory 2.1.1 をインストールしようとしているコンピュータ上の同じ Oracle ホームにインストールされている場合は、データベースとリスナーの両方が稼働していることを確認します。</div></div><div><div>■ ダウングレード</div><div>Oracle Internet Directory 2.1.1 を 2.0.6 にダウングレードすることではできません。</div></div><div><div>■ UTF8 キャラクタ・セット</div><div>Oracle Internet Directory は、Oracle8i データベースで UTF8 キャラクタ・セットを使用することを必要とします。Oracle8i データベースが現在インストールされていない場合は、「Oracle Internet Directory」インストール・タイプの一環としてこれを作成することをお薦めします。 注意： Oracle8i データベースは、「標準」または「最小」の Oracle8i データベース・インストール・タイプを使用して作成しないでください。Oracle Internet Directory 2.1.1 をインストールする場合は、「Oracle8i Management and Integration」最上位コンポーネントの「Oracle Internet Directory」インストール・タイプを選択します。このインストール・タイプでは、Oracle Internet Directory 2.1.1 インストールの一環として基礎となる適切な Oracle8i データベースが作成されます。</div></div></div>	<div><div>■ 第 5 章「Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール」</div><div>■ 第 5 章「Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール」</div></div>
Oracle Message Broker	<div><div>あるコンピュータで稼働している Oracle Message Broker が別のコンピュータ上の Oracle8i データベースを使用している場合は、NLS_LANG 環境変数を各コンピュータで同じ値または互換性のある値に設定します。</div><div>Oracle Internet Directory がインストールされて稼働しているコンピュータに Oracle Message Broker をインストールする場合は、インストールの前に Oracle Internet Directory プロセスおよび Oracle8i データベースをシャットダウンします。</div></div>	『Oracle Message Broker for Windows NT インストールेशन・ガイド』の第 2 章

コンポーネント	説明	参照
Microsoft 管理 コンソールに 対する Oracle Snap-In	<p>Oracle8i には、Microsoft 管理コンソール (MMC) 用の Snap-In がいくつか付属しています。MMC は、Windows 2000 の組み込み機能ですが、Windows NT 4.0、Windows 95 または Windows 98 では手動でインストールする必要があります。Oracle Snap-In では、実行前に MMC がインストールされている必要があり、使用の構成を行う前に Internet Explorer Version 5 (IE5) がインストールされている必要があります。IE5 をインストールする前に Oracle Snap-Ins をインストールした場合は、IE5 をインストールしてから Oracle Snap-In を再インストールします。次に、この依存性を持つ Oracle Snap-In コンポーネントを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Administration Assistant for Windows NT ■ Oracle Services for Microsoft Transaction Server ■ Oracle Performance Monitor for Windows NT <p>注意： Oracle Administration Assistant for Windows NT をインストールすると、この 3 つの Oracle Snap-In コンポーネントのすべてが自動的にインストールされます。</p>	<p>次の Web サイトで、MMC アドオンをダウンロードします。</p> <p>http://www.microsoft.com</p>
Oracle Workflow	必要なハードウェアおよびソフトウェアが構成されていることを確認します。	『Oracle8i Workflow インストレーション補足』
Active Directory と の Oracle8i の統合	Oracle8i のインストールを実行するユーザーは、正常に統合するためのインストール前の要件を実行する必要があります。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 4 章「Active Directory での Oracle8i ディレクトリ・サーバー機能の使用方法」

コンポーネント	説明	参照
Recovery Manager (Oracle Utilities の一部)	<p>Recovery Manager を使用してディスク以外のメディアにバックアップする場合、Legato Storage Manager (LSM) Server などのメディア管理レイヤーが必要です。LSM Server は CD-ROM に収録されています。LSM Server では、次のシステム構成が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 動作可能プロセッサ: Intel Pentium 200MHz■ 推奨プロセッサ: Intel Pentium 450MHz 以上■ RAM: 128MB■ ハード・ディスク: 64MB■ Windows NT および Windows 95/98 のバックアップ: その他にバックアップ・データ合計の 5% またはオンライン索引用として 100MB <p>注意: システム構成の最低 Oracle8i データベース要件も満たす必要があります。これらの要件の詳細は、3-3 ページの「Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition」を参照してください。</p>	『Oracle8i Legato Storage Manager 管理者ガイド』

単一 Oracle ホーム・コンポーネント

ほとんどの Oracle コンポーネントは、同じコンピュータに複数回インストールできます。ただし、次のコンポーネントは、コンピュータあたり 1 回のみインストールできます。

- Oracle Performance Monitor for Windows NT
- Oracle Objects for OLE
- Oracle ODBC (Open Database Connectivity) Driver
- Oracle Provider for OLE DB
- Oracle SNMP Agent

これらのコンポーネントを 2 回目にインストールしようとする、Oracle Universal Installer は、これらの製品が別の Oracle ホームにインストール済であることを検出し、プロンプトを表示しないでこれらの製品をインストール・プロセスから自動的に削除します。
X:\PROGRAM FILES\ORACLE\INVENTORY\LOGS ディレクトリの INSTALLACTIONS.LOG ファイルに次の情報が記録されます。

```
# product_name is a single oracle home product. It is already installed in
currently_installed_location.
```

インストールを実行しているときに、1 つ以上の単一 Oracle ホーム・コンポーネントが現在のセッションでインストールできないことに気づいた場合は、これらのコンポーネントのいずれか、またはこれらのコンポーネントの古いバージョンが、別の Oracle ホームにインストールされていないかをチェックします。これらのコンポーネントを現在選択している

Oracle ホームにインストールする場合は、競合するバージョンを最初に削除する必要があります。

参照： これらのコンポーネントがインストールされるインストール・タイプは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。

Oracle Enterprise Manager の要件

Oracle Enterprise Manager コンポーネントのインストールを開始する前に、次の要件を検討します。

- [Oracle Management Server の要件](#)
- [Oracle Enterprise Manager の Web ブラウザ要件](#)
- [Oracle Enterprise Manager Paging Server の要件](#)

参照： Oracle Enterprise Manager コンポーネントがインストールされるインストール・タイプは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。

Oracle Management Server の要件

Enterprise Manager フレームワークの中間層である Oracle Management Server は、次の処理を担当します。

- Oracle Enterprise Manager 管理者の認証
- 管理機能の処理
- 管理情報の集中化データ・ストアの提供

Oracle Management Server では、[リポジトリ](#)を使用する必要があります。インストールの前に、既存のリポジトリを使用するか、新規リポジトリを作成するかを決定します。

既存のリポジトリの使用

既存のリリース 2.2 のリポジトリを使用する場合は、これ以上インストール前の手順は不要です。既存のリポジトリが以前のリリース（具体的には、2.0 または 2.1）の場合は、最初に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant リリース 2.2 を実行して、古いリポジトリを最新リリースにアップグレードします。

両方のコンポーネントのすべてのユーザーが Oracle Enterprise Manager ソフトウェア（たとえば、Oracle Enterprise Manager コンソール、DBA Studio、別途ライセンス契約された Management Pack など）をリリース 2.2 にアップグレードするまでは、Oracle Management Server およびリポジトリをアップグレードしないでください。すべての Oracle Enterprise Manager コンポーネントは同じリリースである必要があります。リリース 2.2 を使用するす

すべての Oracle Enterprise Manager コンポーネントをアップグレードする前に Oracle Management Server およびリポジトリをリリース 2.2 にアップグレードした場合、古いバージョンのコンポーネントを新しいリリースとともに使用することはできません。

既存のリポジトリがリリース 1.x の場合、インストール前に特定の手順はありませんが（新しいリリース 2.2 リポジトリの作成は行います）、リリース 1.x のリポジトリを新規に作成したリリース 2.2 のリポジトリに移行できるようにするインストール後の手順がいくつか必要です。

参照：

- リポジトリのアップグレードの詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』の付録 B を参照してください。
- リリース 1.x のリポジトリからリリース 2.2 への移行の詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』の第 7 章を参照してください。

新しいリポジトリの作成

新しいリリース 2.2 のリポジトリを作成する場合は、最初に、新しいリポジトリを作成するデータベースをインストールして起動（または既存の稼働中のデータベースを選択）します。リリース 8.1.7、8.1.6、8.0.6 および 7.3.4 のデータベースは、リリース 2.2 のリポジトリで認定されています。リポジトリをインストールするデータベースが稼働して使用可能になった後で、Oracle Management Server をインストールできます。新しいリポジトリを選択すると、インストール後の構成フェーズ中に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant が自動的に起動して、リポジトリの作成をガイドします。

Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant は、次のインストール・タイプの構成フェーズ中に自動的に起動します。

- Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition の「カスタム」
- Oracle8i Management and Integration の「Oracle Management Server」
- Oracle8i Management and Integration の「カスタム」

ただし、Oracle Management Server を構成する場合は、データベース・サーバーの「標準」インストール・タイプの後にこの Assistant を手動で起動する必要があります。

参照：

- リポジトリの作成の詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』の第 2 章を参照してください。
- リリース 2.2 のリポジトリの初期サイズおよびその拡張のガイドラインは、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』の付録 E を参照してください。

Oracle Enterprise Manager の Web ブラウザ要件

Oracle Enterprise Manager コンソールおよびサポートされている管理アプリケーションを Web ブラウザから実行する場合は、Oracle Enterprise Manager Web Site をインストールします。デフォルトでは、Oracle Enterprise Manager Web Site には、Web リスナーとして機能するように事前に構成された Oracle HTTP Server がバンドルされています。ただし、Oracle Enterprise Manager Web Site は、次の Web サーバーも追加サポートします（標準の Common Gateway Interface (CGI) を使用している Web サーバーは、Oracle Enterprise Manager リリース 2.2 をサポートできます）。

- Oracle Internet Application Server (iAS) for Windows NT/2000 リリース 1.0 以上
- Oracle HTTP Server for Windows NT/2000 リリース 1.3.12（事前構成されて Oracle Enterprise Manager Web Site にバンドル）
- Microsoft Internet Information Server for Windows NT/2000 リリース 4.0 以上
- Apache for Windows NT/Windows 2000 リリース 1.3.9 以上

Oracle Enterprise Manager Web Site には、（243MB の使用可能ハード・ディスク容量以外に）固有のシステム要件はありません。選択された Web サーバーのシステム要件のみです。システム要件については、該当する Web サーバーのドキュメントを参照してください。

参照： Oracle Enterprise Manager Web Site の詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

Oracle Enterprise Manager Paging Server の要件

Oracle Enterprise Manager 管理者がイベントとジョブのステータス変更のページング通知を受信するようにする場合は、外線にダイヤルできるように構成されたモデムが搭載されている Windows NT または Windows 2000 コンピュータに Oracle Enterprise Manager Paging Server をインストールします。

ネットワーク・プロトコル・ベンダーの要件

次の表に、各ネットワーク・プロトコルをサポートしているベンダーを示します。

Net8 プロトコル機能	プラットフォーム	サポートしているベンダー
TCP/IP プロトコル	Windows NT および Windows 95/98	Microsoft TCP/IP
SPX プロトコル	Windows NT および Windows 95/98	<ul style="list-style-type: none">■ Microsoft NW Link for Windows NT、 Windows 95/98■ Novell NetWare Client 32 release 4.1■ Novell IntranetWare Client release 4.1 for Windows NT■ Novell IntranetWare Client release 2.2 for Windows 95 <p>注意： Microsoft NW Link の場合は、Client Service for NetWare がインストールされて いる必要があります。</p>
Named Pipes プロトコル	Windows NT および Windows 95/98	Microsoft NETBEUI
ホスト・ネーミング・ メソッド	Windows NT	Microsoft TCP/IP
NDS ネーミング・ メソッド	Windows NT および Windows 95	<ul style="list-style-type: none">■ Novell NetWare Client 32 release 4.1■ Novell IntranetWare Client release 4.1 for Windows NT■ Novell IntranetWare Client release 2.2 for Windows 95 <p>注意： NetWare release 4.1 には Oracle Server リリース 7.2.2 以降が必要です。</p>
NDS 認証メソッド	Windows NT および Windows 95	<ul style="list-style-type: none">■ Novell NetWare Client 32 release 4.1■ Novell IntranetWare Client release 4.1 for Windows NT■ Novell IntranetWare Client release 2.2 for Windows 95 <p>注意： NetWare release 4.1 には Oracle Server リリース 7.2.2 以降が必要です。</p>
Windows 固有の認証方法	Windows NT および Windows 95/98	Microsoft

データベース作成と Net8 構成の方法の選択

この章では、インストール中に使用できる Oracle8i データベース作成と Net8 クライアント / サーバー構成の方法を説明します。インストールを実行する前に、これらの方法を理解する必要があります。

次の項目について説明します。

- データベース作成とネットワーク構成の方法
- 使用可能なデータベース環境
- データベースの作成方法の選択
- Net8 構成方法の選択

注意： この章では、聞き慣れないネットワーク用語および概念を使用している場合があります。この章で使用される用語の定義は「用語集」を、概念の詳細は『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。

データベース作成とネットワーク構成の方法

Oracle Universal Installer は、インストール中に Oracle8i データベースの作成方法および Net8 クライアント / サーバー・ネットワーキング環境の構成方法をいくつか提供しています。

インストール中に選択する方法は、次の条件に依存します。

- データベース作成とネットワーク構成に関するユーザー自身の知識
- データベースおよびネットワーク環境の要件

インストールを開始する前に、これらの方法を理解する必要があります。この章の情報に目を通すことで、必要に応じた最善のデータベースおよびネットワーク環境を最初から作成、構成することが可能です。

Oracle8i データベースおよび Net8 コンポーネントは、いくつかのインストール・タイプでインストールされます。この表のインストール・タイプで、インストール中にデータベース作成やネットワーク構成にユーザーが入力する必要のある項目を確認してください。◎印は、インストール中に入力要求されるかどうか（なし、最小、多量）を示しています。どのような情報が自動的に作成され、どのような情報を手動で入力する必要があるかについての個々の詳細は、この章の後の項を参照してください。

インストール・タイプ	データベースの作成に必要な ユーザー入力			Net8 の構成に必要なユーザー入力		
	なし	最小	多量	なし	最小	多量
Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition						
■ 標準		◎		◎		
■ 最小		◎		◎		
■ カスタムで次を選択：						
Net8 Client または Net8 Server		該当せず		◎ ¹		◎ ¹
または						
Oracle8i Server			◎		該当せず	

インストール・タイプ	データベースの作成に必要な ユーザー入力			Net8 の構成に必要なユーザー入力		
	なし	最小	多量	なし	最小	多量
Oracle8i Client²						
■ 管理者		該当せず			◎	
■ プログラマ		該当せず			◎	
■ アプリケーション・ユーザー		該当せず			◎	
■ カスタムで次を選択： Net8 Client		該当せず			◎ ¹	◎ ¹
Oracle8i Management and Integration						
■ Oracle Management Server		該当せず			◎	
■ Oracle Internet Directory		◎			◎	
■ Oracle Integration Server		◎			◎	
■ カスタムで次を選択： Oracle8i Server			◎			該当せず

¹ 「カスタム」インストール・タイプで選択すると、ユーザー入力が必要としない構成を作成するか、ユーザー入力を多量に必要とする構成を作成するかを尋ねられます。詳細は、4-8 ページの「[Net8 構成方法の選択](#)」を参照してください。

² Oracle8i データベースは、「Oracle8i Client」最上位コンポーネントではインストールできません。

注意： 上の表で説明した「Oracle Internet Directory」インストール・タイプを選択すると、Oracle8i データベースが現在インストールされていない場合、データベースは自動的に同じホームにインストールされます。このデータベースは、Oracle Internet Directory 情報を格納する目的のみに使用してください。「Oracle Integration Server」インストール・タイプを選択し、Oracle8i データベースが現在の Oracle ホームにインストールされていない場合は、「標準」インストール・タイプでインストールされるデータベースと同じデータベースが自動的にインストールされます。

注意： Net8 Server および Net8 Client は、Oracle8i Management and Integration の「カスタム」インストール・タイプでは選択的にインストールできません。Net8 コンポーネントは、Oracle8i Management and Integration の「Oracle Management Server」、「Oracle Internet Directory」および「Oracle Integration Server」インストール・タイプでは自動的にインストールされます。

使用可能なデータベース環境

Oracle Universal Installer では、次の環境のいずれかで稼働する Oracle8i データベースを作成できます。自分の Oracle8i データベースに適した環境を識別してください。

環境	説明
OLTP (Online Transaction Processing)	多数のユーザーが同時に多数のトランザクションを実行し、データへの迅速なアクセスを必要としています。可用性、スピード、並行性およびリカバリ可能性が、重要な問題となります。 トランザクションは、データベース表のデータの読み込み (SELECT 文)、書き込み (INSERT 文と UPDATE 文) および削除 (DELETE 文) から構成されています。
データ・ウェアハウス	ユーザーは、大量のデータを処理する複雑な問合せを大量に実行します。応答時間、正確さおよび可用性が重要な問題となります。 これらの問合せ (通常は読み取り専用) は、数レコードの単純なフェッチから、多数の異なる表から数千レコードをソートする大量の複雑な問合せにまで及びます。データ・ウェアハウス環境は、DSS (意思決定支援システム) 環境としても知られています。
汎用	このデータベースには、両方のタイプのアプリケーション (OLTP、データ・ウェアハウス) がアクセスできます。

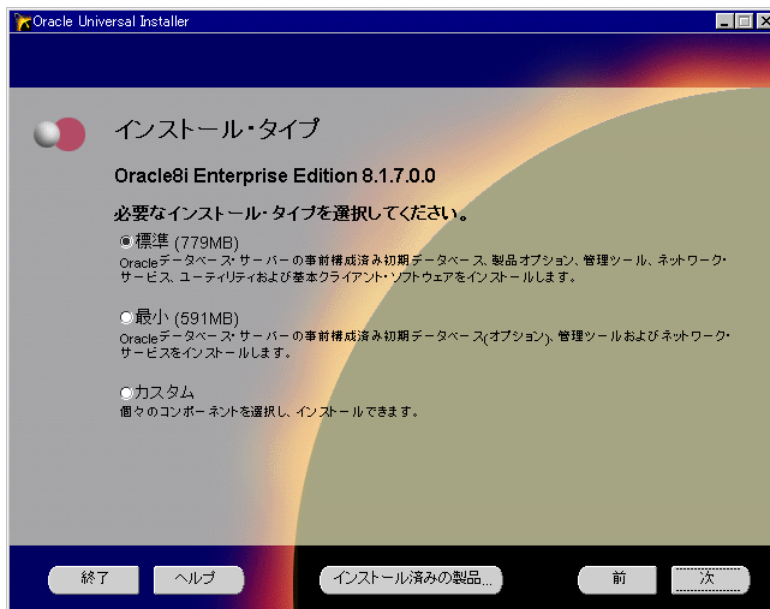
参照： データベースの選択に影響する初期化ファイル・パラメータの詳細は、Oracle Database Configuration Assistant のオンライン・ヘルプを参照してください。

データベースの作成方法の選択

Oracle Database Configuration Assistant は、OLTP、データ・ウェアハウスまたは汎用環境用に Oracle8i データベースを作成できるツールです。Oracle Database Configuration Assistant は、インストール・プロセスの一環として Oracle8i データベースを作成することを選択した場合に Oracle Universal Installer によって自動的に起動されます。インストール後に独立したツールとして手動で実行することもできます。

注意： この章では、Oracle Universal Installer からの Oracle Database Configuration Assistant の実行を説明します。スタンドアロン・モードでの Oracle Database Configuration Assistant の実行については、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」を参照してください。スタンドアロン・モードでのこのツールの起動手順は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 2 章「データベース・ツールの概要」を参照してください。

Oracle Universal Installer を実行し、「使用可能な製品」ウィンドウで「Oracle8i Enterprise Edition」、「Oracle8i」または「Oracle8i Personal Edition」を選択すると、「インストール・タイプ」ウィンドウに3種類のインストール・タイプが表示されます。各インストール・タイプで、Oracle8i データベースを作成できます。



「標準」、「最小」および「カスタム」インストール・タイプで作成されるデータベースのタイプ（OLTP、データ・ウェアハウスおよび汎用）と必要なユーザー入力の量を次の表に示します。これらの選択肢を確認して、自分のデータベース要件やデータベース作成知識に最も適したデータベースを特定してください。

実行手順	結果
1. 「標準」インストール・タイプを選択します。	<p>インストールの最後に Oracle Database Configuration Assistant が自動的に起動し、構成済の即時利用可能な汎用初期データベースを作成します。次に、初期データベースの構成を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ デフォルトの初期化パラメータ■ Oracle8i JVM、Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval および Oracle <i>interMedia</i> の各コンポーネントの自動インストールおよび構成¹■ Advanced Replication 機能■ 専用サーバー・モードに構成されたデータベース²■ NOARCHIVELOG に設定されたアーカイブ・モード <p>Oracle Database Configuration Assistant の起動前に入力を要求されるグローバル・データベース名と SID 以外は、ユーザーは入力する必要ありません。</p>
1. 「最小」インストール・タイプを選択します。 2. 初期データベースを作成するかどうかを尋ねられたら「はい」を選択します。 注意： 「いいえ」を選択すると、すべてのサーバー・コンポーネントがインストールされますが、データベースは作成されません。データベースは、後で Oracle Database Configuration Assistant または SQL スクリプトを手動で実行して作成できます。手順は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」を参照してください。	<p>インストールの最後に Oracle Database Configuration Assistant が自動的に起動され、「標準」インストール・タイプを選択した場合と同じ Oracle8i データベースが作成されます。違いは、「最小」インストール・タイプでは Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval および Oracle <i>interMedia</i> の各コンポーネントのインストールと構成が行われないことです。これらのコンポーネントを Oracle8i データベースとともに使用する場合は、「カスタム」インストール・タイプを使用して別途インストールし、Oracle Database Configuration Assistant を使用して手動で構成するか、スクリプトを実行して構成する必要があります。</p>

実行手順	結果
1. 「カスタム」インストール・タイプを選択します。	Oracle Database Configuration Assistant により、選択した環境（OLTP、データ・ウェアハウスまたは汎用）や構成モード（専用サーバーまたはマルチスレッド・サーバー）に即してカスタマイズされたデータベースの作成をガイドされます。Oracle8i JVM、Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval、Oracle <i>interMedia</i> （インストールする場合）および Advanced Replication（選択した場合）は、自動的に構成されます。このオプションは、次に示す設定のカスタマイズなどの高度なデータベース作成手順の経験がある場合のみ、選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ データ、制御および REDO ログ・ファイル設定■ 表領域およびエクステンツのサイズ■ データベース・メモリー・パラメータ■ アーカイブのモード、形式および宛先■ トレース・ファイルの宛先■ キャラクタ・セットの値
2. 「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウで Oracle8i Server および追加の製品を選択します。	
3. 初期データベースを作成するかどうかを尋ねられたら「はい」を選択します。	
Oracle Database Configuration Assistant により、データベース環境を選択するよう要求されます。	
Online Transaction Processing	
データ・ウェアハウス	
汎用	

¹ Oracle Database Configuration Assistant は、Oracle Universal Installer でインストールされたコンポーネントのみを構成します。また、使用している Oracle8i データベースタイプで使用可能なコンポーネントは、購入したデータベース・タイプによって決まります。

² 専用サーバー・モードとマルチスレッド・サーバー・モード（共有サーバー・モードともいう）の説明は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」を参照してください。

注意：「標準」インストール・タイプで作成された Oracle8i データベースは、「Oracle Integration Server」または「Oracle Internet Directory」インストール・タイプを選択し、指定した Oracle ホームに Oracle8i データベースが現在インストールされていない場合にも作成されます。

Net8 構成方法の選択

Net8 Configuration Assistant は、Oracle クライアントが Oracle8i データベースに接続できるようなネットワーク環境の構成を可能にするツールです。Net8 Configuration Assistant は、大部分のインストール・タイプで、Oracle Universal Installer から自動的に起動でき、独立したツールとして手動でも起動できます。

注意： この章では、Oracle Universal Installer からの Net8 Configuration Assistant の実行を説明します。スタンドアロン・モードでの Net8 Configuration Assistant の実行については、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』または Net8 Configuration Assistant のオンライン・ヘルプを参照してください。スタンドアロン・モードでのこのツールの起動手順は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 2 章「データベース・ツールの概要」を参照してください。

選択したインストール・タイプに応じて、Net8 Configuration Assistant は、次の 2 つの方法のいずれかでネットワークを構成します。

- 標準のデータベース接続方法用にネットワークを自動的に構成
- ユーザーに入力を要求して、カスタマイズされたネットワークを作成

構成作業は、ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥NETWORK¥ADMIN ディレクトリにある一連のネットワーク・ファイルの作成と変更で成り立ちます。

サーバーのネットワーク構成

次に、サーバーのインストール・タイプで作成されるネットワーク構成の種類と、必要とされるユーザー入力を示します。これらの選択肢を確認して、自分の要件やネットワーク構成の知識に最も適したネットワーク構成を特定してください。

実行手順	結果
1. 「Oracle8i Enterprise Edition」、「Oracle8i」または「Oracle8i Personal Edition」を選択します。	Net8 Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、Net8 サーバー環境を自動的に作成します。 <ul style="list-style-type: none">■ LISTENER.ORA ファイル Oracle8i データベース用（オペレーティング・システムの推奨プロトコル、通常はポート 1521 上の TCP/IP を使用）と外部ルーチン用（IPC プロトコルを使用）の両方のプロトコル・アドレスを持つ LISTENER という名前のリスナーを構成します。 外部ルーチン用のサービス情報を構成します。■ TNSNAMES.ORA ファイル 外部ルーチン用使用するネット・サービス名を TNSNAMES.ORA ファイルに作成します。■ SQLNET.ORA ファイル オペレーティング・システム認証済接続（OPSS\$）を受け入れるようデータベースを構成します。 サーバーのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれているドメイン）として構成します。このドメインは、未修飾のネット・サービス名に自動的に付加されます。 サーバーが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。
2. 「標準」または「最小」インストール・タイプを選択します。	Oracle8i データベースの正常な作成中に、Oracle Database Configuration Assistant は追加の Net8 サーバー情報を次のファイルに自動的に構成します。 <ul style="list-style-type: none">■ LISTENER.ORA ファイル Oracle8i データベース用のサービス情報を構成します。 <p>注意：「標準」および「最小」インストール・タイプでは、LDAP（lightweight directory access protocol）準拠のディレクトリ・サーバーへのアクセスは構成できません。ディレクトリ・サーバーの構成は、「カスタム」インストール・タイプでしかできません。</p> <p>注意： Oracle Database Configuration Assistant は、Oracle Parallel Server インストール用の追加情報を構成します。詳細は、『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』を参照してください。</p>

選択するインストール・タイプ	結果
1. 「Oracle8i Enterprise Edition」、 「Oracle8i」または 「Oracle8i Personal Edition」を選択します。	Net8 Configuration Assistant により、まず次のことを要求されます。 <ul style="list-style-type: none">■ 完全なディレクトリ・サーバー・アクセス構成。ディレクトリ・サーバーのタイプと位置、サーバーがネット・サービス名を参照、作成および変更できる管理コンテキストの入力を含みます。¹■ データベース接続用に使用するリスナーの作成とネットワーク・プロトコルの選択。
2. 「カスタム」を選択します。	<ul style="list-style-type: none">■ 構成したネーミング・メソッドを変更する場合に選択します。デフォルトでは、ローカル・ネーミング・メソッドが構成されます。これにより、Oracle8i データベースは、自身に接続するため、およびクライアント・プログラムがローカル・ネーミングを使用してこのデータベースまたは他のデータベースに接続できるようにするために、TNSNAMES.ORA ファイルを使用できるようになります。
3. 「Net8 Server」および「Net8 Client」を選択します。	<p>続いて Net8 Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、Net8 サーバー環境を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ LISTENER.ORA ファイル 選択した名前とプロトコル・アドレスを持つリスナーを構成します。さらに、外部ルーチン用のプロトコル・アドレスとサービス情報が構成されます。■ SQLNET.ORA ファイル オペレーティング・システム認証済接続（OPSS\$）を受け入れるようデータベースを構成します。 サーバーのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれているドメイン）として構成します。このドメインは、未修飾のネット・サービス名に自動的に付加されます。 サーバーが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。■ TNSNAMES.ORA ファイルおよび LISTENER.ORA ファイル 外部ルーチン接続用のネット・サービス名エントリを作成します。■ LDAP.ORA ファイル（完全なディレクトリ・サーバー・アクセス構成を選択した場合） ディレクトリ・サーバー・タイプを識別してディレクトリ・サーバー・アクセスを構成します。ディレクトリ位置と管理コンテキストも識別できます。サーバーは、このコンテキストからデータベース・サービス名エントリおよびネット・サービス名エントリを参照、作成および変更できます。 <p>Oracle8i データベースの正常な作成中に、Oracle Database Configuration Assistant は追加の Net8 サーバー情報を次のファイルに自動的に構成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ LISTENER.ORA ファイル Oracle8i データベース用のサービス情報を構成します。

¹ この Oracle ホームがディレクトリ・サーバー・アクセス用に構成されていない場合に、この情報の入力を要求されます。

クライアントのネットワーク構成

次に、クライアントのインストール・タイプで作成されるネットワーク構成の種類と、必要とされるユーザー入力を示します。これらの選択肢を確認して、自分の要件やネットワーク構成の知識に最も適したネットワーク構成を特定してください。

実行手順	結果
1. 「Oracle8i Client」を選択します。	Net8 Configuration Assistant により、まず次の方法のいずれかを選択するよう要求されます。この方法により、Oracle8i データベースへのアクセスが構成されます。
2. 「管理者」、「プログラマ」または「アプリケーション・ユーザー」を選択します。	<ul style="list-style-type: none">■ ディレクトリ・ネーミング ディレクトリ・サーバー。■ ローカル・ネーミング ネット・サービス名により、クライアントを Oracle8i データベースに接続できます。 <p>選択内容に応じて、追加情報を入力するよう要求されます。</p> <p>続いて Net8 Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、Net8 クライアント環境を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ LDAP.ORA ファイル（上でディレクトリ・ネーミングが選択された場合） ディレクトリ・サーバー・タイプを識別してディレクトリ・サーバー・アクセスを構成します。ディレクトリ位置と管理コンテキストも識別できます。クライアントは、このコンテキストからネット・サービス名を参照できます。■ TNSNAMES.ORA ファイル ネット・サービス名（上でローカル・ネーミング・メソッドが選択された場合）を構成します。■ SQLNET.ORA ファイル クライアントのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれているドメイン）として構成します。このドメインは、接続文字列で指定される未修飾のネット・サービス名に自動的に付加されます。 クライアントが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。

実行手順	結果
1. 「Oracle8i Client」を選択します。	Net8 Configuration Assistant により、まず次のことを要求されます。
2. 「カスタム」を選択します。	<ul style="list-style-type: none">■ 完全なディレクトリ・サーバー・アクセス構成。ディレクトリ・サーバーのタイプと位置、クライアントがネット・サービス名を参照、作成および変更できる管理コンテキストの入力を含みます。¹
3. 「Net8 Client」を選択します。	<ul style="list-style-type: none">■ データベースへの接続に使用するネーミング・メソッドを選択します。たとえば、ローカル・ネーミング・メソッドを選択すると TNSNAMES.ORA ファイルを使用できるようになります。選択内容に応じて、追加情報を入力するよう要求されます。ローカル・ネーミング・メソッドの場合は、ネット・サービス名、データベース SID、使用するネットワーク・プロトコルの入力を要求されます。 <p>続いて Net8 Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、Net8 クライアント環境を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ SQLNET.ORA ファイル オペレーティング・システム認証済接続（OPS\$）を要求するようクライアントを構成します。 クライアントのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれているドメイン）として構成します。このドメインは、未修飾の名前に自動的に付加されます。 クライアントが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。■ TNSNAMES.ORA ファイル ネット・サービス名（Oracle8i データベースに接続するために上でローカル・ネーミング・メソッドが選択された場合）を構成します。■ LDAP.ORA ファイル（上でディレクトリ・アクセス構成が選択された場合） ディレクトリ・サーバー・タイプを識別してディレクトリ・サーバー・アクセスを構成します。ディレクトリ位置と管理コンテキストも識別できます。

¹ この Oracle ホームがディレクトリ・サーバー・アクセス用に構成されていない場合に、この情報の入力を要求されます。

Oracle コンポーネントおよびドキュメントのインストール

この章では、Oracle コンポーネントのインストール方法を説明します。

次の項目について説明します。

- [Windows NT と UNIX でのインストールの相違](#)
- [キーボード・ナビゲーション](#)
- [インストール前の作業](#)
- [Oracle コンポーネントのインストール](#)

Windows NT と UNIX でのインストールの相違

UNIX 環境で Oracle コンポーネントをインストールした経験のあるデータベース管理者は、UNIX で必要な手動セットアップ作業の多くが、Windows NT では必要ないことに注意する必要があります。たとえば、Windows NT では次の作業を手動で行う必要はありません。

- 環境変数の設定
 - データベース管理者用の UNIX DBA グループの作成
 - Oracle Universal Installer を実行しているユーザー用の UNIX グループの作成
 - Oracle コンポーネントのインストールとアップグレード専用の UNIX アカウントの作成
- Windows NT で必要なインストール前の作業はすべてこの章で説明します。

キーボード・ナビゲーション

このガイドでは、マウスを使用して Oracle Universal Installer ウィンドウをナビゲートする方法を説明します。キーボード・コマンドを使用してナビゲートすることもできます。Windows オペレーティング・システムには、Oracle Universal Installer で使用できる一連のキーボード・コマンドがあります。たとえば、[Tab] キーを使用して、ウィンドウの項目から項目へナビゲートできます。Oracle Universal Installer には、階層ツリーのコンポーネントをナビゲートする必要があるウィンドウがいくつか含まれています。これらのウィンドウには、次のものがあります。

- 「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウ（インストールできるコンポーネントのリスト）
- 「サマリー」ウィンドウ（インストールしようとしているコンポーネントのリスト）
- 「インベントリ」ウィンドウ（インストールされているコンポーネントのリスト）

次の表に、これらのウィンドウをキーボード・コマンドを使用してナビゲートする方法を説明します。

目的	使用するキー
コンポーネントのリストを上下に移動します。	上矢印および下矢印
拡張可能なコンポーネント・ツリーを開きます。	右矢印
拡張可能なコンポーネント・ツリーを閉じます。	左矢印
コンポーネントを選択または選択解除します。	スペース・バー

参照： 標準のキーボード・ナビゲーション・コマンドは、Microsoft の Web サイトを参照してください。
<http://www.microsoft.com>

インストール前の作業

Oracle コンポーネントをインストールする前に、次の作業を実行します。

インストール前の作業を実行するには、次の手順に従います。

1. インストールを開始する前に、必ず第3章「インストール要件」にある適切なシステム要件やコンポーネント要件を確認し、これを満たします。
2. オペレーティング・システムを起動します。
3. Windows NT にインストールする場合は、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータに対する Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

注意： 環境に手動で ORACLE_HOME を設定しないでください。
ORACLE_HOME はレジストリに自動的に設定されます。環境に ORACLE_HOME を設定する必要はなく、お薦めできません。設定すると、複数の Oracle ホーム環境が正しく機能しなくなります。詳細は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第3章「複数の Oracle ホームおよび Optimal Flexible Architecture」を参照してください。

4. 移行またはアップグレードするデータベースをバックアップしたことを確認します。
5. 使用するネットワーク・ハードウェアおよびソフトウェアは、必要に応じてインストールおよびテストしておきます。
6. Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホームに対する Oracle サービスが実行されていれば、すべて停止します。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
 - b. 「開始」の状態の Oracle サービス（Oracle で始まる名前）があればそのサービスを選択し、「停止」を選択します。特に、Oracle リスナー・サービス（8.1 データベースの場合は OracleHOME_NAMETNSListener、8.0 データベースの場合は OracleTNSListener80、7.3 データベースの場合は OracleTNSListener という名前）は必ず停止してください。
 - c. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
7. コンポーネント CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

「Autorun」ウィンドウが自動的に表示されます。「Autorun」ウィンドウが表示されない場合は、次の操作を行います。

 - a. 「スタート」→「実行」を選択します。

- b. 次のコマンドを入力します。

```
DRIVE_LETTER:¥AUTORUN¥AUTORUN.EXE
```

「Autorun」ウィンドウが表示されます。

8. Oracle コンポーネントのインストール手順は、5-4 ページの「[Oracle コンポーネントのインストール](#)」を参照してください。

Oracle コンポーネントのインストール

Oracle8i コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

注意： 古い Oracle Installer（リリース 7.x や 8.0.x とともに出荷された Oracle Universal Installer 前のもの）を使用した、リリース 8.1 Oracle ホーム・ディレクトリへのコンポーネントのインストールは、サポートされません。同様に、リリース 8.1.7 のコンポーネントは、リリース 7.x、8.0.x、8.1.3 または 8.1.4 の Oracle ホームにはインストールできません。

注意： Oracle Universal Installer により、JRE（Java Runtime Environment）の Oracle バージョンが自動的にインストールされます。このバージョンは、Oracle Universal Installer およびいくつかの Oracle Assistant を実行する必要があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターの提供するパッチ以外で JRE を変更しないでください。

Oracle コンポーネントをインストールするには、次の手順に従います。

1. 5-3 ページの「[インストール前の作業](#)」で説明されるインストール前の手順に従っていることを確認します。
2. 「Autorun」ウィンドウから「インストールを開始」を選択します。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
3. 「次」を選択します。
「ファイルの場所」ウィンドウが表示されます。「ソース」フィールド内のディレクトリ・パスは変更しないでください。これは、インストール用のファイルの CD-ROM 上の位置です。
4. 「インストール先」フィールドに、Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホーム名とディレクトリ・パスを入力します。Oracle Parallel Server をインストールする場合は、クラスタのすべてのノードが同じ Oracle ホームを持ちます。

ホーム名の長さは最大 16 文字で、英数字とアンダースコアのみを含める必要があります。デフォルトのディレクトリ・パスは、
< 空き領域が最大のドライブ >:\ORACLE\ORA81 です。空白を含めることはできません。

注意： 8.1.x の前のリリースで作成した Oracle ホームがある場合は、デフォルトのインストール位置を別の場所に変更する必要があります。

注意： すでに Oracle リリース 8.1.7 のクライアント・ソフトウェアが格納されている Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition をインストールする場合、リスナーは作成されません。リスナーを作成するには、別の Oracle ホームに 2 番目のインストールを実行する必要があります。

5. 「次」を選択します。
「使用可能な製品」ウィンドウが表示されます。
6. インストールする最上位の Oracle コンポーネントを選択し、「次」を選択します。
7. 手順 6 で行った選択に基づいて、適切な項目を参照してください。

選択したオプション	参照先
Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	5-6 ページの「 Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition 」
注意： 表示される最上位コンポーネント名は、購入した Oracle8i データベースの種類によって決まります。	
Oracle8i Client	5-16 ページの「 Oracle8i Client 」
Oracle8i Management and Integration	5-19 ページの「 Oracle8i Management and Integration 」

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition

注意：「Oracle8i Enterprise Edition」、「Oracle8i」または「Oracle8i Personal Edition」インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、A-2 ページの「[Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition コンポーネント](#)」を参照してください。

5-5 ページの手順 6 で [Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition](#) を選択した場合は、「インストール・タイプ」ウィンドウが表示されます。

- 1. インストールするインストール・タイプを選択し、「次」を選択します。
- 2. 手順 1 で行った選択に基づいて、適切な項目を参照してください。

選択したオプション	参照先
標準	5-6 ページの「標準」
最小	5-10 ページの「最小」
カスタム	5-13 ページの「カスタム」

標準

5-6 ページの手順 1 で「標準」を選択した場合に表示されるウィンドウは、使用しているコンピュータの構成および現在インストールされている Oracle コンポーネントによって決まります。

- 1. 使用しているコンピュータがクラスタの一部として検出されている場合は、「クラスタ・ノードの選択」ウィンドウが表示されます。Oracle Parallel Server ソフトウェアをインストールするクラスタ・ノードを選択し、「次」を選択します。
- 2. コンピュータで Oracle データベースが検出されているかどうかに応じて、適切な手順に進みます。

条件	結果	次に進む手順
コンピュータで 8.1.7 より前の Oracle データベースが検出されている場合	「既存データベースのアップグレードまたは移行」ウィンドウが表示され、Oracle Data Migration Assistant でデータベースを移行またはアップグレードするよう要求されます。	手順 3

条件	結果	次に進む手順
コンピュータで Oracle データベースが検出されていない場合	「データベースの識別」ウィンドウが表示され、Oracle8i データベースのグローバル・データベース名および SID を入力するよう要求されます。	手順 4

3. データベースを最新リリースにアップグレードまたは移行するかどうかを選択します。

目的	操作
アップグレードまたは移行する	<ol style="list-style-type: none"> 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオンにし、最新の Oracle8i データベース・リリースにアップグレードまたは移行するデータベースの SID を選択します。 「次」を選択します。 「サマリー」ウィンドウが表示されます。 手順 6 に進みます。
アップグレードまたは移行しない	<ol style="list-style-type: none"> 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオフにします。 「次」を選択します。 「データベースの識別」ウィンドウが表示されます。 手順 4 に進みます。

4. グローバル・データベース名と SID を、表示されたフィールドに入力します。

フィールド名	入力内容
グローバル・データベース名	<p>データベースをネットワーク・ドメインの他のデータベースと一意に区別する完全データベース名です。次に、例を示します。</p> <p><code>sales.us.acme.com</code></p> <p><code>sales</code> はデータベースに付ける名前、<code>us.acme.com</code> はデータベースが置かれているネットワーク・ドメインです。</p>

フィールド名	入力内容
SID	データベースをコンピュータ上の他のデータベースと一意に区別するデータベース・インスタンス名です。SID は、デフォルトでは自動的にグローバル・データベース名のデータベース名部分のうち 8 文字またはピリオドに達するまでの部分（前出の例では、sales）になります。デフォルト値を受け入れるか、または変更もできます。 注意： Oracle Parallel Server では、入力した SID が識別子に自動的に追加されます。たとえば、OP と入力した場合は、クラスタの最初のインスタンスに OP1 という SID が設定され、2 番目のインスタンスに OP2 という SID が設定されます。

この情報は、インストール後に Oracle Database Configuration Assistant によってデータベースが作成される際に使用されます。

5. 「次」を選択します。
- 「サマリー」ウィンドウが表示されます。
6. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
7. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、データベースおよびネットワーク環境を作成および構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを自動的に構成します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-9 ページの「 サーバーのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Database Configuration Assistant	<div><div>■</div>現在指定されている Oracle ホームに Oracle データベースがインストールされていない場合</div> <div><div>■</div>手順 3 のプロンプトで、検出されたデータベースを移行またはアップグレードするよう選択しなかった場合</div>	Oracle8i リリース 8.1.7 データベースを自動的に作成します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-4 ページの「 データベースの作成方法の選択 」を参照してください。

ツール	起動する条件	動作
Oracle Data Migration Assistant	手順 3 のプロンプトで、検出されたデータベースを移行またはアップグレードするよう選択した場合	選択されたデータベースを Oracle8i リリース 8.1.7 に移行またはアップグレードします。
Oracle HTTP Service の起動	すべての場合	HTTP リスナーを現在のセッションのスタンドアロン・プロセスとして作成および起動します。OracleHOME_NAMEHTTPServer サービスは、コンピュータの再起動後に起動します。

「構成ツール」ウィンドウには、これらの Assistant の実行結果が表示されます。

注意： Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant は、インストールの最後に、Oracle Management Server を構成するため、または Oracle Management Server サービスを作成するために自動的に起動しません。インストール後に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant を手動で起動して、インストールされた Oracle Management Server を使用する必要があります。この Assistant は、リリース 2.2 リポジトリの作成、構成パラメータの編集、既存のリリース 2.2 リポジトリの削除、またはリリース 2.0 や 2.1 のリポジトリから 2.2 へのアップグレードを行います。詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

注意： Oracle Database Configuration Assistant と Oracle Data Migration Assistant は、同一のインストール・セッションでは実行されません。

8. 「次」を選択して操作を続けます。
「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。
9. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

最小

5-6 ページの手順 1 で「最小」を選択した場合に表示されるウィンドウは、現在インストールされている Oracle コンポーネントによって決まります。

- 1. コンピュータで Oracle データベースが検出されているかどうかに応じて、適切な手順に進みます。

条件	結果	次に進む手順
コンピュータで 8.1.7 より前の Oracle データベースが検出されている場合	「既存データベースのアップグレードまたは移行」ウィンドウが表示され、Oracle Data Migration Assistant でデータベースを移行またはアップグレードするよう要求されます。	手順 2
コンピュータで Oracle データベースが検出されていない場合	「初期データベースの選択」ウィンドウが表示され、Oracle8i データベースのインストールを要求されます。	手順 3

- 2. データベースを最新リリースにアップグレードまたは移行するかどうかを選択します。

目的	操作
アップグレードまたは移行する	<ul style="list-style-type: none">1. 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオンにし、最新の Oracle8i データベース・リリースにアップグレードまたは移行するデータベースの SID を選択します。2. 「次」を選択します。 「サマリー」ウィンドウが表示されます。3. 手順 6 に進みます。
アップグレードまたは移行しない	<ul style="list-style-type: none">1. 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオフにします。2. 「次」を選択します。 「初期データベースの選択」ウィンドウが表示されます。3. 手順 3 に進みます。

3. Oracle8i データベースをインストールするには、「はい」を選択します。インストールしない場合は、「いいえ」を選択し、手順 6 に進みます。「いいえ」を選択すると、データベース以外のすべてのサーバー・コンポーネントがインストールされます。データベースは、後で Oracle Database Configuration Assistant を手動で実行するか、独自の SQL スクリプトを使用して作成できます。

「はい」を選択した場合は、「データベースの識別」ウィンドウが表示されます。

4. グローバル・データベース名と SID を、表示されたフィールドに入力します。

フィールド名	入力内容
グローバル・データベース名	データベースをネットワーク・ドメインの他のデータベースと一意に区別する完全データベース名です。次に、例を示します。 sales.us.acme.com sales はデータベースに付ける名前、us.acme.com はデータベースが置かれているネットワーク・ドメインです。
SID	データベースをコンピュータ上の他のデータベースと一意に区別するデータベース・インスタンス名です。SID は、デフォルトでは自動的にグローバル・データベース名のデータベース名部分のうち 8 文字またはピリオドに達するまでの部分（前出の例では、sales）になります。デフォルト値を受け入れるか、または変更もできます。

この情報は、インストール後に Oracle Database Configuration Assistant によってデータベースが作成される際に使用されます。

5. 「次」を選択します。
「サマリー」ウィンドウが表示されます。
6. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
7. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、それまでの選択内容に応じてデータベースおよびネットワーク環境を作成および構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを自動的に構成します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-9 ページの「 サーバーのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Database Configuration Assistant	手順 3 でプロンプトに「はい」と答えて Oracle8i データベースをインストールする場合	Oracle8i リリース 8.1.7 データベースを自動的に作成します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-4 ページの「 データベースの作成方法の選択 」を参照してください。
Oracle Data Migration Assistant	手順 2 のプロンプトで、検出されたデータベースを移行またはアップグレードするよう選択した場合	選択されたデータベースを Oracle8i リリース 8.1.7 に移行またはアップグレードします。
Oracle HTTP Service の起動	すべての場合	HTTP リスナーを現在のセッションのスタンドアロン・プロセスとして作成および起動します。 OracleHOME_NAMEHTTPServer サービスは、コンピュータの再起動後に起動します。

「構成ツール」ウィンドウには、これらの Assistant の実行結果が表示されます。

注意： Oracle Database Configuration Assistant と Oracle Data Migration Assistant は、同一のインストール・セッションでは起動されません。

8. 「次」を選択して操作を続けます。
- 「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。
9. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

カスタム

5-6 ページの「**Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition**」の手順 **1** で「カスタム」を選択した場合は、「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウが表示されます。「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウの「インストール状況」列には、インストールに使用できるすべてのコンポーネントの状態が表示されます。

状態	コンポーネントの状態
インストール済	すでにインストールされています。
新規インストール	インストールするよう初めて選択されました。
未インストール	現在インストールされておらず、インストールするよう選択されてもいません。
再インストール	現在インストールされていますが、再インストールするよう選択されています。
アップグレード	現在インストールされていますが、アップグレードされます（たとえば、以前のデータベース・リリース）。

1. インストールするコンポーネントに対応するチェック・ボックスがチェックされていることを確認します。

注意： インストールするコンポーネントを選択または選択解除する場合は注意してください。チェック・ボックスがチェックされていないと、コンポーネントはインストールされません。

2. 「次」を選択します。
「コンポーネントの場所」ウィンドウが表示され、いくつかのコンポーネントをインストールする代替位置を選択できます。
3. デフォルト位置を受け入れるには、「次」を選択します。そうでない場合は、コンポーネントを選択して、デフォルト位置を変更するためのテキスト・ボックスを使用可能にします。
4. 手順 **1** で次のコンポーネントのいずれかを選択した場合は、要求に応じて適切な応答を入力します。大部分のコンポーネントは、追加情報の入力を要求されることなくインストールされることに注意してください。

選択したオプション	要求の有無
Net8 Client	<p>情報の入力には要求されません。ただし、インストールの最後に Net8 Configuration Assistant が起動し、現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合はサーバー・ネットワーク・ファイルを構成します。</p> <p>注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。</p> <p>参照： 実行される構成手順の詳細は、4-9 ページの「サーバーのネットワーク構成」を参照してください。</p>
Oracle Advanced Security	<p>Oracle でサポートする認証方式を選択するよう要求されます。選択項目として、Kerberos、SecurID および Radius が自動的に表示されます。Identix、CyberSafe および Entrust は、適切なサードパーティ・ソフトウェアがインストールされている場合にのみ表示されます。</p>
Oracle Management Server	<p>既存のリポジトリと新しいリリース 2.2 リポジトリのどちらを使用するかを選択するよう要求されます。表示されるウィンドウの説明は、5-19 ページの「Oracle Management Server」を参照してください。</p> <p>参照： 詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。</p>
Oracle Parallel Server	<p>ソフトウェアをインストールするクラスタ・ノードの選択を要求されます。</p> <p>注意： このコンポーネントは、使用しているコンピュータがクラスタの一部として検出されている場合にのみ選択項目として表示されます。</p>
Oracle Protocol Support	<p>Oracle でサポートを提供するネットワーク・プロトコル・アダプタを選択するよう要求されます。このウィンドウの「Status」列の説明は、オンライン・ヘルプを参照してください。</p>
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	<p>インストール後に Microsoft Transaction Server をインストールするよう要求されます（現在インストールされていない場合）。</p>

選択したオプション	要求の有無
Oracle8i Server	<p>次のことを要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ データベースの作成（移行を選択していない場合）。インストールの最後に Oracle Database Configuration Assistant が起動し、データベースの作成を順を追って指示します。■ 作成するデータベースのグローバル・データベース名および SID の入力。 <p>参照： 実行できるデータベース構成手順の説明は、4-4 ページの「データベースの作成方法の選択」を参照してください。</p> <p>注意： ハードディスク・ドライブで以前のリリースの Oracle データベースが検出された場合、Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 にアップグレードまたは移行するよう要求されます。インストールの最後に Oracle Data Migration Assistant が起動し、データベースのアップグレードまたは移行を順を追って指示します。</p>

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

5. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
6. 選択したコンポーネントがインストールされ、構成ツールが実行を完了するまで待ちます。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

7. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle8i Client

注意： 最初に Windows 95 または 98 に Oracle をインストールした後は、コンピュータを再起動します。その後のインストールでは、Oracle ホームを変更した場合にのみ再起動する必要があります。

注意： 各「Oracle8i Client」インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、A-9 ページの「[Oracle8i Client のコンポーネント](#)」を参照してください。

5-5 ページの手順 6 で [Oracle8i Client](#) を選択した場合は、「インストール・タイプ」ウィンドウが表示されます。

- 1. インストールするインストール・タイプを選択し、「次」を選択します。
- 2. 手順 1 で行った選択に基づいて、適切な項目を参照してください。

選択したオプション	参照先
「管理者」、「プログラマ」、 「アプリケーション・ユーザー」	5-16 ページの「 管理者 」、「 プログラマ 」、「 アプリケーション・ユーザー 」
カスタム	5-17 ページの「 カスタム 」

「管理者」、「プログラマ」、「アプリケーション・ユーザー」

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

- 1. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
- 2. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合は、「構成ツール」ウィンドウが表示され、Net8 Configuration Assistant が起動し、Oracle8i データベースへのクライアント・アクセスを構成する方法を選択するよう要求されます。この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。

- 3. Oracle8i データベースへのクライアント・アクセスの構成方法を選択します。選択の詳細は、オンライン・ヘルプおよび 4-11 ページの「[クライアントのネットワーク構成](#)」を参照してください。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

4. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

カスタム

5-16 ページの「[Oracle8i Client](#)」の手順 1 で「カスタム」を選択した場合は、「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウが表示されます。「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウの「インストール状況」列には、インストールに使用できるすべてのコンポーネントの状態が表示されます。

状態	コンポーネントの状態
インストール済	すでにインストールされています。
新規インストール	インストールするよう初めて選択されました。
未インストール	現在インストールされておらず、インストールするよう選択されてもいません。
再インストール	現在インストールされていますが、再インストールするよう選択されています。
アップグレード	現在インストールされていますが、アップグレードされます。

1. インストールするコンポーネントに対応するチェック・ボックスがチェックされていることを確認します。

注意： インストールするコンポーネントを選択または選択解除する場合は注意してください。チェック・ボックスがチェックされていないと、コンポーネントはインストールされません。

2. インストールするコンポーネントを適宜選択し、「次」を選択します。
「コンポーネントの場所」ウィンドウが表示され、いくつかのコンポーネントをインストールする代替位置を選択できます。
3. デフォルト位置を受け入れるには、「次」を選択します。そうでない場合は、コンポーネントを選択して、デフォルト位置を変更するためのテキスト・ボックスを使用可能にし、「次」を選択します。

4. 次のコンポーネントのいずれかを選択した場合は、要求に応じて適切な応答を入力します。大部分のコンポーネントは、追加情報の入力を要求されことなくインストールされることに注意してください。

選択したオプション	要求の有無
Net8 Client	情報の入力は要求されません。ただし、インストールの最後に Net8 Configuration Assistant が起動し、現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合は Oracle8i データベースへのクライアント・アクセスを構成するよう要求されます。 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-11 ページの「 クライアントのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Advanced Security	Oracle でサポートする認証方式を選択するよう要求されます。選択項目として、Kerberos、SecurID および Radius が自動的に表示されます。Identix、CyberSafe および Entrust は、適切なサードパーティ・ソフトウェアがインストールされている場合にのみ表示されます。
Oracle Protocol Support	Oracle でサポートを提供するネットワーク・プロトコル・アダプタを選択するよう要求されます。このウィンドウの「Status」列の説明は、オンライン・ヘルプを参照してください。
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	インストール後に Microsoft Transaction Server をインストールするよう要求されます（現在インストールされていない場合）。

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

5. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
6. 選択したコンポーネントがインストールされ、構成ツールが実行を完了するまで待ちます。
- 「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。
7. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle8i Management and Integration

注意： 各「Oracle8i Management and Integration」インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、A-14 ページの「[Oracle8i Management and Integration のコンポーネント](#)」を参照してください。

5-5 ページの手順 6 で [Oracle8i Management and Integration](#) を選択した場合は、「インストール・タイプ」ウィンドウが表示されます。

1. インストールするインストール・タイプを選択し、「次」を選択します。
2. 手順 1 で行った選択に基づいて、適切な項目を参照してください。

選択したオプション	参照先
Oracle Management Server	5-19 ページの「 Oracle Management Server 」
Oracle Internet Directory	5-23 ページの「 Oracle Internet Directory 」
Oracle Integration Server	5-27 ページの「 Oracle Integration Server 」
カスタム	5-31 ページの「 カスタム 」

Oracle Management Server

「Oracle Management Server リポジトリ」ウィンドウが表示されます。

重要： Oracle Management Server とリポジトリのすべてのユーザーが Oracle Enterprise Manager ソフトウェア（たとえば、コンソール、DBA Studio、別途ライセンス契約された Management Pack など）をリリース 2.2 にアップグレードするまでは、これらのコンポーネントをアップグレードまたは移行しないでください。すべての Oracle Enterprise Manager 製品は同じリリースである必要があります。使用するすべての Oracle Enterprise Manager コンポーネントをリリース 2.2 にアップグレードまたは移行する前に Oracle Management Server およびリポジトリをリリース 2.2 にアップグレードまたは移行した場合、古いバージョンの製品を新しいリリースとともに使用することはできません。

1. Oracle Management Server で使用するリポジトリ・タイプを慎重に検討し、選択します。

タイプ	説明
既存のリポジトリを使用	<p>このタイプは、次の場合に選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 管理される環境に対してリリース 2.2 リポジトリを作成および構成してあり、この Oracle Management Server で既存のリポジトリを使用する場合。■ 既存のリリース 2.0.x または 2.1 リポジトリをリリース 2.2 にアップグレードする場合。インストールの最後に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant が自動的に起動し、構成手順をいくつか実行します。ただし、リポジトリは自動的にアップグレードされません。インストールが完了している場合は、Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant を手動で起動して、既存のリリース 2.0.x または 2.1 リポジトリをリリース 2.2 にアップグレードします。次のようにして Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant を起動します。 <p>「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Enterprise Manager」→「Configuration Assistant」を選択します。</p>
新しいリポジトリが必要	<p>このタイプは、次の場合に選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 既存のリリース 2.2 リポジトリが使用不能であるか、既存のリリース 1.x リポジトリをリリース 2.2 に移行する必要がある場合。どちらの場合も、新しいリポジトリを作成する必要があります。Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant は、インストールの最後に自動的に起動して、新しいリポジトリを作成します。■ リリース 1.x リポジトリを移行する必要がある場合、Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant は最初に新しいリリース 2.2 リポジトリを作成します。次に、Oracle Enterprise Manager Migration Assistant を手動で起動して移行を実行する必要があります。

参照： 詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

2. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、ネットワークおよびデータベース・リポジトリ環境を作成および部分的に構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 ネットワーク・ソフトウェアを構成するようプロンプトを表示します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-11 ページの「 クライアントのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant	すべての場合	順を追ってリポジトリの構成を行います。詳細は、手順 3 を参照してください。 参照： 詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

「Oracle Management Server リポジトリ」ウィンドウが表示されます。

3. 5-20 ページの「[Oracle Management Server](#)」の手順 1 で選択したリポジトリ・タイプに基づいて、適宜応答します。

選択したオプション	入力を要求される情報
既存のリポジトリを使用	リリース 2.2 リポジトリの接続情報： <ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のリリース 2.2 リポジトリのユーザー名とパスワード ■ 次の形式で指定される新しい Oracle Management Server サービス： <code>hostname:port_number:SID</code> <p>リリース 2.0 または 2.1 リポジトリをリリース 2.2 リポジトリにアップグレードする必要がある場合は、インストール後に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant も起動する必要があります。</p>

選択した オプション	入力を要求される情報
新しいリポジトリ が必要	<p>リポジトリを作成するデータベースに関する情報：</p> <ul style="list-style-type: none">■ ユーザー名（DBA 権限付き）とパスワード（たとえば、SYSTEM/MANAGER など）■ 次の形式で指定される新しい Oracle Management Server サービス： <i>hostname:port_number:SID</i> <p>リリース 1.x リポジトリをリリース 2.2 リポジトリに移行する必要がある場合は、インストール後に Oracle Enterprise Manager Migration Assistant を起動する必要があります。選択したデータベースにリポジトリを作成する際に、ユーザーを補助する追加のウィンドウが表示されます。</p>

参照：『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』

注意： 大部分のデータベースで使用するデフォルトのポート番号は 1521 です。

4. 残りの Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant ウィンドウに適宜応答します。
- 「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。
5. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。
6. リポジトリを移行またはアップグレードする場合は、5-20 ページの「[Oracle Management Server](#)」の手順 1 で説明したように、インストール後に適切なツールを実行します。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle Internet Directory

5-19 ページの手順 1 で Oracle Internet Directory を選択した場合は、次のウィンドウのいずれかが表示されます。

1. 表示されるウィンドウに基づいて、次の手順に従ってください。

表示されるウィンドウ	状態	結果	次に進む手順
データベースの識別	Oracle8i データベース・リリース 8.1.6 および 8.1.7 と、Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 および 2.1.1 が、コンピュータにインストールされていません。	Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 および Oracle Internet Directory リリース 2.1.1 が同じホームに自動的にインストールされます。	5-23 ページの「 Oracle Internet Directory の最初のインストール 」の手順 4
既存 OID のアップグレード	リリース 8.1.6 および Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 が、コンピュータ上の同じ Oracle ホームにインストールされています。	Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 および Oracle Internet Directory リリース 2.1.1 を自動的にアップグレードするプロンプトが表示されます。アップグレードの終了も選択できます。	5-26 ページの「 Oracle Internet Directory のアップグレード 」の手順 1
既存インスタンスを使用	リリース 8.1.7 はコンピュータにインストールされていますが、Oracle Internet Directory 2.1.1 はコンピュータの同じホームにインストールされていません。	使用する SID を要求され、別の Oracle8i データベースはインストールされません。Oracle Internet Directory 2.1.1 がインストールされます。	5-23 ページの「 Oracle Internet Directory の最初のインストール 」の手順 1

Oracle Internet Directory の最初のインストール

1. インストールされているデータベースを Oracle Internet Directory で使用するには、「Yes」を選択し、「次」をクリックします。Oracle Internet Directory で異なるデータベースを使用する場合は「No」を選択し、「次」を選択して、手順 4 に進みます。
「データベースの識別」ウィンドウが表示されます。
2. インストールされているデータベースの SID を入力し、「次」を選択します。
3. 手順 5 に進みます。
4. グローバル・データベース名と SID を、表示されたフィールドに入力します。

フィールド名	入力内容
グローバル・データベース名	データベースをネットワーク・ドメインの他のデータベースと一意に区別する完全データベース名です。次に、例を示します。 sales.us.acme.com sales はデータベースに付ける名前、us.acme.com はデータベースが置かれているネットワーク・ドメインです。
SID	データベースをコンピュータ上の他のデータベースと一意に区別するデータベース・インスタンス名です。SID は、デフォルトでは自動的にグローバル・データベース名のデータベース名部分のうち 8 文字またはピリオドに達するまでの部分（前出の例では、sales）になります。デフォルト値を受け入れるか、または変更もできます。

この情報は、インストール後に Oracle Database Configuration Assistant によってデータベースが作成される際に使用されます。

「OID データベースの場所」ウィンドウが表示されます。

- 5. Oracle Internet Directory データベース・ファイルをインストールするディレクトリ位置を入力します。データベース・ファイルと Oracle ソフトウェアは、別のハード・ディスクにインストールすることをお勧めします。これらのデータベース・ファイルは、構成中に作成される Oracle Internet Directory 固有の表とスキーマに対応します。
- 6. 「次」を選択します。
「サマリー」ウィンドウが表示されます。
- 7. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。

次の情報は、インストール中に自動的に設定されます。

情報	設定内容
Use of an Encrypted Password	Yes
Encryption schema	MD4
Approximate number of directory entries to be stored in Oracle Internet Directory	< 10,000 entries
Password of the Administrator Distinguished Name	welcome

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、ネットワークおよび Oracle Internet Directory 環境を作成および構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを構成するようプロンプトを表示します。「標準構成の実行」を選択し、「次」ボタンを選択してすべてのデフォルト設定を受け入れます。 参照： 実行される構成手順の説明は、4-9 ページの「 サーバーのネットワーク構成 」を参照してください。
OiD Configuration Assistant	すべての場合	Oracle8i データベースに Oracle Internet Directory 表領域およびスキーマを作成し、Oracle Internet Directory ディレクトリ・サーバーを起動します。 注意： データベースをインストールする必要がある場合は、OiD Configuration Assistant 内から Oracle Database Configuration Assistant が自動的に起動し、UTF8 キャラクタ・セットでデータベースを作成します。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

8. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle Internet Directory のアップグレード

1. 適切な選択を行い、「次」を選択します。

選択する項目	目的
◎	自動的に、既存の Oracle8i データベースをリリース 8.1.7 にアップグレードし、Oracle Internet Directory ソフトウェア、LDAP スキーマおよび Oracle Internet Directory データベース・スキーマをリリース 2.1.1 にアップグレードします。「次」を選択し、手順 2 に進みます。
×	リリース 8.1.6 の Oracle8i データベースはアップグレードしません。かわりに、新しい Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 が、Oracle Internet Directory リリース 2.1.1 で使用するようにインストールおよび構成されます。リリース 8.1.6 の Oracle8i データベースは変更されず、Oracle Internet Directory 2.0.6 のみ 2.1.1 にアップグレードされます。

「OID データのバックアップ」ウィンドウが表示されます。

2. アップグレードの前に Oracle Internet Directory がバックアップされていることを確認し、「次」を選択します。

「Oracle SID」ウィンドウが表示されます。

3. アップグレードする Oracle8i データベースのシステム識別子 (SID) を入力します。

注意： Oracle Internet Directory で使用するように構成されている Oracle8i データベースの SID を入力してください。

「ODS ユーザー・パスワード」ウィンドウが表示されます。

4. Oracle Directory Server ユーザーのパスワード (デフォルトでは ODS) を入力します。

「現在の OID 管理者パスワード」ウィンドウが表示されます。

5. Oracle Internet Directory 管理者のパスワード (デフォルトでは WELCOME) を入力し、「次」を選択します。

「既存データベースのアップグレードまたは移行」ウィンドウが表示されます。

6. 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオンにし、8.1.7 の Oracle8i データベースに移行するデータベースの SID を選択します。

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

7. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。

8. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、Oracle8i データベースおよび Oracle Internet Directory 環境をアップグレードします。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを構成するようプロンプトを表示します。「標準構成の実行」を選択し、ウィンドウが表示されるたびに「次」ボタンを選択して、すべてのデフォルト設定を受け入れます。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-9 ページの「 サーバーのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Data Migration Assistant	すべての場合	Oracle8i データベース・リリース 8.1.6 をリリース 8.1.7 にアップグレードします。
OiD Upgrade Assistant	すべての場合	Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 をリリース 2.1.1 にアップグレードします。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

9. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle Integration Server

5-19 ページの「[Oracle8i Management and Integration](#)」の手順 1 で Oracle Integration Server を選択した場合は、「Suffix Information」ウィンドウが表示されます。

1. Oracle Message Broker がディレクトリ・エントリに使用する LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) のベース・ネーミング・コンテキストおよび接尾辞情報を入力します。

フィールド名	入力内容
ディレクトリ接尾辞	完全なディレクトリ接尾辞。ディレクトリ接尾辞を指定する場合は、Oracle Message Broker が使用している LDAP ディレクトリの情報がすべて含まれていることを確認してください。ディレクトリ接尾辞は、LDAP ディレクトリに接続するときに Oracle Message Broker が使用する初期コンテキストの一部として追加されます。このフィールドはオプションです。
国コード	ディレクトリ・ベース・ネーミング・コンテキストで使用される国コード。国コードとして指定された値は、"c=" が追加されて初期コンテキストで使用されます。このフィールドはオプションです。
組織	ディレクトリ・ベース・ネーミング・コンテキストで使用される組織。組織として指定された値は、"o=" が追加されて初期コンテキストで使用されます。このフィールドはオプションです。
編成単位	ディレクトリ・ベース・ネーミング・コンテキストで使用される編成単位。編成単位として指定された値は、"ou=" が追加されて初期コンテキストで使用されます。このフィールドはオプションです。

2. 「次」をクリックします。

注意： 入力する値は、LDAP ディレクトリの編成によって異なります。LDAP ディレクトリの編成は、インストール時に決定されます。

「LDAP Information」 ウィンドウが表示されます。

3. ディレクトリ・サーバーに対して選択する LDAP ポートおよび LDAP サーバーを入力します。LDAP サーバーは実行されている必要はなく、Oracle Message Broker をインストールしているシステムに存在している必要もありません。
4. 「次」をクリックします。
5. コンピュータで Oracle データベースが検出されているかどうかに応じて、適切な手順に進みます。

条件	結果	次に進む手順
コンピュータで 8.1.7 より前の Oracle データベースが検出されている場合	「既存データベースのアップグレードまたは移行」ウィンドウが表示され、Oracle Data Migration Assistant でデータベースを移行またはアップグレードするよう要求されます。	手順 6

条件	結果	次に進む手順
コンピュータで Oracle データベースが検出されていない場合	「データベースの識別」ウィンドウが表示され、Oracle8i データベースのグローバル・データベース名および SID を入力するよう要求されます。	手順 7

6. データベースを最新リリースにアップグレードまたは移行するかどうかを選択します。

目的	操作
アップグレードまたは移行する	<ol style="list-style-type: none"> 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオンにし、最新の Oracle8i データベース・リリースにアップグレードまたは移行するデータベースの SID を選択します。 「次」を選択します。 「サマリー」ウィンドウが表示されます。 手順 9 に進みます。
アップグレードまたは移行しない	<ol style="list-style-type: none"> 「既存データベースのアップグレードまたは移行」チェック・ボックスをオフにします。 「次」を選択します。 「データベースの識別」ウィンドウが表示されます。 手順 7 に進みます。

7. グローバル・データベース名と SID を、表示されたフィールドに入力します。

フィールド名	入力内容
グローバル・データベース名	<p>データベースをネットワーク・ドメインの他のデータベースと一意に区別する完全データベース名です。次に、例を示します。</p> <p><code>sales.us.acme.com</code></p> <p><code>sales</code> はデータベースに付ける名前、<code>us.acme.com</code> はデータベースが置かれているネットワーク・ドメインです。</p>
SID	<p>データベースをコンピュータ上の他のデータベースと一意に区別するデータベース・インスタンス名です。SID は、デフォルトでは自動的にグローバル・データベース名のデータベース名部分のうち 8 文字またはピリオドに達するまでの部分（前出の例では、<code>sales</code>）になります。デフォルト値を受け入れるか、または変更もできます。</p>

この情報は、インストール後に Oracle Database Configuration Assistant によってデータベースが作成される際に使用されます。

- 8. 「次」を選択します。
「サマリー」ウィンドウが表示されます。
- 9. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
- 10. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、それまでの選択内容に応じてデータベースおよびネットワーク環境を作成および構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを構成します。 参照： 実行される構成手順の詳細は、4-9 ページの「 サーバーのネットワーク構成 」を参照してください。
Oracle Data Migration Assistant	手順 6 のプロンプトで、検出されたデータベースを移行またはアップグレードするよう選択した場合	選択されたデータベースを Oracle8i リリース 8.1.7 に移行またはアップグレードします。
Oracle Database Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームにリリース 8.1.7 の Oracle8i データベースがインストールされていない場合	Oracle8i リリース 8.1.7 データベースを自動的に作成します。
Oracle Workflow Install	<ul style="list-style-type: none">■ 指定されている Oracle ホームにリリース 8.1.7 の Oracle8i データベースがインストールされていない場合■ 8.1.7 より前のデータベースは移行しないことを選択した場合	Oracle Workflow スキーマを Oracle8i データベースにインストールし、構成します。 参照： 手動のアップグレードまたはインストールを実行する手順は、『Oracle8i Workflow インストレーション補足』を参照してください。

11. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

カスタム

5-19 ページの「[Oracle8i Management and Integration](#)」の手順 1 で「カスタム」を選択した場合は、「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウにインストール可能なコンポーネントがすべて表示されます。

状態	コンポーネントの状態
インストール済	すでにインストールされています。
新規インストール	インストールするよう初めて選択されました。
未インストール	現在インストールされておらず、インストールするよう選択されてもいません。
再インストール	現在インストールされていますが、再インストールするよう選択されています。
アップグレード	現在インストールされていますが、アップグレードされます（たとえば、以前のデータベース・リリース）。

1. インストールするコンポーネントに対応するチェック・ボックスがチェックされていることを確認します。

注意： インストールするコンポーネントを選択または選択解除する場合は注意してください。チェック・ボックスがチェックされていないと、コンポーネントはインストールされません。

2. 「次」を選択します。
「コンポーネントの場所」ウィンドウが表示され、いくつかのコンポーネントをインストールする代替位置を選択できます。
3. デフォルト位置を受け入れるには、「次」を選択します。そうでない場合は、コンポーネントを選択して、デフォルト位置を変更するためのテキスト・ボックスを使用可能にします。続いて、「次」を選択します。
4. 次のコンポーネントのいずれかを選択した場合は、要求に応じて適切な応答を入力します。大部分のコンポーネントは、追加情報の入力を要求されることなくインストールされることに注意してください。

選択したオプション	結果
Oracle Management Server	インストール手順は、5-19 ページの「 Oracle Management Server 」に進みます。
Oracle Advanced Security	Oracle でサポートする認証方式を選択するよう要求されます。選択項目として、Kerberos、SecurID および Radius が自動的に表示されます。Identix、CyberSafe および Entrust は、適切なサードパーティ・ソフトウェアがインストールされている場合にのみ表示されます。
Oracle Applications InterConnect	一連のウィンドウで、インストールおよび構成の情報を要求されます。
Oracle Integration Server	インストール手順は、5-27 ページの「 Oracle Integration Server 」に進みます。現在指定されている Oracle ホームに Oracle8i データベースがインストールされていない場合は、新規に作成するよう要求されます。
Oracle Internet Directory	実行する手順は、次の条件によって決まります。 <ul style="list-style-type: none">■ 現在指定されている Oracle ホームに Oracle8i データベース・リリース 8.1.7 がインストールされていて、Oracle Internet Directory 2.1 がインストールされていない場合は、5-23 ページの「Oracle Internet Directory の最初のインストール」の手順 1 に進みます。■ 現在指定されている Oracle ホームに、Oracle8i データベース・リリース 8.1.6 および 8.1.7 と Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 および 2.1 がインストールされていない場合は、「データベースの識別」ウィンドウが表示されます。5-33 ページの手順 5 に進みます。■ 現在指定されている Oracle ホームに Oracle8i データベース・リリース 8.1.6 および Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 がインストールされている場合は、5-26 ページの「Oracle Internet Directory のアップグレード」の手順 1 に進みます。
Oracle Message Broker	インストール手順は、5-27 ページの「 Oracle Integration Server 」に進み、手順 1 ～ 3 を実行します。

5. Oracle8i データベースのグローバル・データベース名と SID を入力し、「次」を選択します。

フィールド名	入力内容
グローバル・データベース名	データベースをネットワーク・ドメインの他のデータベースと一意に区別する完全データベース名です。次に、例を示します。 <code>sales.us.acme.com</code> <i>sales</i> はデータベースに付ける名前、 <i>us.acme.com</i> はデータベースが置かれているネットワーク・ドメインです。
SID	データベースをコンピュータ上の他のデータベースと一意に区別するデータベース・インスタンス名です。SID は、デフォルトでは自動的にグローバル・データベース名のデータベース名部分のうち 8 文字またはピリオドに達するまでの部分（前出の例では、 <i>sales</i> ）になります。デフォルト値を受け入れるか、または変更もできます。

データベースが現在インストールされていない場合は、「OID データベースの場所」ウィンドウが表示されます。

6. Oracle Internet Directory データベース・ファイルをインストールするディレクトリ位置を入力します。データベース・ファイルと Oracle ソフトウェアは、別のハード・ディスクにインストールすることをお勧めします。これらのデータベース・ファイルは、構成中に作成される Oracle Internet Directory 固有の表とスキーマに対応します。
7. 「次」を選択します。
「OID User Password Encryption」ウィンドウが表示されます。
8. パスワードの暗号化を有効にするかどうかを選択し、「次」を選択します。
「User Password Hashing Algorithm」ウィンドウが表示されます。
9. 使用する暗号化スキーマを選択し、「次」を選択します。
「OID Administrator Password」ウィンドウが表示されます。
10. パスワードを入力します。
このパスワードを使用して、Oracle Internet Directory におけるすべての変更を行うことができます。
11. 同じパスワードを再度入力し、「次」を選択します。
「OID Size Configuration」ウィンドウが表示されます。
12. Oracle Internet Directory に格納するディレクトリ・エントリのおおよその数を選択し、「次」を選択します。
「サマリー」ウィンドウが表示されます。

13. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。

インストールの最後に「構成ツール」ウィンドウが表示され、次に示す Assistant が自動的に起動して、Oracle Internet Directory で使用する Oracle8i データベースを作成および構成します。

ツール	起動する条件	動作
Net8 Configuration Assistant	現在指定されている Oracle ホームに Net8 Client リリース 8.1.7 がインストールされていない場合 注意： この Oracle ホームにインストールされている Net8 Client リリース 8.1.6 以前はアップグレードされます。	Net8 サーバー・ネットワーク・ソフトウェアを構成するようプロンプトを表示します。「標準構成の実行」を選択し、ウィンドウが表示されるたびに「次」ボタンを選択して、すべてのデフォルト設定を受け入れます。 参照： 実行される構成手順の説明は、4-9 ページの「サーバーのネットワーク構成」を参照してください。
OiD Configuration Assistant	すべての場合	Oracle8i データベースに Oracle Internet Directory 表領域およびスキーマを作成し、Oracle Internet Directory ディレクトリ・サーバーを起動します。 注意： Oracle Database Configuration Assistant が OiD Configuration Assistant 内で自動的に起動し、Oracle8i データベースの「カスタム」インストールを順を追って指示します。プロンプトで、UTF8 キャラクタ・セットを選択してください。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

14. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

参照： インストール・セッションのサマリーは、5-35 ページの「インストール・セッションのログの確認」を参照してください。

インストール・セッションのログの確認

最後のインストール・セッションで実行された作業とインストールされたコンポーネントを記述するログは、次の場所にあります。

`X:\PROGRAM FILES\ORACLE\INVENTORY\LOGS\INSTALLACTIONS.LOG`

X は、オペレーティング・システムが配置されているハードディスク・ドライブです。

INSTALLACTIONS.LOG は、最新のログ・ファイルです。前のインストール・セッションのログ・ファイルもこのディレクトリにあり、その名前の形式は INSTALLACTIONS`DATE_TIME`.LOG（たとえば、INSTALLACTIONS1999-07-14_09-00-56-AM.LOG など）です。

Oracle Universal Installer の任意のウィンドウで「インストール済みの製品」を選択すると、インストール済のコンポーネントのリストを表示できます。インストールされたプログラムのウィンドウが表示されます。

Web ブラウザおよび Adobe Acrobat Reader のインストール

Web ブラウザおよび Adobe Acrobat Reader をインストールすると、すべてのドキュメント形式と機能を利用できます。

Web ブラウザおよび Adobe Acrobat Reader をインストールするには、次の手順に従います。

1. 次の Web ブラウザと Adobe Acrobat Reader がインストールされていることを確認します。

ツール	使用するバージョン
Web ブラウザ	<p>Java 対応の次のブラウザの 1 つを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Navigator バージョン 3.0 以降 http://www.netscape.com ■ Microsoft Internet Explorer バージョン 3.0 以降 http://www.microsoft.com <p>注意： Oracle Information Navigator が使用できるのは、Java 対応のブラウザのみです。</p>

ツール	使用するバージョン
Adobe Acrobat Reader	<p>Adobe Acrobat Reader リリース 3.0 以降。このコンポーネントは、2つの場所から入手できます。</p> <p>コンポーネント CD-ROM から：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンポーネント CD-ROM の ¥ACROREAD ディレクトリに移動します。 2. 「AR405JPN.EXE」をダブルクリックします（または、MS-DOS コマンド・プロンプトから AR405JPN.EXE を実行します）。 <p>ウィザードが、Adobe Acrobat Reader のインストールを順を追って指示します。</p> <p>Adobe Web サイトから：</p> <p>http://www.adobe.com</p>

Web ブラウザでのドキュメントの表示

Web ブラウザと Adobe Acrobat Reader の両方がインストールされている場合は、Web ブラウザから HTML および PDF ドキュメントを表示できます。

Web ブラウザからドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

1. 5-35 ページの「[Web ブラウザおよび Adobe Acrobat Reader のインストール](#)」の手順に従います。
2. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Documentation Library」を選択します。

Web ブラウザが自動的に起動し、ドキュメント・カテゴリがリストされた「ようこそ」ページが表示されます。

しばらくして Oracle Information Navigator も表示されます。

3. ほとんどのドキュメントは、HTML 形式と PDF 形式の両方で表示できます。
4. Oracle Information Navigator の使用手順についてのヘルプにアクセスするには、疑問符アイコンを選択します。

Web ブラウザがない場合のドキュメントの表示

Web ブラウザがインストールされていない場合でも、Adobe Acrobat Reader がインストールされていれば PDF 形式のドキュメントを表示できます。

Web ブラウザを使用しないでドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

1. Acrobat Reader または Acrobat Exchange を開きます。
2. 「ファイル」→「開く」メニュー・オプションを選択します。
3. 必要に応じて次のドキュメントを選択します。

表示する対象	操作
すべての PDF ドキュメントの目次	<ol style="list-style-type: none">1. ¥DOC ディレクトリに移動します。2. 「INDEX.PDF」をダブルクリックします。 すべてのカテゴリの最上位ライブラリが表示されます。3. カテゴリを選択して、個々のドキュメントのリストを表示します。
目次を表示しないで個々の PDF ファイルを直接表示	<ol style="list-style-type: none">1. ¥DOC ディレクトリに移動します。2. 適切なサブディレクトリに移動します（たとえば、WIN.817 には、Windows NT 用の Oracle ドキュメントがすべて含まれています）。3. 表示するファイルをダブルクリックします。PDF ファイルには、各ガイドのタイトル・ページにある部品番号に基づいて名前が付けられています（たとえば、A12345.PDF など）。

個々の PDF ファイルには、しおりの一覧の一番上に「PDF Directory」というしおりが含まれています。このしおりを選択すると、個々のファイルが位置する 1 レベル上の目次に移動します。

注意： Adobe Acrobat Reader でドキュメントをいくつか開いた後、さらにドキュメントを開こうとすると、ドキュメントが存在しないというエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラー・メッセージはメモリーが少ないために発生します。問題を解決するには、使用していないドキュメントが開いている場合は閉じてから続行します。

インストールされた初期データベースの内容の表示

この章では、インストールされた Oracle8i 初期データベースの内容について説明します。
次の項目について説明します。

- ユーザー名とパスワード
- データベースの識別
- 表領域とデータ・ファイル
- 初期化パラメータ・ファイル
- REDO ログ・ファイル
- 制御ファイル
- ロールバック・セグメント
- データ・ディクショナリ

注意： この章では、「標準」または「最小」インストール・タイプで作成される汎用初期データベースの内容について主に説明します。これは、Oracle Database Configuration Assistant のカスタム・データベース作成方法では、この情報の大部分をカスタマイズできるためです。カスタム・データベース作成方法に当てはまる情報には、可能な箇所では参照が付いています。

ユーザー名とパスワード

ここでは、初期データベースに含まれているユーザー名とパスワードについて説明します。
インストール後、ユーザー名のパスワードはすぐに変更してください。

パスワードを変更するには、次の手順に従います。

1. SQL*Plus を起動します。
- C:\> SQLPLUS
2. ユーザー名と、変更するパスワードを使用して接続します。
- Enter user-name: SYSTEM/PASSWORD
3. パスワードを変更します。
- SQL> ALTER USER USERNAME IDENTIFIED BY PASSWORD;

参照： Oracle Security Manager または Oracle DBA Studio を使用したパスワードの変更は、『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

注意： 次の表にある SYS、SYSTEM および DBSNMP ユーザー名と INTERNAL 別名パスワードは、Oracle Database Configuration Assistant によって作成されるすべてのデータベースに自動的に含まれています。

ユーザー名	パスワード	説明	参照
INTERNAL 注意： INTERNAL ユーザー名は、リリース 8.1.7 より後では使用できません。	ORACLE	INTERNAL は、データベースの起動および停止を含むデータベース管理タスクの実行に使用されます。 注意： INTERNAL は、正確にはユーザー名ではなく、SYS ユーザー名（後述）と SYSDBA 権限の別名です。 注意： このパスワードは、Oracle8i データベースをインストールしていないユーザーにのみ必要です。Oracle8i データベースをインストールしたユーザーは、ORA_DBA と呼ばれる特別の Windows NT ローカル・グループにユーザー名が追加されているため、INTERNAL として接続する際はパスワードの入力を要求されません。	<div>■ 『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 8 章「Windows を使用したデータベース・ユーザーの認証」（ORA_DBA ユーザー・グループへの手動でのユーザーの追加について）</div> <div>■ 『Oracle8i 管理者ガイド』</div>
SYSTEM	MANAGER	SYSTEM は、データベース管理タスクの実行に使用されます。SYSTEM には、AQ_ADMINISTRATOR_ROLE および DBA データベース・ロールが含まれています。	『Oracle8i 管理者ガイド』

ユーザー名	パスワード	説明	参照
SYS	CHANGE_ ON_INSTALL	<p>SYS は、データベース管理タスクの実行に使用されます。SYS には、次のデータベース・ロールが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ AQ_ADMINISTRATOR_ROLE ■ AQ_USER_ROLE ■ CONNECT ■ CTXAPP ■ DBA ■ DELETE_CATALOG_ROLE ■ EXECUTE_CATALOG_ROLE ■ EXP_FULL_DATABASE ■ HS_ADMIN_ROLE ■ IMP_FULL_DATABASE ■ JAVA_ADMIN ■ JAVADEBUGPRIV ■ JAVA_DEPLOY ■ JAVAIDPRIV ■ JAVAUSERPRIV ■ OEM_MONITOR ■ RECOVERY_CATALOG_OWNER ■ RESOURCE ■ SELECT_CATALOG_ROLE ■ SNMPAGENT ■ TIMESERIES_DBA ■ TIMESERIES_DEVELOPER 	『Oracle8i 管理者ガイド』
OUTLN	OUTLN	<p>OUTLN には CONNECT および RESOURCE データベース・ロールが含まれ、プラン・スタビリティをサポートしています。プラン・スタビリティにより、同一の SQL 文に対して同じ実行プランを維持できます。OUTLN は、格納されたアウトラインに関連するメタデータを集中的に管理する場所として機能します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i 概要』 ■ 『Oracle8i パフォーマンスのための設計およびチューニング』
DBSNMP	DBSNMP	<p>DBSNMP には、CONNECT、RESOURCE および SNMPAGENT の各データベース・ロールが含まれています。このロールおよびユーザーを削除する場合は、CATNSNMP.SQL を実行します。</p>	『Oracle Intelligent Agent ユーザーズ・ガイド』

ユーザー名	パスワード	説明	参照
SCOTT	TIGER	SCOTT には、CONNECT および RESOURCE データベース・ロールが含まれています。	『Oracle8i 管理者ガイド』
MTSSYS	MTSSYS	MTSSYS は、Oracle Service for MTS を実行するユーザー名です。	『Oracle8 と Microsoft Transaction Server の連携』
CTXSYS	CTXSYS	CTXSYS は、CONNECT、DBA および RESOURCE の各データベース・ロールを持つ Oracle <i>interMedia</i> Text ユーザー名です。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Text リファレンス』
MDSYS	MDSYS	MDSYS は、Oracle Spatial and <i>interMedia</i> Audio、Video、Locator および Image の管理者ユーザー名です。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』 ■ 『Oracle8i <i>interMedia</i> Locator ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
ORDSYS	ORDSYS	ORDSYS は、Oracle <i>interMedia</i> Audio、Video、Locator および Image のユーザー名であり、CONNECT、JAVAUSERPRIV および RESOURCE の各データベース・ロールを持つ Oracle Time Series および Oracle Visual Information Retrieval の管理者ユーザー名です。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Time Series ユーザーズ・ガイド』 ■ 『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』 ■ 『Oracle8i <i>interMedia</i> Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
ORDPLUGINS	ORDPLUGINS	ORDPLUGINS は、CONNECT および RESOURCE データベース・ロールを持つ、Oracle <i>interMedia</i> Audio および Video のユーザー名です。ORDPLUGINS では、1 つのセッションでシステム固有でないプラグイン形式が複数使用できます。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
AURORA\$JIS\$UTILITY\$	インストール時にランダムに割り当てられる	AURORA\$JIS\$UTILITY\$ は、Enterprise JavaBeans and CORBA Tools によって内部的に使用されます。SYS としてログオンし、このユーザー名のパスワードを変更します。	なし
AURORA\$ORB\$UNAUTHENTICATED	インストール時にランダムに割り当てられる	AURORA\$ORB\$UNAUTHENTICATED は、Enterprise JavaBeans and CORBA Tools によって内部的に使用されます。SYS としてログオンし、このユーザー名のパスワードを変更します。	なし

ユーザー名	パスワード	説明	参照
OSE\$HTTP\$ADMIN	インストール時にランダムに割り当てられる	OSE\$HTTP\$ADMIN は、Oracle Servlet Engine によって内部的に使用されます。SYS としてログオンし、このユーザー名のパスワードを変更します。	なし
ADAMS	WOOD	ADAMS には、CONNECT データベース・ロールが含まれています。	なし
JONES	STEEL	JONES には、CONNECT データベース・ロールが含まれています。	なし
CLARK	CLOTH	CLARK には、CONNECT データベース・ロールが含まれています。	なし
BLAKE	PAPER	BLAKE には、CONNECT データベース・ロールが含まれています。	なし

データベースの識別

Oracle8i データベースはグローバル・データベース名で識別されます。グローバル・データベース名は、データベース名と、データベースのあるネットワーク・ドメインで構成されます。グローバル・データベース名は、同一ネットワーク・ドメイン内の他のデータベースから一意にデータベースを区別します。グローバル・データベース名は、Oracle8i データベースのインストール中に、Oracle Universal Installer の「データベースの識別」ウィンドウで要求された際に作成します。グローバル・データベース名は、次の形式をとります。

database_name.database_domain

次に、例を示します。

sales.us.acme.com

要素名	意味
sales	データベースに指定する名前です。データベース名部分は、英数字その他の文字を含む 8 文字以内の文字列です。データベース名は、INIT.ORA ファイルの DB_NAME パラメータにも割り当てられます。
us.acme.com	データベースが置かれているドメインで、この部分によりグローバル・データベース名は一意になります。ドメイン部分は、英数字、ピリオド (.) その他の文字を含む 128 文字以内の文字列です。ドメイン名は、INIT.ORA ファイルの DB_DOMAIN パラメータにも割り当てられます。

DB_NAME パラメータ (値 *sales*) と DB_DOMAIN パラメータ (値 *us.acme.com*) が結合して、INIT.ORA ファイルの SERVICE_NAMES パラメータに割り当てられるグローバル・データベース名値 (値 *sales.us.acme.com*) を形成します。

システム識別子 (SID) は、データベースを参照する固有の Oracle8i インスタンスを識別します。SID は、同一コンピュータ上の他のデータベースからデータベースを一意に区別します。複数の Oracle ホームによって、1 台のコンピュータに複数のアクティブな Oracle データベースを持つことができます。各データベースには、一意の SID とデータベース名が必要です。

SID 名は、「データベースの識別」ウィンドウでデータベース名として入力した値から導かれますが、変更する機会はありません。SID は長さが最大 64 文字の英数字をとれます。

たとえば、Oracle データベースの SID とデータベース名が ORCL の場合、各データベース・ファイルは ORACLE_BASE¥ORADATA¥ORCL ディレクトリにあり、初期化パラメータ・ファイルは ORACLE_BASE¥ADMIN¥ORCL¥PFILE ディレクトリにあります。ディレクトリ名 ORCL は、DB_NAME パラメータの値で決まります。

表領域とデータ・ファイル

Oracle8i データベースは、表領域と呼ばれる、小さな論理領域に分割できます。各表領域は、1 つ以上の物理的なデータ・ファイルに対応します。データ・ファイルには、表領域や索引などの論理データベース構造体の内容が含まれます。データ・ファイルは、1 つの表領域と 1 つのデータベースにのみ対応付けることができます。

Oracle8i データベースの表領域には、ORACLE_BASE¥ORADATA¥DB_NAME ディレクトリにある次の種類のデータ・ファイルが格納されます。

注意： Oracle Database Configuration Assistant で別の名前を指定しない限り、次の表で説明する表領域とデータ・ファイルはカスタム・データベースにも自動的に含まれています。

表領域	データ・ファイル	内容
SYSTEM	SYSTEM01.DBF	Oracle8i データベースに必要な表、ビューおよびストアド・プロシージャの定義が含まれるデータ・ディクショナリです。この領域の情報は自動的に保守されます。SYSTEM 表領域は、すべての Oracle データベースにあります。
USERS	USERS01.DBF	アプリケーション・データです。データを作成して表に入力すると、この領域にデータが入れられます。
TEMP	TEMP01.DBF	SQL 文の処理中に作成された一時表と索引です。大規模な表で多くのソート処理を行う SQL 文 (ANALYZE COMPUTE STATISTICS など)、あるいは GROUP BY、ORDER BY または DISTINCT を含む SQL 文を実行している場合は、この表領域の拡張が必要ことがあります。

表領域	データ・ファイル	内容
RBS	RBS01.DBF	正常に完了しなかったロールバック・トランザクションです。長時間実行するトランザクションまたは大容量のトランザクションがある場合は、この表領域の拡張が必要ながあります。
INDX	INDX01.DBF	USERS 表領域のデータに対応付けられている索引です。
DRSYS	DR01.DBF	Oracle <i>interMedia</i> テキスト関連のスキーマ・オブジェクトです。
TOOLS	TOOLS01.DBF	なし。このデータ・ファイルは、ユーザーがサードパーティまたは Oracle のツールやコンポーネントをインストールする場合に使用するために作成されます。

注意： Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant の実行時に新しいリポジトリを作成することを選択し、デフォルトの設定を受け入れた場合は、OEM_REPOSITORY という表領域と OEM_REPOSITORY.ORA というデータ・ファイルも作成されます。

参照：

- 『Oracle8i 概要』の「表領域とデータ・ファイル」の章
- 『Oracle8i 管理者ガイド』の「表領域の管理」と「データ・ファイルの管理」の章

初期化パラメータ・ファイル

初期データベースには、次の 1 つのデータベース初期化パラメータ・ファイルが含まれます。このファイルは ORACLE_BASE¥ADMIN¥DB_NAME¥PFILE ディレクトリにあります。

初期化パラメータ・ファイル	説明
INIT.ORA	パラメータ・ファイル INIT.ORA は、インスタンスを開始するために必要です。パラメータ・ファイルは、インスタンス構成パラメータのリストを含むテキスト・ファイルです。初期データベースの INIT.ORA ファイルには、事前に構成されたパラメータがあります。初期データベースを使用するためにこのファイルを編集する必要はありません。

参照：

- Windows NT の Oracle8i データベース固有の初期化パラメータとそのデフォルト値のリストは、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録 B「Oracle8i for Windows NT でのデータベース指定」を参照してください。
- 初期化パラメータの詳細は、『Oracle8i リファレンス・マニュアル』を参照してください。

REDO ログ・ファイル

初期データベースには、次の 3 つの REDO ログ・ファイルが含まれます。これらのファイルは `ORACLE_BASE\ORADATA\%DB_NAME` ディレクトリにあります。

注意： カスタム・データベースには、REDO ログ・ファイル REDO01.LOG、REDO02.LOG および REDO03.LOG も自動的に含まれます。

データベース・ファイル	ディスク・サイズ	説明
REDO01.LOG	1MB	REDO ログ・ファイルは、データベース・バッファ・キャッシュでデータに対して行われたすべての変更の記録を保持します。インスタンスに障害が生じた場合は、REDO ログ・ファイルを使用し、メモリーにある変更されたデータをリカバリします。 REDO ログ・ファイルは、循環式に使用されます。たとえば、オンライン REDO ログが 3 つのファイルから構成されている場合、最初のファイルから順に満杯になります。次に、最初のファイルから順に再使用され、満杯になります。 REDO ログは、別のドライブにミラー化されているグループおよびメンバー内にある必要があります。
REDO02.LOG	1MB	
REDO03.LOG	1MB	

参照：

- 『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』
- 『Oracle8i 管理者ガイド』の「REDO ログ・ファイルのアーカイブ」

制御ファイル

初期データベースには、次の3つの制御ファイルが含まれます。これらのファイルは `ORACLE_BASE¥ORADATA¥DB_NAME` ディレクトリにあります。

制御ファイル	説明
CONTROL01.CTL	制御ファイルは、データベースを起動および実行するときに必要な管理ファイルです。制御ファイルは、データベースの物理構造を記録します。たとえば、制御ファイルには、データベース名、データベースのデータ・ファイルと REDO ログ・ファイルの名前および位置が含まれます。
CONTROL02.CTL	
CONTROL03.CTL	

注意： カスタム・データベースには CONTROL01.CTL、CONTROL02.CTL および CONTROL03.CTL の各ファイルも含まれています。

注意： 各データベースに対して最低3つの制御ファイルを（別個の物理ドライブに）保持し、CONTROL_FILES 初期化パラメータに各制御ファイルのリストを設定することをお勧めします。この初期化パラメータの値の設定方法は、『Oracle8i 管理者ガイド』の「制御ファイルの管理」の章を参照してください。

ロールバック・セグメント

ロールバック・セグメントには、コミットされているかどうかにかかわらず、各トランザクションで変更されたデータの古い値が記録されます。各データベースには、1つ以上のロールバック・セグメントがあります。ロールバック・セグメントは、データベースの一部であり、トランザクションがロールバックされときのトランザクション操作が記録されます。ロールバック・セグメントは、読み込み一貫性の保証、トランザクションのロールバックおよびデータベースのリカバリに使用されます。

初期データベースには、次のロールバック・セグメントが含まれます。

ロールバック・セグメント	所属する表領域	使用元
SYSTEM	SYSTEM	SYS
RB_TEMP	SYSTEM（プライベート）	SYS
RB1 ~ RB16	RBS	PUBLIC（ロールバック・セグメントを必要とするすべてのインスタンスが使用できるロールバック・セグメントのプール）

データ・ディクショナリ

データ・ディクショナリは、データベース、その構造およびそのユーザーについての参照情報を含む表とビューの集合体であり、これにはプロテクトがかかっています。このディクショナリに格納されるデータには、次のものが含まれます。

- Oracle データベースのユーザー名
- 各ユーザーに与えられる権限およびロール
- スキーマ・オブジェクトの名前と定義（表、ビュー、スナップショット、索引、クラスタ、シノニム、順序、プロシージャ、ファンクションおよびパッケージなど）
- 整合性制約
- データベース・オブジェクトに対する領域の割当て
- 監査情報（様々なオブジェクトに誰がアクセスまたは更新したかなど）

参照：

- 『Oracle8i 概要』の「データ・ディクショナリ」の章
- 『Oracle8i リファレンス・マニュアル』の「静的データ・ディクショナリ・ビュー」の章

インストール後の構成作業

この章では、インストール後の構成作業を説明します。この章では適宜、これらの構成作業の実行手順に関する他のガイドを参照しています。

次の項目について説明します。

- [NTFS ファイル・システムと Windows NT レジストリ権限の設定](#)
- [UTLRP.SQL スクリプトでの無効な PL/SQL モジュールの妥当性チェック](#)
- [個々のコンポーネントのインストール後の構成作業](#)

NTFS ファイル・システムと Windows NT レジストリ権限の設定

Oracle8i データベースのファイル、ディレクトリおよびレジストリの設定は、認証されたデータベース管理者（DBA）のみが完全に制御できるように構成することをお薦めします。次の項目では、これらの作業の実行方法を説明します。

- [NTFS ファイル・システムのセキュリティ](#)
- [Windows NT レジストリのセキュリティ](#)

参照： NTFS ファイル・システムと Windows NT レジストリの設定値の変更の詳細は、Windows NT のドキュメントを参照してください。

NTFS ファイル・システムのセキュリティ

Oracle8i データベースでは、ファイルを使用してデータベース・データ、バックアップ・データ、ログ情報などを格納します。このため、Oracle8i データベース・プロセスはセキュリティ・アカウントの下で実行されます。このセキュリティ・アカウント（システムと呼ばれる Windows NT LocalSystem アカウント）には、これらのファイルを作成、アクセスする機能が含まれています。セキュリティ・アカウントは、「コントロール パネル」で Oracle8i データベースの使用するサービスに割り当てます。このアカウントには、ファイルの作成、読み込み、書き込み、削除および実行のすべてのファイル・システム権限が必要です。

認証されたユーザーのみがすべてのファイル・システム権限を持つことを保証するには、次の手順に従います。

1. Windows NT エクスプローラを表示します。
2. Oracle8i のデータベース・ファイル（`ORACLE_BASE\ORADATA\%DB_NAME` ディレクトリ）、実行可能ファイル、動的リンク・ライブラリ（`ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\BIN` ディレクトリ）およびディレクトリを右クリックします。
3. 表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。
4. 次の条件を保証するように、ファイルやディレクトリの権限を調整します。
 - Oracle8i データベースが使用するよう構成されているセキュリティ・アカウントのみが、これらのファイルに対するすべての制御権限を持つようにします。
 - Oracle アプリケーション（たとえば、SQL*Plus、Server Manager、Pro*C など）を実行する必要があるユーザー・アカウントは、その実行可能ファイル（たとえば、SQL*Plus の場合は SQLPLUS.EXE）に関する読み込み権限を持つようにします。

注意： Oracle8i データベースは、Windows NT の LocalSystem 組み込みセキュリティ・アカウントを使用します。したがって、Oracle8i データベースを実行しているローカル・コンピュータのシステム・アカウントにファイル権限を付与する必要があります。

Windows NT レジストリのセキュリティ

Windows NT の HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE で、Oracle8i の DBA やシステム管理者でないユーザーから書き込み権限を削除することをお勧めします。

書き込み権限を削除するには、次の手順に従います。

1. レジストリを開きます。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE に移動します。
3. 「セキュリティ」メイン・ウィンドウから「アクセス権」を選択します。
「レジストリ キーのアクセス権」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. Oracle8i の DBA やシステム管理者以外のユーザーから書き込み権限を削除します。システム・アカウントは、Oracle8i データベースを実行するアカウントであるため、フルコントロールを持つ必要があります。
5. Oracle アプリケーションを実行する必要があるユーザー・アカウントに読み込み権限があることを確認します。
6. 「OK」を選択します。
7. レジストリを終了します。

UTLRP.SQL スクリプトでの無効な PL/SQL モジュールの妥当性チェック

「標準」または「最小」インストール・タイプで Oracle8i データベースが作成されると、UTLRP.SQL スクリプトが自動的に実行されます。一方、「カスタム」インストール・タイプで Oracle8i データベースが作成されると、このスクリプトは自動的に実行されません。データベースを作成、アップグレード、移行した後は、UTLRP.SQL スクリプトを実行することをお勧めします。このスクリプトは、INVALID な状態にある可能性のある PL/SQL モジュール（パッケージ、プロシージャ、型などを含む）をすべて再コンパイルします。この手順はオプションですが、将来ではなくインストール中に再コンパイルが行われるようにするために、お勧めします。

注意： データベースの実行中は、他の DDL（データ定義言語）文を実行しないようにしてください。また STANDARD および DBMS_STANDARD パッケージを有効にしておいてください。

1. SQL*Plus を起動します。
- C:\> SQLPLUS
2. データベースに SYS アカウントで接続します。
- SQL> CONNECT SYS/PASSWORD AS SYSDBA
- PASSWORD は、インストール後に変更しない限り、デフォルトでは
CHANGE_ON_INSTALL になります。
3. データベースを開始します（必要な場合）。
- SQL> STARTUP
4. UTLRP.SQL スクリプトを実行します。
- SQL> @ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\RDBMS\ADMIN\UTLRP.SQL

個々のコンポーネントのインストール後の構成作業

コンポーネントによっては、個別にインストール後の構成作業が必要です。次の表で構成要件を確認し、固有の構成手順は、該当する箇所またはドキュメントを参照してください。

コンポーネント	説明	参照
Advanced Replication サポート	構成は、サポートをインストールした方法によって異なります。Oracle8i データベースを「標準」または「最小」インストール・タイプでインストールした場合や、Oracle Database Configuration Assistant で入力を要求されたときに「Advanced Replication」を選択した場合は、Advanced Replication は自動的に構成されています。その他の場合はすべて、手動で Advanced Replication を構成する必要があります。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 5 章「インストール後の構成作業」■ このガイドの第 4 章「データベース作成と Net8 構成の方法の選択」
マルチスレッド・サーバー・サポート	構成は、サポートをインストールした方法によって異なります。Oracle8i データベースを「標準」または「最小」インストール・タイプでインストールした場合、マルチスレッド・サポートは構成されていません。Oracle Database Configuration Assistant を使用して Oracle8i データベースを作成した場合は、マルチスレッド・サーバー・サポートと専用サーバー・サポートのどちらかを選択しています。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 5 章「インストール後の構成作業」■ このガイドの第 4 章「データベース作成と Net8 構成の方法の選択」

コンポーネント	説明	参照
Net8 ネットワーク・ソフトウェア	<p>Net8 Configuration Assistant は、Oracle ネットワークの構成を補助するツールです。</p> <p>Net8 Server や Net8 Client をインストールした場合、インストールの最後に Net8 Configuration Assistant が自動的に起動し、クライアント・コンピュータと Oracle8i データベース・サーバーのネットワークの構成をガイドします。</p> <p>インストール後に、Net8 Configuration Assistant および Net8 Assistant などのツールを使用しても Oracle ネットワークを構成できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Net8 管理者ガイド』 および両方のツールで使用可能なオンライン・ヘルプ。 ■ 使用可能な構成の選択に関する説明は、4-8 ページの「Net8 構成方法の選択」を参照してください。
Oracle Administration Assistant for Windows NT	<p>このツールの実行には、Microsoft 管理コンソール（使用可能な最新バージョンを推奨）および HTML Help 1.2 が必要です。Microsoft 管理コンソールは Windows 2000 には付属していますが、Windows NT 4.0 を使用している場合は手動でインストールする必要があります。</p>	<p>Microsoft のドキュメント</p> <p>または、次のサイト</p> <p>http://www.microsoft.com</p>
Oracle Advanced Security	<p>認証、暗号化、整合性のサポートおよびエンタープライズ・ユーザー・セキュリティを構成する必要があります。</p>	<p>『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』</p>

コンポーネント	説明	参照
Oracle Enterprise Manager	<p>Oracle Enterprise Manager コンソール</p> <p>Oracle Enterprise Manager コンソールをインストールした後で、追加の設定作業（たとえば、サービスの検出、管理者アカウントの作成、デフォルト資格証明の指定など）を実行して、Oracle Enterprise Manager でサービスを管理および監視する必要があります。</p> <p>Oracle Management Server/ リポジトリ</p> <p>Oracle Management Server とリポジトリでインストール後の構成が必要な状況はいくつかあります。</p> <p>ケース 1: 「標準」インストール・タイプで Oracle Management Server をインストールした場合は、リポジトリを使用するように構成し、そのサービスを作成する必要があります。インストール後に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant を手動で起動します。この Assistant は、新しいリリース 2.2 リポジトリを作成し、構成パラメータを編集し、リリース 2.2 リポジトリを削除するか、リリース 2.0 または 2.1 リポジトリを現在のリリースにアップグレードします。</p> <p>ケース 2: リリース 2.2 の Oracle Management Server をインストールし、新しいリリース 2.2 リポジトリを作成した場合に、既存のリリース 1.x リポジトリを新規に作成したリポジトリにアップグレードする必要がある場合は、インストールの完了後に Oracle Enterprise Manager Migration Assistant を手動で起動します。</p> <p>ケース 3: リリース 2.2 の Oracle Management Server をインストールし、既存のリリース 2.0 または 2.1 リポジトリを使用することを選択した場合は、インストール後に Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant を手動で起動して、リポジトリを現在のリリースにアップグレードします。</p>	『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』
Oracle HTTP Server	Oracle HTTP Server の開始、停止および状態の確認、デフォルトの初期静的ページの表示、ログ・ファイルのチェックを実行できます。	『Oracle8i for Windows リリース・ノート』
<ul style="list-style-type: none">■ Oracle interMedia■ Oracle Spatial■ Oracle Time Series■ Oracle Visual Information Retrieval	<p>これらのコンポーネントは、Oracle8i データベースと同時にインストールされる際に自動的に構成されます。</p> <p>Oracle8i データベースとは別のインストールでこれらのコンポーネントをインストールした場合や、手動で Oracle7 LISTENER.ORA ファイルおよび TNSNAMES.ORA ファイルを Oracle8i ネットワーク・ディレクトリにコピーした場合は、構成作業を手動で実行する必要があります。</p>	手順は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 5 章「インストール後の構成作業」を参照してください。

コンポーネント	説明	参照
Oracle Internet Directory ■ UNIX エミュレーション・ユーティリティ	<p>Windows NT 用の UNIX エミュレーション・ユーティリティをダウンロードして、Oracle Internet Directory のシェル・スクリプト・ツールを Windows NT で実行する必要があります (BULKLOAD.SH、BULKDELETE.SH、BULKMODIFY.SH、CATALOG.SH および LDAPREPL.SH)。2 つの認定サードパーティ・ソフトウェア・ベンダーがこのユーティリティを提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Cygnus (オープン・ソース) http://sourceware.cygnum.com/cygwin/ ■ MKS Toolkit (市販) http://www.datafocus.com/products/ 	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
■ パスワード暗号化	Oracle Internet Directory リリース 2.0.6 からアップグレードする場合は、複数のハッシュ・スキームをサポートするためにパスワードをアップグレードする必要があります。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』の第 3 章
Oracle Message Broker	インストール後の作業は、Oracle Message Broker を使用する前に実行する必要があります。	『Oracle Message Broker インストール・ガイド』の第 3 章
Oracle Parallel Server	高可用性と Oracle Enterprise Manager の機能を使用可能にするには、インストール後の構成手順を実行する必要があります。	『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』の第 6 章
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	特別な Windows NT サービスは手動で作成および構成する必要があります。さらに、Microsoft Transaction Server がインストールされていない場合は、これをインストールする必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8 と Microsoft Transaction Server の連携』 ■ Microsoft のドキュメント

コンポーネント	説明	参照
Oracle Windows NT サービス	<p>インストール後に 2 つの主な Oracle サービスが自動的に開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ OracleServiceSID (Oracle8i データベース・サービス)■ OracleHOME_NAMETNSListener (Oracle8i データベース・リスナー・サービス) <p>Oracle Enterprise Manager コンポーネントをインストールした場合は、さらに次のサービスが自動的に開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ OracleHOME_NAMEAgent■ OracleHOME_NAMEDataGather■ OracleHOME_NAMEManagementServer■ OracleHOME_NAMEHTTPServer <p>ただし、ネットワーク用の他のサービスや他の個々のコンポーネントは自動的に起動できません。</p>	<p>Windows NT の「コントロール パネル」で Oracle サービスを起動する手順は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 7 章「データベースの管理」を参照してください。</p>
Oracle Workflow	<p>次のような、いくつかの構成手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ INIT.ORA パラメータ・ファイルの編集■ Web サーバーのインストールおよび構成■ ベース URL の確認■ Oracle Workflow Monitor および HTML ヘルプの設定	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle8i Workflow インストール補足』■ 『Oracle Workflow ガイド』
PL/SQL の外部ルーチン	<p>構成は、使用するネットワーク構成ファイルに依存します。ほとんどすべての場合に、構成は自動です。ただし、8.0.3 より前の TNSNAMES.ORA および LISTENER.ORA ファイルを 8.1.7 データベースとともに使用している場合は、手動構成が必要です。</p>	<p>『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 12 章「アプリケーションの開発」</p>
Pro*COBOL	<p>Pro*COBOL は特定のコンパイラをサポートします。</p>	<p>『Pro*COBOL for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』の第 1 章「Pro*COBOL の概要」</p>
SQL*Plus ヘルプ・ファイル	<p>SQL*Plus でオンライン・ヘルプを使用する場合は、SQL*Plus の表にヘルプ・ファイルを移入する必要があります。</p>	<p>『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』の第 2 章「SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール」</p>

Oracle のコンポーネントとサービスの削除

この章では、Oracle のコンポーネントとサービスの削除方法を説明します。

次の項目について説明します。

- [Oracle Universal Installer](#) を使用した Oracle コンポーネントの削除
- 手動でのすべての Oracle コンポーネントとサービスのコンピュータからの削除

Oracle Universal Installer を使用した Oracle コンポーネントの削除

ここでは、Oracle コンポーネントを手動で削除するかわりに、Oracle Universal Installer を使用して削除（Oracle Universal Installer インベントリから削除）する方法を説明します。手動で（たとえば、Windows NT エクスプローラでディレクトリ構造を削除することで）Oracle ホームを削除すると、Oracle ホームのコンポーネントは Oracle Universal Installer インベントリに登録されたままになります。その後、同じ Oracle ホームにインストールを試みると、選択したコンポーネントの一部またはすべてが、すでにインストールされていると Oracle Universal Installer によって判断されるために、インストールできない場合があります。

注意： 手動によるコンポーネントの削除は、インストールの途中で Oracle Universal Installer を終了した場合にのみ許されます。次に、例を示します。

- 「取消」を選択した場合
- コンピュータの電源をオフにした場合
- インストールが完了していない場合（つまり、必要な構成ツールが最後まで実行されていない場合）

この場合、Oracle Universal Installer はインストールをインベントリに登録しません。しかし、ファイルは Oracle ホームにコピーされている可能性があります。ファイルを手動で削除して、インストールを再開します。

作業 1: Net8、Oracle Internet Directory および Oracle8i データベースのレジストリ・エントリを削除する

Oracle Universal Installer は、インストール中に Oracle コンポーネント用の Windows NT サービスを作成します。ただし Oracle Universal Installer は、Net8 Configuration Assistant、OiD Configuration Assistant および Oracle Database Configuration Assistant によって作成されたサービスは削除しません。次のいずれかのコンポーネントを削除する場合は、最初にすべての Oracle Windows NT サービスを停止し、それらのサービスのレジストリ・エントリを削除する必要があります。

削除するコンポーネント	レジストリ・エントリの削除方法
Net8 リスナー	レジストリの手動編集
Oracle Internet Directory	OIDMON ユーティリティを使用
Oracle8i データベース（およびそのデータ・ファイル）	Oracle Database Configuration Assistant の「データベースの削除」オプションを使用

これらの作業を実行する手順は、次の項で説明します。これらの手順を完了した後で、8-4 ページの「作業 2: [Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除する](#)」に進んで削除を完了します。Net8 リスナー、Oracle Internet Directory または Oracle8i データベースを削除しない場合は、8-4 ページの「作業 2: [Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除する](#)」に進みます。

Oracle Windows NT サービスの停止

レジストリ・エントリを削除する前に、まず Oracle Windows NT サービスを停止する必要があります。

Windows NT サービスを停止するには、次の手順に従います。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
2. 「開始」の状態の Oracle サービス（Oracle で始まる名前）があればそのサービスを選択し、「停止」を選択します。
3. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
4. 「コントロール パネル」を終了します。
5. 削除する対象に応じて、次の項を参照してください。

削除する対象	参照先
Net8	8-3 ページの「 Net8 サービスの削除 」
Oracle Internet Directory	8-4 ページの「 Oracle Internet Directory サービスの削除 」
Oracle8i データベース	8-4 ページの「 Oracle8i データベースおよびレジストリ・エントリの削除 」

Net8 サービスの削除

1. MS-DOS コマンド・プロンプトでレジストリを起動します。
`C:\> REGEDT32`
2. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services に移動し、OracleHOME_NAME¥TNSListener レジストリ・エントリを削除します。その他すべての Net8 サービスは、Oracle Universal Installer を介して自動的に削除されます。
3. レジストリを終了します。

Oracle Internet Directory サービスの削除

1. MS-DOS コマンド・プロンプトで Oracle Internet Directory Server を停止します。

```
C:\> OIIDLCTL CONNECT=NET_SERVICE_NAME SERVER=OIDLDAPD INSTANCE=SERVER  
INSTANCE_NUMBER STOP
```

NET_SERVICE_NAME は Oracle Internet Directory Server へのネットワーク接続、
SERVER_INSTANCE_NUMBER はインスタンス番号です（この番号は Oracle Directory
Manager の「Server List」タブに表示されます）。

2. MS-DOS コマンド・プロンプトで Oracle Internet Directory Monitor を停止します。

```
C:\> OIEMON STOP
```

3. レジストリから Oracle Internet Directory サービス OracleDirectoryService を削除します。

```
C:\> OIEMON REMOVE
```

4. 8-4 ページの「[Oracle8i データベースおよびレジストリ・エントリの削除](#)」の手順に従って、Oracle Internet Directory で構成されている Oracle8i データベースを削除します。

Oracle8i データベースおよびレジストリ・エントリの削除

1. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Database Administration」→「Oracle Database Configuration Assistant」を選択します。

Oracle Database Configuration Assistant が起動します。

2. 「データベースの削除」を選択し、「次」を選択します。

3. 残りのウィンドウに従って、Oracle8i データベースを削除します。

Oracle8i データベースが削除され、OracleServiceSID がレジストリの
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services から削除されます。

作業 2: Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除する

Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除するには、次の手順に従います。

1. Net8 リスナー、Oracle Internet Directory または Oracle8i データベースを削除する場合は、最初に必ず 8-2 ページの「[作業 1: Net8、Oracle Internet Directory および Oracle8i データベースのレジストリ・エントリを削除する](#)」の指示に従ってください。

2. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer」を選択します。

Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

3. 「製品の削除」を選択します。
「インベントリ」ウィンドウが表示されます。
4. 削除するコンポーネントが見つかるまで、インストール済のコンポーネントのツリーを展開します。
5. 削除するコンポーネントのボックスをチェックします。
6. 「削除」を選択します。
「確認」ウィンドウが表示されます。
7. 「はい」を選択して、選択したコンポーネントを削除します。

注意： コンポーネントによっては、削除すると他のコンポーネントが正しく機能しなくなる可能性があることを示すメッセージが表示されます。

コンポーネントがコンピュータから削除されます。「インベントリ」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、削除されたコンポーネントは表示されていません。

8. 「閉じる」を選択して、「インベントリ」ウィンドウを閉じます。
9. 「終了」を選択して、Oracle Universal Installer を終了します。

手動でのすべての Oracle コンポーネントとサービスのコンピュータからの削除

まれに、Oracle コンポーネントを完全にコンピュータから削除することで、深刻なシステム上の問題を修正する必要がある場合があります。

コンピュータからの Oracle コンポーネントの全削除は最後の手段として、またシステムから Oracle コンポーネントをすべて削除する場合にのみ行ってください。

注意： ORADIM ユーティリティを使用して、データベースおよびレジストリ・エントリを手動で削除することもできます。詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- コンポーネント CD-ROM の ¥DOC ディレクトリにある READMEDOC.HTM または READMEDOC.PDF
 - 『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」
-

Windows NT でのコンポーネントの削除

Windows NT 上でコンピュータから Oracle コンポーネントをすべて削除するには、次の手順に従います。

注意： この手順では、コンピュータからすべての Oracle コンポーネント、サービスおよびレジストリ・エントリが削除されます。さらに、`ORACLE_BASE¥ORADATA¥DB_NAME` の下のデータベース・ファイルもすべて削除されます。レジストリ・エントリを削除する際は、特に気を付けてください。間違ったエントリを削除すると、システムが損傷する場合があります。

1. Administrator 権限でログインしていることを確認します。
2. 実行中の Oracle サービスがあればすべて停止します。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
 - b. 「開始」の状態の Oracle サービス（Oracle で始まる名前）があればそのサービスを選択し、「停止」を選択します。
 - c. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
3. MS-DOS コマンド・プロンプトでレジストリを起動します。
`C:¥> REGEDT32`
4. HKEY_CLASSES_ROOT に移動します。
5. Oracle または ORCL で始まるキーを削除します。
6. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE に移動します。
7. ORACLE キーを削除します。
8. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ODBC¥ODBCINST.INI の下の Oracle ODBC Driver キーを削除します。
9. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services に移動し、この下にある ORACLE で始まるキーをすべて削除します。
10. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥Application に移動し、この下にある ORACLE で始まるキーをすべて削除します。
11. HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ORACLE に移動します。
12. Oracle または ORCL で始まるキーがある場合は削除します。
13. HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ODBC¥ODBCINST.INI に移動します。
14. Oracle キーがある場合は削除します。

15. レジストリを閉じます。
16. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「システム」→「環境」タブを選択します。
17. システム環境変数パスを選択し、Path 変数を変更します。
18. すべての Oracle エントリをパスから削除します。たとえば、Oracle によって JRE がインストールされている場合は、%ORACLE_HOME%\BIN パスと JRE パスを削除します。次のようなパスがある可能性があります。
`C:\ORACLE\ORA81\BIN;G:\PROGRAM FILES\ORACLE\JRE\1.1.7\BIN`
19. 「コントロール パネル」を終了します。
20. `SYSTEM_DRIVE:\WINNT\PROFILES\ALL USERS\START MENU\PROGRAMS` に移動します。
21. 次のアイコンを削除します。
 - Oracle - HOME_NAME
 - Oracle Installation Products

HOME_NAME は、以前の Oracle ホーム名です。
22. Windows NT エクスプローラで `SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle` を削除します。
23. ハード・ディスク・ドライブ上のすべての ORACLE_BASE ディレクトリを削除します。
24. コンピュータを再起動します。

Windows 95 または Windows 98 でのコンポーネントの削除

Windows 95 または 98 上でコンピュータから Oracle コンポーネントをすべて削除するには、次の手順に従います。

1. MS-DOS コマンド・プロンプトでレジストリを起動します。
`C:\> REGEDIT`
2. HKEY_CLASSES_ROOT に移動します。
3. Oracle または ORCL で始まるキーを削除します。
4. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE に移動します。
5. ORACLE キーを削除します。
6. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ODBC\ODBCINST.INI の下の Oracle ODBC Driver キーを削除します。
7. HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\ORACLE に移動します。
8. Oracle または ORCL で始まるキーがある場合は削除します。

9. HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ODBC¥ODBCINST.INI に移動します。
10. Oracle キーを削除します。
11. AUTOEXEC.BAT ファイルを編集して、パス設定から %ORACLE_HOME%¥BIN および JRE のパスを削除します。
12. Windows エクスプローラで SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle を削除します。
13. 次の場所からアイコンを削除します。
 - SYSTEM_DRIVE:¥WINDOWS¥START MENU¥PROGRAMS¥ORACLE - HOME_NAME
 - SYSTEM_DRIVE:¥WINDOWS¥START MENU¥PROGRAMS¥ORACLE INSTALLATION PRODUCTS

HOME_NAME は、以前の Oracle ホーム名です。
14. ハード・ディスク・ドライブ上のすべての ORACLE_BASE ディレクトリを削除します。
15. コンピュータを再起動します。

インストール可能な個々のコンポーネント

この付録では、各インストール・タイプで使用可能な個々のコンポーネントをリストします。

次の項目について説明します。

- [Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition](#) コンポーネント
- [Oracle8i Client](#) のコンポーネント
- [Oracle8i Management and Integration](#) のコンポーネント
- 8.1.7 では使用できないコンポーネント

注意：「カスタム」インストール・タイプでは、現在のカテゴリに含まれるすべてのコンポーネントをインストールできるので、この3種類の最上位コンポーネントでは、「カスタム」インストール・タイプについては表示しません。いくつかのコンポーネントは、「カスタム」インストールでのみインストールできます。そのようなコンポーネントの場合は、この付録の表の他のインストール・タイプに「×」と表示されます。

注意：ここでは、各インストール・タイプで使用可能な上位コンポーネントを識別します。インストールされたすべてのコンポーネントおよび機能 (Required Support Files や Common Files などの下位コンポーネントを含む) のリストへのアクセス方法は、5-35 ページの「[インストール・セッションのログの確認](#)」を参照してください。

Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition コンポーネント

この表では、Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition の最上位コンポーネントから、各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントがアルファベット順にリストされます。

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
アドバンスト・キューイング	○	○
Advanced Replication	○	○
Generic Connectivity	○	○
Net8 Client。次のコンポーネントを含む。	○	○
■ Net8 Assistant	○	○
■ Net8 Configuration Assistant	○	○
■ Oracle Protocol Support	○	○
注意： 「標準」または「最小」インストール・タイプで Net8 Client をインストールすると、検出されたネットワーキング・プロトコルに対する Oracle Protocol Support が自動的にインストールされます。「カスタム」インストール・タイプで Oracle Protocol Support を選択すると、サポートするネットワーキング・プロトコル（SPX および LU6.2）を選択するよう求めるプロンプトが表示されます。Named Pipes および TCP/IP プロトコル・サポートは、自動的にインストールされ、削除できません。		
Net8 Server	○	○
Object Type Translator。次のコンポーネントを含む。	○	○
■ Oracle INTYPE File Assistant	○	○
Oracle Administration Assistant for Windows NT	○	○
Oracle Advanced Security。次のコンポーネントを含む。 ¹	○	×
1. 暗号化と整合性のサポート。次のコンポーネントを含む。	○	×
■ DES40 Encryption	○	×
■ DES56 Encryption	○	×
■ 3DES_112 Encryption（2 キー・オプション）	○	×

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
■ 3DES_168 Integrity (3 キー・オプション)	◎	×
■ RC4_40 Encryption	◎	×
■ RC4_56 Encryption	◎	×
■ RC4_128 Encryption	◎	×
■ RC4_256 Integrity	◎	×
■ SHA-1 Integrity	◎	×
■ MD5 Integrity	◎	×
2. Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート。次のコンポーネントを含む。	◎	×
■ DES40 Encryption	◎	×
■ DES56 Encryption	◎	×
■ RC4_40 Encryption	◎	×
■ RC4_56 Encryption	◎	×
■ RC4_128 Encryption	◎	×
■ RC4_256 Integrity	◎	×
■ SHA-1 Integrity	◎	×
■ MD5 Integrity	◎	×
3. 認証サポート。次のコンポーネントを含む。	◎	×
■ CyberSafe (SSO サポートあり)	×	×
■ DCE (SSO サポートあり)	×	×
■ Entrust	×	×
■ Identix (バイオメトリック用)	◎	×
■ Kerberos (SSO サポートあり)	◎	×
■ RADIUS (スマート・カード、トークン・カードおよびバイオメトリック用)	◎	×
■ SecurID (トークン・カード用)	◎	×
■ Secure Socket Layer (X.509 バージョン 3 および SSO サポート)	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
<p>注意： Kerberos、SecurID および Radius は、「カスタム」インストールの「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウでインストールされます。Identix、CyberSafe および Entrust は、適切なサードパーティ・ソフトウェアがインストールされている場合にのみこのウィンドウにインストール対象として表示されます。DCE は、「カスタム」インストールの「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウでのみインストールできます。</p>		
4. エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Oracle Enterprise Login Assistant	◎	◎
■ Oracle Enterprise Security Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications で起動)	◎	×
■ Oracle Wallet Manager	◎	◎
<p>注意： Oracle Enterprise Login Assistant、Oracle Enterprise Security Manager および Oracle Wallet Manager は、Oracle Advanced Security の機能であり、Oracle Advanced Security ライセンスを購入した場合にのみ使用できます。</p>		
Oracle Call Interface	◎	◎
Oracle COM Automation Feature	◎	×
Oracle Connection Manager	×	×
Oracle Data Migration Assistant	◎	◎
Oracle Database Configuration Assistant	◎	◎
Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools	◎	◎
Oracle Enterprise Manager。次の主なコンポーネントを含む。	◎	◎
1. Oracle Agent Extensions。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Microsoft SQL Server Extensions	◎	◎
■ Oracle Applications Extensions	◎	◎
■ Oracle HTTP Server Extensions	◎	◎
■ Oracle E-Business Management Extensions	◎	◎
■ Oracle Forms Extensions	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
2. Oracle Enterprise Manager Client。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Oracle Enterprise Manager コンソール	◎	◎
■ Oracle Enterprise Manager Events	◎	◎
■ Oracle DBA Management Pack。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
Oracle DBA Studio ²	◎	◎
Oracle Instance Manager	×	×
Oracle Schema Manager	×	×
Oracle Security Manager	×	×
Oracle Storage Manager	×	×
SQL*Plus Worksheet	◎	◎
■ Oracle Enterprise Manager Integrated Applications。次のコンポーネントを含む。	◎	×
Oracle Parallel Server Manager	◎	×
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	◎	×
Oracle Forms Server Manager	◎	×
Oracle Enterprise Security Manager	◎	×
注意： Oracle Advanced Security を介してライセンスを得ます。		
Oracle Spatial Index Advisor	◎	×
Oracle Directory Manager	◎	×
3. Oracle Enterprise Manager Paging Server	◎	×
4. Oracle Enterprise Manager Quick Tours	◎	×
5. Oracle Enterprise Manager Web Site	×	×
注意： Oracle Enterprise Manager Web Site は、Web リスナーとして事前構成された Oracle HTTP Server を使用します。		
6. Oracle Intelligent Agent。次のコンポーネントを含む。 ³	◎	◎
■ Data Collection Services	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
7. Oracle Management Server。次のコンポーネントを含む。	◎	×
■ Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant	◎	×
■ Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	◎	×
Oracle HTTP Server (powered by Apache)。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Apache Configuration for Oracle Java Server Pages	◎	◎
■ Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit	◎	◎
■ Apache JServ。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
Sun JDK	◎	◎
■ Apache Module for Oracle Servlet Engine	◎	◎
■ Apache Web Server Files	◎	◎
■ Business Components for Java (BC4J) Runtime	◎	◎
■ Oracle Mod PL/SQL Gateway	◎	◎
■ Oracle Perl Interpreter	◎	◎
Oracle <i>interMedia</i> 。次のコンポーネントを含む。	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Audio	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Client Option	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Image	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Locator	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Text	◎	×
■ Oracle <i>interMedia</i> Video	◎	×
Oracle Internet Directory Client	◎	◎
Oracle JDBC Drivers。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
Oracle8i JVM。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Java VM	◎	◎
■ JVM Accelerator	◎	◎
■ Oracle Servlet Engine	◎	◎
Oracle Migration Workbench	×	×
Oracle Names	×	×
Oracle Objects for OLE	◎	◎
Oracle ODBC Driver	◎	◎
Oracle Parallel Server。次のコンポーネントを含む。 ⁴	◎	×
■ Oracle Parallel Server Management	◎	×
注意： Oracle Parallel Server は、クラスタが検出された場合にのみインストールされます。		
Oracle Partitioning ¹	◎	◎
Oracle Performance Monitor for Windows NT	×	×
Oracle Provider for OLE DB	◎	◎
Oracle Remote Configuration Agent	◎	◎
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	×	×
Oracle SNMP Agent	×	×
Oracle Spatial ¹	◎	×
Oracle SQLJ。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ SQLJ Runtime	◎	◎
■ SQLJ Translator	◎	◎
Oracle Trace	◎	◎
Oracle Time Series ¹	◎	×
Oracle Universal Installer。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Java Runtime Environment (Oracle 用バージョン)	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	
	標準	最小
■ Oracle Home Selector	◎	◎
Oracle Utilities。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Database Verify Utility	◎	◎
■ Export	◎	◎
■ Import	◎	◎
■ Migration Utility	◎	◎
■ Recovery Manager	◎	◎
■ SQL*Loader	◎	◎
■ Server Manager	◎	◎
注意： Server Manager は、リリース 8.1.7 より後では使用できません。		
Oracle Visual Information Retrieval ¹	◎	×
Oracle Visual Information Retrieval Client ¹	◎	×
Oracle XML Developer's Kit	◎	◎
Oracle XML SQL Utility	◎	◎
Oracle8i Server ⁵ (Oracle8i データベース)。次のコンポーネントを含む。	◎	◎
■ Oracle Database Demos	◎	◎
■ PL/SQL	◎	◎
■ PL/SQL Embedded Gateway	◎	◎
Oracle8i Windows Documentation (インストレーション・ガイドおよびリリース・ノート)	◎	◎
Replication API	◎	◎
SQL*Plus	◎	◎

¹ Oracle Advanced Security、Oracle Partitioning、Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval および Oracle Visual Information Retrieval Client は、Oracle8i Enterprise Edition および Oracle8i Personal Edition では使用できますが、Oracle8i では使用できません。

² Oracle Replication Manager の機能を含みます。

³ Oracle Intelligent Agent は、Windows NT および 2000 上でのみ Oracle8i Personal Edition で使用できます。Oracle8i Personal Edition の Windows 95 または 98 データベースでは、Oracle Intelligent Agent はサポートされず、その機能は使用できません。また、Oracle Agent Extensions は、Oracle Intelligent Agent とは別にインストールされます。

- ⁴ Oracle Parallel Server は Oracle8i Enterprise Edition で使用できますが、Oracle8i Personal Edition または Oracle8i では使用できません。
- ⁵ Oracle8i Server のタイプは、購入したデータベース・タイプ（Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition）によって決まります。

参照： B-2 ページの「コンポーネントの説明」には、これらのコンポーネントの説明とリリース番号があります。

Oracle8i Client のコンポーネント

この表では、Oracle8i Client の最上位コンポーネントから、各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントがアルファベット順にリストされます。

コンポーネント	Oracle8i Client		
	管理者	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
アドバンスド・キューイング API	◎	◎	◎
Net8 Client。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Net8 Assistant	◎	◎	◎
■ Net8 Configuration Assistant	◎	◎	◎
■ Oracle Protocol Support	◎	◎	◎
注意： 「標準」または「最小」インストール・タイプで Net8 Client をインストールすると、検出されたネットワーキング・プロトコルに対する Oracle Protocol Support が自動的にインストールされます。「カスタム」インストール・タイプで Oracle Protocol Support を選択すると、サポートするネットワーキング・プロトコル（SPX および LU6.2）を選択するよう求めるプロンプトが表示されます。Named Pipes および TCP/IP プロトコル・サポートは、自動的にインストールされ、削除できません。			
Object Type Translator。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	×
■ Oracle INTYPE File Assistant	◎	◎	×
Oracle Advanced Security。次のコンポーネントを含む。 ¹	◎	◎	◎
1. 暗号化と整合性のサポート。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ DES40 Encryption	◎	◎	◎
■ DES56 Encryption	◎	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Client		
	管理者	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
■ 3DES_112 Encryption (2 キー・オプション)	○	○	○
■ 3DES_168 Integrity (3 キー・オプション)	○	○	○
■ RC4_40 Encryption	○	○	○
■ RC4_56 Encryption	○	○	○
■ RC4_128 Encryption	○	○	○
■ RC4_256 Integrity	○	○	○
■ SHA-1 Integrity	○	○	○
■ MD5 Integrity	○	○	○
2. Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート。次のコンポーネントを含む。	○	○	○
■ DES40 Encryption	○	○	○
■ DES56 Encryption	○	○	○
■ RC4_40 Encryption	○	○	○
■ RC4_56 Encryption	○	○	○
■ RC4_128 Encryption	○	○	○
■ RC4_256 Integrity	○	○	○
■ SHA-1 Integrity	○	○	○
■ MD5 Integrity	○	○	○
3. 認証サポート。次のコンポーネントを含む。	○	○	○
■ CyberSafe (SSO サポートあり)	×	×	×
■ DCE (SSO サポートあり)	×	×	×
■ Entrust	×	×	×
■ Identix (バイオメトリック用)	○	○	○
■ Kerberos (SSO サポートあり)	○	○	○
■ RADIUS (スマート・カード、トークン・カードおよびバイオメトリック用)	○	○	○
■ SecurID (トークン・カード用)	○	○	○

コンポーネント	Oracle8i Client		
	管理者	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
<ul style="list-style-type: none"> Secure Socket Layer (X.509 バージョン 3 および SSO サポート) <p>注意: Kerberos、SecurID および Radius は、「カスタム」インストールの「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウでインストールされます。Identix、CyberSafe および Entrust は、適切なサードパーティ・ソフトウェアがインストールされている場合にのみこのウィンドウにインストール対象として表示されます。DCE は、「カスタム」インストールの「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウでのみインストールできます。</p>	◎	◎	◎
4. エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ。次のコンポーネントを含む。			
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Enterprise Login Assistant 	◎	◎	◎
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Enterprise Security Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications で起動) 	◎	×	×
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Wallet Manager <p>注意: Oracle Enterprise Login Assistant、Oracle Enterprise Security Manager および Oracle Wallet Manager は、Oracle Advanced Security の機能であり、Oracle Advanced Security ライセンスを購入した場合にのみ使用できます。</p>	◎	◎	◎
Oracle Call Interface	◎	◎	◎
Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools	◎	◎	×
Oracle Enterprise Manager。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
1. Oracle Enterprise Manager Client。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Enterprise Manager コンソール 	◎	×	×
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Enterprise Manager Events 	◎	×	×
<ul style="list-style-type: none"> Oracle Enterprise Manager Migration Assistant 	◎	×	×
<ul style="list-style-type: none"> Oracle DBA Management Pack。次のコンポーネントを含む。 	◎	×	×
Oracle DBA Studio ²	◎	×	×
Oracle Instance Manager	×	×	×
Oracle Schema Manager	×	×	×
Oracle Security Manager	×	×	×
Oracle Storage Manager	×	×	×

コンポーネント	Oracle8i Client		
	管理者	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
SQL*Plus Worksheet	◎	×	×
■ Oracle Enterprise Manager Integrated Applications。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
Oracle Enterprise Security Manager	◎	×	×
注意： Oracle Advanced Security を介してライセンスを得ます。			
Oracle Parallel Server Manager	◎	×	×
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	◎	×	×
Oracle Forms Server Manager	◎	×	×
Oracle Spatial Index Advisor	◎	×	×
Oracle Directory Manager	◎	×	×
2. Oracle Enterprise Manager Paging Server	×	×	×
3. Oracle Enterprise Manager Quick Tours	◎	×	×
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	◎	◎	◎
Oracle Internet Directory Client	◎	×	×
Oracle JDBC Drivers。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	◎	◎	×
Oracle Migration Workbench	×	×	×
Oracle Objects for OLE	◎	◎	◎
Oracle ODBC Driver	◎	◎	◎
Oracle Provider for OLE DB	◎	◎	◎
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	×	×	×
Oracle SQLJ。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	×
■ SQLJ Runtime	◎	◎	×
■ SQLJ Translator	◎	◎	×

コンポーネント	Oracle8i Client		
	管理者	プログラマ	アプリケーション・ユーザー
Oracle Universal Installer。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Java Runtime Environment (Oracle 用バージョン)	◎	◎	◎
■ Oracle Home Selector	◎	◎	◎
Oracle Utilities。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Export	◎	◎	◎
■ Import	◎	◎	◎
■ Recovery Manager	◎	◎	×
■ SQL*Loader	◎	◎	◎
Oracle Visual Information Retrieval Client	◎	◎	◎
Oracle Workflow Builder	×	×	×
Oracle Workflow Mailer	×	×	×
Oracle XML Developer's Kit	◎	◎	◎
Oracle XML SQL Utility	◎	◎	◎
Oracle8i Windows Documentation (インストレーション・ガイド およびリリース・ノート)	◎	◎	◎
PL/SQL	◎	◎	×
Pro*C/C++	◎	◎	×
Pro*COBOL 8.1.7	×	×	×
Pro*COBOL 1.8.52	◎	◎	×
Replication API	◎	◎	×
SQL*Plus	◎	◎	◎

¹ Oracle Advanced Security は、Oracle8i Enterprise Edition および Oracle8i Personal Edition で使用できますが、Oracle8i では使用できません。

² Oracle Replication Manager の機能を含みます。

参照： B-2 ページの「コンポーネントの説明」には、これらのコンポーネントの説明とリリース番号があります。

Oracle8i Management and Integration のコンポーネント

この表では、Oracle8i Management and Integration の最上位コンポーネントから、各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントがアルファベット順にリストされます。

注意： この表では、Oracle8i データベースが現在インストールされていない場合に、「Oracle Internet Directory」および「Oracle Integration Server」インストール・タイプでインストールされるすべてのコンポーネントがリストされます。

コンポーネント	Oracle8i Management and Integration		
	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
アドバンスド・キューイング API	×	◎	◎
Advanced Replication API	×	◎	◎
Generic Connectivity	×	◎	◎
Net8 Client。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Net8 Assistant	◎	◎	◎
■ Net8 Configuration Assistant	◎	◎	◎
■ Oracle Protocol Support	×	×	◎
Net8 Server	×	◎	◎
Object Type Translator。次のコンポーネントを含む。	×	◎	◎
■ Oracle INTYPE File Assistant	×	◎	◎
Oracle Advanced Security。次のコンポーネントを含む。 ¹	◎	◎	◎
1. Secure Socket Layer (X.509 バージョン 3 および SSO サポート)	◎	◎	◎
2. Oracle Enterprise Security Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications で起動)	◎	×	×
3. Oracle Wallet Manager	◎	◎	◎
4. Oracle Enterprise Login Assistant	◎	◎	◎
注意： Oracle Enterprise Login Assistant、Oracle Wallet Manager および Oracle Enterprise Security Manager は、Oracle Advanced Security の機能であり、Oracle Advanced Security ライセンスを購入した場合にのみ使用できます。			

コンポーネント	Oracle8i Management and Integration		
	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
Oracle Application InterConnect (OAI)。次のコンポーネントを含む。	×	×	×
■ OAI Adapter SDK	×	×	×
■ OAI CRM 11i Adapter	×	×	×
■ OAI DB Adapter	×	×	×
■ OAI IStudio	×	×	×
■ OAI Management Console	×	×	×
■ OAI Repository	×	×	×
■ OAI SAP Adapter	×	×	×
■ OAI XML AQ Adapter (Oracle8i データベース 8.1.5 用)	×	×	×
■ OAI XML AQ Adapter (Oracle8i データベース 8.1.6 以上用)	×	×	×
■ Oracle SAP Bridge	×	×	×
Oracle Call Interface	×	◎	◎
Oracle Connection Manager	×	×	×
Oracle Data Migration Assistant	×	◎	◎
Oracle Database Configuration Assistant	×	◎	◎
Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools	◎	◎	◎
Oracle Enterprise Manager。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
1. Oracle Enterprise Manager Client。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
■ Oracle Enterprise Manager コンソール	◎	×	×
■ Oracle DBA Management Pack。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
Oracle DBA Studio ²	◎	×	×
Oracle Instance Manager	×	×	×
Oracle Schema Manager	×	×	×
Oracle Security Manager	×	×	×
Oracle Storage Manager	×	×	×
SQL*Plus Worksheet	◎	×	×

コンポーネント	Oracle8i Management and Integration		
	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
■ Oracle Enterprise Manager Events	◎	×	×
■ Oracle Enterprise Manager Integrated Applications。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
Oracle Enterprise Security Manager	◎	×	×
注意： Oracle Advanced Security を介してライセンスを得ます。			
Oracle Parallel Server Manager	◎	×	×
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager	◎	×	×
Oracle Forms Server Manager	◎	×	×
Oracle Spatial Index Advisor	◎	×	×
Oracle Directory Manager	◎	◎	×
2. Oracle Enterprise Manager Paging Server	×	×	×
3. Oracle Enterprise Manager Quick Tours	◎	×	×
4. Oracle Enterprise Manager Web Site	◎	×	×
注意： Oracle Enterprise Manager Web Site は、Web リスナーとして事前構成された Oracle HTTP Server を使用します。			
5. Oracle Management Server。次のコンポーネントを含む。	◎	×	×
Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant	◎	×	×
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant	◎	×	×
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	×	×	◎
Oracle Internet Directory Client	×	◎	◎
Oracle Internet Directory Configuration Assistant	×	◎	×
Oracle Internet Directory Server	×	◎	×
Oracle8i JVM。次のコンポーネントを含む。	×	◎	◎
■ Java VM	×	◎	◎
■ JVM Accelerator	×	◎	◎
■ Oracle Servlet Engine	×	◎	◎
Oracle Intelligent Agent	×	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Management and Integration		
	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
Oracle JDBC Drivers。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2	×	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1	◎	◎	◎
■ Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2	×	◎	◎
Oracle Message Broker	×	×	◎
Oracle Objects for OLE	×	×	◎
Oracle ODBC Driver	×	×	×
Oracle Partitioning ¹	×	×	◎
Oracle Provider for OLE DB	×	×	◎
Oracle Remote Configuration Agent	×	◎	◎
Oracle SQLJ。次のコンポーネントを含む。	×	×	◎
■ SQLJ Runtime	×	◎	◎
■ SQLJ Translator	×	×	◎
Oracle Trace	×	◎	◎
Oracle Universal Installer。次のコンポーネントを含む。	◎	◎	◎
■ Java Runtime Environment (Oracle 用バージョン)	◎	◎	◎
■ Oracle Home Selector	◎	◎	◎
Oracle Utilities。次のコンポーネントを含む。	×	◎	◎
■ Database Verify Utility	×	◎	◎
■ Export	×	◎	◎
■ Import	×	◎	◎
■ Migration Utility	×	◎	◎
■ Recovery Manager	×	◎	◎
■ SQL*Loader	×	◎	◎
■ Server Manager	×	◎	◎

コンポーネント	Oracle8i Management and Integration		
	Oracle Management Server	Oracle Internet Directory	Oracle Integration Server
Oracle Visual Information Retrieval Client ¹	×	×	◎
Oracle Workflow	×	×	◎
Oracle XML Developer's Kit ³	×	◎	◎
Oracle XML SQL Utility	×	◎	◎
Oracle8i Server ⁴ (Oracle8i データベース)。次のコンポーネントを含む。	×	◎	◎
■ Oracle Database Demos	×	◎	◎
■ PL/SQL	×	◎	◎
■ PL/SQL Embedded Gateway	×	◎	◎
Oracle8i Windows Documentation (インストレーション・ガイドおよびリリース・ノート)	◎	◎	◎
Pro*C/C++	×	×	◎
Pro*COBOL 1.8.52	×	×	◎
Replication API	×	◎	◎
SQL*Plus	◎	◎	◎

¹ Oracle Advanced Security、Oracle Partitioning および Oracle Visual Information Retrieval Client は、Oracle8i Enterprise Edition および Oracle8i Personal Edition でのみ使用でき、Oracle8i では使用できません。

² Oracle Replication Manager の機能を含みます。

³ Oracle XML Developer's Kit のサブセットが Oracle Internet Directory とともにインストールされます。特定のリストは、SYSTEM_DRIVE:\PROGRAM GROUPS\ORACLE\INVENTORY\LOGS ディレクトリにあるインストール・ログを参照してください。

⁴ Oracle8i Server のタイプは、購入したデータベース・タイプ (Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition) によって決まります。

参照： B-2 ページの「コンポーネントの説明」には、これらのコンポーネントの説明とリリース番号があります。

8.1.7 では使用できないコンポーネント

8.1.6 に含まれていた次のコンポーネントは、8.1.7 ではインストールできません。

- Oracle Web Publishing Assistant
- Oracle AppWizard for Microsoft Visual C++

個々のコンポーネントの説明

ここでは、各インストール・タイプで使用可能な個々のコンポーネントとそのリリース番号を説明します。

次の項目について説明します。

- [コンポーネントの説明](#)

注意： コンポーネントの説明は、Oracle Universal Installer で「カスタム」インストール・タイプを選択したときに表示される「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウでも提供されます。カーソルを特定のコンポーネントにドラッグすると、説明が表示されます。

コンポーネントの説明

この表では、3 種類の最上位コンポーネントでインストール可能な個々のコンポーネントの説明とリリース番号を示します。該当するコンポーネントを詳細に説明しているドキュメントへの参照も示します。これから説明するコンポーネントの中には、他のコンポーネントとともに自動的にインストールされるものもあります。

コンポーネント	リリース	説明	参照
アドバンスト・キューイング	8.1.7	アドバンスト・キューイングのアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) をサポートする機能を提供するコンポーネントです。	『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド アドバンスト・キューイング』
Advanced Replication	8.1.7	Advanced Replication API をサポートする機能を提供するコンポーネントです。	『Oracle8i レプリケーション・ガイド』
Assistant Common Files (Oracle Database Configuration Assistant および Net8 Assistant のような、Oracle Assistant とともにインストールされる)	8.1.7	Oracle Assistant が必要とする、自動的にインストールされる一連のファイルです。次のファイルがあります。 <ul style="list-style-type: none">■ BaliShare 1.0.8 (圧縮)■ DBUI 1.1.2■ EWT 3.3.6 (圧縮)■ ICE Browser 4.06.6 (圧縮)■ Java Swing Components 1.1.1 (圧縮)■ Kodiak 1.1.3■ Oracle Help for Java 3.1.8 (圧縮)■ SMUI 1.0.8	なし
Bequeath プロトコル・サポート (Net8 Client とともにインストールされる)	8.1.7	クライアントがリスナーを使用しないでデータベースから情報を取り出せるようにするプロトコルです。Bequeath プロトコルは、各クライアント・アプリケーションのサーバー・スレッドを内部的に起動します。基本的には、リモート・ネットワーク・リスナーが接続のために行う操作と同じですが、Bequeath プロトコルはローカルで操作します。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Data Collection Services (Oracle Intelligent Agent とともにインストールされる)	2.2	Oracle Intelligent Agent の拡張で、Capacity Planner および Performance Manager のためにシステム・パフォーマンス・データ (たとえば、ファイル I/O や CPU 使用量データ) を収集します。両者は、Oracle Diagnostics Pack に含まれるデータ収集アプリケーションです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Generic Connectivity	8.1.7	異機種間サービスとも呼ばれるこの機能は、非 Oracle システムにアクセスするための拡張フレームワークを実装します。この機能は、Oracle 以外のデータ・ストアに対応するように SQL を最適化してリライトするために Oracle SQL エンジン拡張することで、Oracle のゲートウェイ・テクノロジーの核心を直接 Oracle8i データベース・サーバーに統合します。	『Oracle8i 分散システム』
Java Runtime Environment (Oracle 用バージョン)	1.1.7.30	Oracle Universal Installer のような Java アプリケーションを実行するために必要です。	なし
Java VM (Oracle8i JVM の一部)	8.1.7	JDK 1.2 に完全に準拠した Java 実行環境です。Java VM はデータベース・サーバーと同じプロセス領域とアドレス空間で、メモリー・ヒープを共有し、関連データに直接アクセスしながら、実行されます。この設計によってメモリー使用が最適化され、スループットが増加します。また、オープンで可用性が高く、安全な、管理しやすい Java サーバーが配布されます。	『Oracle8i Java 開発者ガイド』
JVM Accelerator (Oracle8i JVM の一部)	8.1.7	このコンポーネントは、Oracle8i JVM の現在の機能を拡張して、パフォーマンスを改善するために Java コードのネイティブ・コンパイルを提供します。	『Oracle8i Java ストアド・プロシージャ開発者ガイド』
LSM Administrator GUI	8.1.7	Legato Storage Manager (LSM) サーバーを、別の Windows NT コンピュータから管理するためのクライアント・ツールです。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Legato Storage Manager for Windows NT 管理者ガイド』 ■ 付録 D 「Legato 製コンポーネントのインストールと削除」
Legato Storage Manager (LSM) サーバー	8.1.7	Oracle データベースのバックアップに Recovery Manager (RMAN) を使用している場合、テープへのバックアップおよびリストアには LSM Server のようなメディア管理コンポーネントが必要になります。CD-ROM に含まれるメディア管理コンポーネント (LSM Server) をインストールするか、Oracle の Backup Solutions Program (BSP) に準拠するサードパーティ製のメディア管理コンポーネントを使用できます。LSM Server には、Legato NetWorker の縮小版も含まれます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Legato Storage Manager for Windows NT 管理者ガイド』 ■ 付録 D 「Legato 製コンポーネントのインストールと削除」

コンポーネント	リリース	説明	参照
Net8 Assistant (Net8 Client とともにインストールされる)	8.1.7	<p>Net8 を構成および管理するための統合化環境を実現するために、構成能力とコンポーネント制御を組み合わせたツールです。このツールは、クライアントでもサーバーでも使用可能です。</p> <p>Net8 Assistant を使用して、次のネットワーク・コンポーネントを構成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ ネーミング 単純な名前と接続識別子を定義して、ネットワーク位置およびサービスの ID を識別するために定義した接続記述子とマップします。Net8 Assistant は、ローカルの TNSNAMES.ORA ファイル、集中化された LDAP 準拠のディレクトリ・サーバー、または Oracle Names Server の接続記述子の構成をサポートします。■ ネーミング・メソッド 接続識別子を解決して接続記述子を得るための様々な方法を構成します。■ リスナー クライアント接続を受け入れるために、リスナーを作成し構成します。 <p>Oracle Names Server が構成されると、Net8 Assistant によって起動、停止、チューニングまたは統計情報の収集ができます。</p>	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Net8 Client	8.1.7	<p>クライアントがネットワークを介してデータベースに接続できるようにするコンポーネントです。クライアント側のアプリケーションから Net8 に要求が送信されると、その要求はネットワークを介してサーバーに転送されます。</p> <p>(Oracle Universal Installer ではなく) Net8 Client によって、TCP/IP と Oracle Named Pipes がインストールされ、SPX が自動検出されます。SPX は、コンピュータ上で適切なソフトウェアが検出された場合にのみインストールされます。「カスタム」インストール・タイプで、このコンポーネントを明示的に選択した場合、コンピュータに適切なソフトウェアがなくてもインストールされます。</p>	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Net8 Configuration Assistant (Net8 Client とともにインストールされる)	8.1.7	ネットワーク・コンポーネントを構成できるようにするツールです。このマニュアルで説明しているとおり、Net8 Configuration Assistant はインストール後に自動的に実行されます。Net8 Configuration Assistant は、クライアントまたはサーバーで使用します。ネーミング・メソッドの使用法、リスナー、TNSNAMES.ORA ファイル内のネット・サービス名、およびディレクトリ・サーバー・アクセスを構成するために、スタンドアロン・モードでも実行できます。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Net8 Server	8.1.7	リスナーが、プロトコルを介したネットワーク上のクライアント・アプリケーションからの接続を受け入れられるようにするコンポーネントです。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Object Type Translator (OTT)	8.1.7	OTT は、すでに作成されて Oracle データベースに格納されている抽象データ型を表現する C 構造体を作成するために使用されます。オブジェクトを利用するには、データベースに対して OTT を実行します。これにより、C 構造体を含むヘッダー・ファイルが生成されます。	『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』
Oracle Administration Assistant for Windows NT	8.1.7	Oracle データベース・サービスの起動と停止、Oracle サービスの自動起動、Oracle バックグラウンド・プロセス情報の表示、および Windows NT によって認証されるためのデータベース・ユーザーの構成を可能にするツールです。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 8 章「Windows を使用したデータベース・ユーザーの認証」
Oracle Advanced Security	8.1.7	Oracle Advanced Security は、Oracle8i に次のセキュリティ・サービスの包括セットを提供します。	『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』
1. 認証サポート		厳密認証サポートが提供されます。詳細は、 付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」 を参照してください。	
2. 認可サポート		認可ソリューションは、分散コンピューティング環境 (DCE)、および Oracle Advanced Security のエンタープライズ・ロール管理機能で提供されます。	
3. 暗号化と整合性のサポート		データの機密性は、 付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」 にリストされている暗号化とデータ整合性のタイプを使用して確保されます。 注意： 米国輸出管理規定 (EAR) が最近変更され、オラクル社は、Oracle Advanced Security の全世界版を出荷できるようになりました。Oracle Advanced Security は、以前は米国およびカナダの市場でのみ入手可能だった強力なプロトコル暗号化を Oracle8i データベースに組み込みます。	

コンポーネント	リリース	説明	参照
4. エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポート		エンタープライズ・ユーザーの集中管理、エンタープライズ・ロール管理およびシングル・サインオンのために、Oracle Internet Directory などの LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) v3 準拠のディレクトリ・サービスとの統合が提供されています。	
5. シングル・サインオン・サポート		シングル・サインオン (1 回のユーザー認証) が提供されます。その後の接続では、厳密認証が透過的に行われます。Kerberos、CyberSafe、DCE および SSL (Secure Socket Layer) ベースのシングル・サインオンがサポートされます。	
Oracle Agent Extensions	8.1.7	Oracle Agent Extensions (Microsoft SQL Server Extensions、Oracle Applications Extensions、Oracle HTTP Server Extensions、Oracle E-Business Management Extensions および Oracle Forms Extensions) を使用して、これらの領域を管理できます。これらの拡張機能は、Oracle Intelligent Agent では自動的にインストールされなくなりました。	『Oracle Intelligent Agent ユーザーズ・ガイド』
Oracle Applications InterConnect (OAI)	3.1.3	このコンポーネントは、customer relationship management (CRM) アプリケーションを SAP R/3、Retek、Oracle Applications などの ERP システムと相互接続するためのフル機能の統合プラットフォームです。OAI は、Oracle Messaging Stack 上に構築され、その特性と機能を利用します。このコンポーネントは、Oracle CRM コンポーネントとサードパーティ製 ERP ソリューションの統合を特に目的としています。	『Oracle Applications Interconnect User's Guide』
Oracle Call Interface (OCI)	8.1.7	C または C++ プログラムから Oracle データベースにアクセスするための API です。C または C++ プログラムから直接 OCI 関数をコールし、SQL 文を実行させます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Oracle コール・インタフェース for Windows スタート・ガイド』
Oracle COM Automation Feature	8.1.7	PL/SQL 開発者が OLE オートメーション・インターフェース (IDispatch) を通して COM オブジェクトをプログラマ的に操作できるようにする機能です。	『Oracle COM Automation 開発者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Connection Manager	8.1.7	ルーターのように動作するコンポーネントで、これを介して、クライアント接続要求が次のホップまたはサーバーに直接送られます。Oracle Connection Manager を介して接続要求を発行するクライアントは、接続の集中化、Net8 アクセス制御またはマルチプロトコル・サポートなどの、Oracle Connection Manager で構成される各機能を利用できます。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Oracle Data Migration Assistant	8.1.7	既存の Oracle7 データベース（リリース 7.1.3.3.6 以降）を Oracle8i データベースに移行し、Oracle8 データベースを現行のデータベース・リリースにアップグレードするツールです。	『Oracle8i 移行ガイド』
Oracle Database Configuration Assistant	8.1.7	Oracle データベースを作成、変更および削除するプロセスを自動化するツールです。環境の要件にカスタマイズされた Oracle データベースを作成できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i 管理者ガイド』 ■ 『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第 6 章「インストール後のデータベースの作成」
Oracle Database Demos	8.1.7	Oracle8i データベースの重要な機能を示すデモのコレクションです。	なし
Oracle DBA Management Pack	2.2	Oracle Enterprise Manager にバンドルされている、一連のツールとウィザードです。Oracle DBA Management Pack は、データベース管理作業の大半を実行し、Oracle データベースのすべてのバージョンをサポートします。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle DBA Studio (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	スキーマ、セキュリティ、記憶域、インスタンスおよびレプリケーション管理の機能性を 1 つの管理ツールに統合したものです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Directory Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.1.1	Java ベースのツールで、Oracle Internet Directory の機能の大半とその関連プロセスを管理します。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools	8.1.7	トランザクション・アプリケーションを Java の分散コンポーネントとして開発するためのアーキテクチャです。	『Oracle8i Enterprise JavaBeans 開発者ガイドおよびリファレンス』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Enterprise Login Assistant	1.1	シングル・サインオンを使用可能にするツールです。シングル・サインオン機能は Oracle Wallet Manager 機能のサブセットを実装し、ユーザーの Wallet を開きアプリケーションがそれを使用できるようにします。	『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager	2.2	異機種間環境を集中管理するための統合化ソリューションを実現する一連のコンポーネントです。Oracle Enterprise Manager は、グラフィカル・コンソール、Oracle Management Server、Oracle Intelligent Agent、共通サービス、および Oracle とサードパーティのコンポーネントを管理する統合化された包括的なシステム管理プラットフォームを実現するためのツールの組合せです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Client	2.2	Oracle Enterprise Manager のファースト・ティアは、コンソールや管理アプリケーションのようなクライアントから導出され、それらのクライアントは管理者に対してすべての管理作業を GUI（グラフィカル・ユーザー・インタフェース）で表します。このようなクライアント・コンポーネントは、ローカルに、または Web ブラウザとともにインストールできます。	『Oracle Enterprise Manager 概説』
Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant (Oracle Management Server とともにインストールされる)	2.2	管理者が Oracle Enterprise Manager リポジトリの作成、削除、アップグレードおよび構成を行うときに、それを支援するツールです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager コンソール	2.2	<p>Oracle Enterprise Manager のファースト・ティアのクライアント・インタフェースで、次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 複数のデータベースを集中管理、診断およびチューニングします。 ■ その他の Oracle コンポーネントおよびサービスを管理します。 ■ Oracle コンポーネントおよびサードパーティ・サービスの状態を、24 時間監視して対応します。 ■ 複数のノード上のジョブを多様な時間間隔でスケジュールします。 ■ イベントのネットワーク化されたサービスを監視します。 ■ データベースとその他のサービスを論理的な管理グループに編成することで、表示をカスタマイズします。 	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Enterprise Manager Events	2.2	グローバル環境で問題の発生を監視するために使用する事前定義のイベント・テストのセットです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	2.2	Oracle 環境を管理するための Oracle Enterprise Manager に統合されるアプリケーションと、環境が必要とする場合に Oracle Enterprise Manager とともにインストールされるアプリケーションです。そのすべてのアプリケーションには、Oracle Enterprise Manager のナビゲータ・ペインおよびコンソール・アプリケーション・ドロワーのどちらかまたは両方から、またはオペレーティング・システムからアクセスできます。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant (Oracle Management Server とともにインストールされる)	2.2	Oracle Enterprise Manager リリース 1.6 およびそれ以上のリポジトリをリリース 2.2 のリポジトリに移行するツールです。 注意： Oracle Enterprise Manager Migration Assistant は、Windows NT、Windows 95、Windows 2000 および Windows 98 でのみサポートされます。ただし Oracle Enterprise Manager Migration Assistant は、ソースおよび宛先のリポジトリ・データベースのプラットフォームにかかわらず、リポジトリ・データをリリース 1.x リポジトリからリリース 2.2 にリモートで移行できます。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Paging Server	2.2	管理者がコンソールからのページング通知を受け入れられるようにする機能です。	『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	2.2	HTML ベースの学習ツールで、様々な Oracle Enterprise Manager コンポーネントを実際にインストールすることなく、それらに関する知識を速やかにかつ簡単に得ることができます。次のコンポーネントに対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Enterprise Manager ■ Oracle DBA Management Pack ■ Change Management Pack ■ Diagnostics Pack ■ Tuning Pack ■ Management Pack for Oracle Applications ■ Management Pack for SAP R/3 ■ Standard Management Pack 	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.2	管理者が Web ブラウザから Oracle Enterprise Manager コンソールにアクセスできるようにするコンポーネントです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Enterprise Security Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.0	LDAP 準拠のディレクトリ・サーバーを使用して Oracle 環境のユーザー・セキュリティの管理を支援するツールです。このツールによって、同時に複数のデータベースが運用される中で、管理者は企業レベルのロール認可を管理できるようになります。	『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』
Oracle Forms Server Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.1	Forms Listener、Forms Server、Load Balancer Server および Load Balancer Client の制御と監視を可能にするツールです。さらに、起動やシャットダウンのような基本的制御の他に、このツールによって、サービス停止、メモリー使用量超過、CPU 使用量超過などのイベントを監視することや、問題が起きたときに自動的に修復することができます。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Home Selector (Oracle Universal Installer とともにインストールされる)	1.7.0	適切な Oracle ホーム・ディレクトリをプライマリ・ホームにするために、環境パスを編集できるようにするツールです。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第3章「複数の Oracle ホームおよび Optimal Flexible Architecture」
Oracle HTTP Server	1.3.12	事前構成された、すぐに使用可能なリスナー（Oracle Enterprise Manager Web Site とともに使用する場合）で、ブラウザベースの Oracle Enterprise Manager コンソールを使用できるようにするコンポーネントです。Oracle HTTP Server とともに自動的にインストールされるコンポーネントのリストは、 付録 A 「インストール可能な個々のコンポーネント」 を参照してください。	『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』 「スタート」メニューから使用可能なオンライン・ドキュメント
Oracle Instance Manager (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	Oracle 環境内のデータベース・インスタンスおよびセッションを管理するツールです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Integration Server	8.1.7	<p>従来のビジネスを E-business に変換するために設計されたインストール・タイプです。Oracle Integration Server は、E-business を構成する様々なアプリケーション (customer relationship management, enterprise resource planning, B2B インターネット・マーケットプレイスおよびオークション・サイトを含む) を統合し、各アプリケーション間の通信を促進するために設計されています。Oracle Integration Server は、次のコンポーネントから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle8i データベース (アドバンスド・キューイング、Oracle8i JVM、および Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools を伴う) ■ Partitioning ■ Advanced Replication ■ Oracle Advanced Security ■ Oracle Workflow ■ Oracle Message Broker ■ Oracle Application Interconnect (Oracle8i Management and Integration の「カスタム」インストール・タイプでインストール可能) ■ Oracle Internet Directory 	<p>『Oracle Integration Server の概要』</p> <p>Oracle Integration Server とともにインストールされる各コンポーネントの説明にリストされているドキュメント</p>
Oracle Intelligent Agent	8.1.7	<p>コンソールから送られた登録済のイベントおよびスケジュール済のジョブに関して、管理対象ノード上のサービスを監視するコンポーネントです。Oracle Agent Extensions は、Oracle Intelligent Agent では自動的にインストールされなくなりました。Oracle Data Gatherer は、基本の Oracle Intelligent Agent の一部としてインストールされます。</p>	『Oracle Intelligent Agent ユーザーズ・ガイド』
Oracle <i>interMedia</i>	8.1.7	<p>テキストからオーディオやビデオまでという広範なメディアのファイルを管理するコンポーネントです。各メディアのファイルは、<i>interMedia</i> の特定のコンポーネントを介して管理されます。</p>	『Oracle8i <i>interMedia</i> Text リファレンス』
Oracle <i>interMedia</i> Audio (Oracle <i>interMedia</i> とともにインストールされる)	8.1.7	<p>Oracle データベース内のデジタル・オーディオ・データの格納、取出しおよび管理を行うコンポーネントです。</p>	『Oracle8i <i>interMedia</i> Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle <i>interMedia</i> Client Option (Oracle <i>interMedia</i> の一部)	8.1.7	Oracle <i>interMedia</i> Audio、Image および Video の Java インタフェースを提供するコンポーネントで、このインタフェースによって、ネットワーク・アクセスが可能なサーバー側のデータベースに格納されたマルチメディア・データをクライアント側のアプリケーションを使用して操作および変更（またはそのどちらかが）できるようになります。また、Microsoft Visual C++ を使用して開発された簡単な <i>interMedia</i> Image のサンプル (SIMPIMG.EXE) も提供されます。SIMPIMG.EXE は、Oracle8i データベースの Oracle <i>interMedia</i> Image を使用して、イメージを検索し更新します。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Text リファレンス』
Oracle <i>interMedia</i> Image (Oracle <i>interMedia</i> とともにインストールされる)	8.1.7	2次元の静的ビットマップ・イメージの格納、取出し、処理を行うコンポーネントです。業界標準のデスクトップ・パブリッシング画像交換形式の一般的な圧縮方式を使用して、イメージが効率的に格納されます。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
Oracle <i>interMedia</i> Locator (Oracle <i>interMedia</i> とともにインストールされる)	8.1.7	Oracle8i が、ロケータ・アプリケーションと周辺検索においてオンライン・インターネット・ベースのジオコーディング機能をサポートできるようにするコンポーネントです。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Locator ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
Oracle <i>interMedia</i> Text (Oracle <i>interMedia</i> とともにインストールされる)	8.1.7	データベース内のテキストを、他の型のデータと同じようにすばやく簡単に検索し管理するコンポーネントです。Oracle <i>interMedia</i> Text の検索手法では、作成、変更および削除する Oracle8i データベースの標準データ型はテキストになります。さらに、Oracle <i>interMedia</i> Text では、新規のテキストベースでの開発または既存のアプリケーションの拡張が、標準 SQL ツールによって簡単かつ費用効果良く作成できます。Oracle <i>interMedia</i> Text によって、テキストを使用する Oracle データベース・アプリケーション内のデータを検索できます。これは、既存のアプリケーションの検索可能なコメント・フィールドから、複数のドキュメント形式と複合検索基準を処理する大規模なドキュメント管理システムの実装まで対応できます。Oracle <i>interMedia</i> Text は、Oracle8i データベースがサポートする多くの言語での基本的な全文検索もサポートします。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Text リファレンス』
Oracle <i>interMedia</i> Text Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.2	Oracle8i データベース内のテキストを管理し検索するテキスト検索システムです。このアプリケーションは、データベース内のテキストを他の型のデータと同じように迅速で簡単な検索と管理を支援します。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle <i>interMedia</i> Video (Oracle <i>interMedia</i> とともにインストールされる)	8.1.7	Oracle データベース内のデジタル・ビデオ・データの格納、取出しおよび管理を行うコンポーネントです。	『Oracle8i <i>interMedia</i> Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
Oracle Internet Directory	2.1.1	Oracle8i データベースをベースとした LDAP v3 ディレクトリ・サーバーで、データベース・ユーザーの集中化、Net8 ネットワーク・コネクタ、データベース・リサーバー、Oracle Advanced Security、Oracle Integration Server のパラメータ、および汎用 LDAP の用途に使用されるときは、サーバーのインストールに先立って構成できます。 「カスタム」インストール・タイプで Oracle8i データベースをインストールすると、ユーザーはこれらの属性を格納するために使用する LDAP ディレクトリ・サーバーを指定できます。標準的なインストール・シナリオでは、Oracle Internet Directory を専用サーバー（特定の Oracle8i データベース・インストールのターゲット・リソースではありません）にインストールします。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle Internet Directory Client	2.1.1	Oracle8i データベースの様々なコンポーネントが記憶域の集中化（B-13 ページの Oracle Internet Directory に説明があります）のために Oracle Internet Directory を使用できるようにするコンポーネントです。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle Internet Directory Configuration Assistant	2.1.1	Oracle Internet Directory がインストールされているときに Oracle8i データベースに Oracle Internet Directory 表領域およびスキーマを作成するツールです。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle Internet Directory Server	2.1.1	人員やリソースに関する情報についての LDAP クライアント要求およびその情報の更新に応答するコンポーネントです。	『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle Internet File System (Oracle iFS)	1.1	Oracle iFS は、Oracle8i データベースをファイル・システムのように動作させ、Windows、Web、FTP および電子メール・クライアントを介してアクセスできるようにします。Oracle iFS は、多くのコンテンツ管理アプリケーションの優れた開発プラットフォームでもあります。Java および XML を使用して、ファイル・システムのすべての機能を利用して、ニーズに合った外観と動作にカスタマイズできます。	『Oracle Internet File System Setup and Administration Guide』 Oracle iFS が収録されている CD-ROM の詳細は、『Oracle8i for Windows リリース・ノート』を参照してください。

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle INTYPE File Assistant (Object Type Translator とともにインストールされる)	8.1.7	Object Type Translator により変換されるタイプのリストを提供する INTYPE ファイルの作成を補助します。このコンポーネントは、Object Type Translator とともに自動的にインストールされます。	『Oracle コール・インタフェース for Windows スタート・ガイド』
Oracle JDBC (Java Database Connectivity) Drivers	8.1.7	JavaSoft によって指定された Java クラスの標準セットで、Java からリレーショナル・データに対するベンダーに依存しないアクセスを実現します。個々のリリース番号は、付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」のコンポーネント・リストを参照してください。	『Oracle8i JDBC 開発者ガイドおよびリファレンス』
Oracle8i JVM	8.1.7	JDK 1.2 準拠の Java VM、CORBA 2.0 Object Request Broker、組込み JDBC ドライバ、SQLJ Translator および Enterprise JavaBeans トランザクション・サーバーを提供するコンポーネントです。	『Oracle8i Java 開発者ガイド』
Oracle Management Server	2.2	Oracle Enterprise Manager のミドルティアで、集中化されたインテリジェント機能と配布制御をコンソール・クライアントと管理対象ノードの間で実現します。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Message Broker	2.0	このコンポーネントは、Oracle アドバンスド・キューイングなどの様々なメッセージ・システムにアクセスするための業界標準 API である Java Message Services (JMS) 実装を提供します。このコンポーネントは、Publish/Subscribe と Point-to-Point (PTP) の両方のメッセージング・モデル、および永続キューイングと非永続キューイングをサポートします。	『Oracle Message Broker 管理者ガイド』
Oracle Migration Workbench	1.3	非 Oracle データベースから Oracle8i へのデータとアプリケーションの移行プロセスを単純化するツールです。Oracle Migration Workbench によって、アプリケーション・システム全体（すなわち、トリガーおよびストアド・プロシージャを含むデータベース・スキーマ）を、統合化されたビジュアル環境に迅速かつ簡単に移行できます。次の非 Oracle データベースからの移行がサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft Access ■ Microsoft SQL Server ■ Sybase Adaptive Server 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Migration Workbench Reference for MS Access Reference Guide』 ■ 『Oracle Migration Workbench Reference for MS SQL Server and Sybase Adaptive Server Reference Guide』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Names	8.1.7	Oracle 環境用に開発された分散ネーミング・サービスで、グローバルなクライアント / サーバー・コンピューティング・ネットワークのセットアップおよび管理の単純化を支援します。Oracle Names では、ネーム・サーバーの統合システムを確立し管理することで設定および管理を簡単にします。Oracle Names Server は、ネットワーク上のすべてのデータベース・サービスのアドレスを格納するディレクトリ・サーバーのように機能し、接続するクライアントがそれを利用できるようにします。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Oracle Objects for OLE (OO4O)	8.1.7	OLE インプロセス・サーバーを伴うカスタム・コントロール (OCX または ActiveX) で、それによって Oracle8i データベース固有の機能を Windows アプリケーションにプラグインできます。	「スタート」メニューから使用可能なオンライン・ヘルプ
Oracle ODBC (Open Database Connectivity) Driver	8.1.7	Windows NT、Windows 2000、Windows 95 および Windows 98 クライアント・システムから Oracle8i データベースへの ODBC 接続をサポートするコンポーネントです。Oracle ODBC Driver は Microsoft ODBC 仕様のバージョン 3.51 に準拠しています。 SQLBulkOperations ODBC 関数はサポートされません。	「スタート」メニューから使用可能なオンライン・ヘルプ
Oracle Parallel Server	8.1.7	複数の Oracle インスタンスで単一の Oracle データベースを共有できるようにするコンポーネントです。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』 ■ 『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』
Oracle Parallel Server Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.2	Oracle Parallel Server を使用するデータベースを検出して管理するコンポーネントです。Oracle Enterprise Manager コンソールを拡張して、Oracle Parallel Server Manager はナビゲータの「データベース」フォルダ内の単一インスタンス・データベースの横に、すべての検出されたパラレル・サーバーのリストを表示します。プロパティ・シートを使用すると、Oracle Parallel Server を使用してデータベースを起動およびシャットダウンできるほか、インスタンス、データ・ファイル、インダウト・トランザクション、プロファイル、REDO ログ・グループ、ロール、ロールバック・セグメント、スキーマ・オブジェクト、ユーザーおよび表領域の状態をチェックできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』 ■ 『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Parallel Server Management (Oracle Parallel Server の一部)	8.1.7	Oracle Parallel Server 構成を管理するための管理ツールおよびユーティリティを提供するコンポーネントです。このコンポーネントは、Oracle Parallel Server とともに自動的にサーバーにインストールされます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Parallel Server for Windows NT 管理者ガイド』 ■ 『Oracle8i Parallel Server セットアップおよび構成ガイド』
Oracle Partitioning	8.1.7	表や索引の名前に対してではなく、個々のパーティションに対してすべてのメンテナンス操作を実行することで、表や索引の管理を強化する機能です。	『Oracle8i 概要』
Oracle Performance Monitor for Windows NT	8.1.7	データベース管理者が、Windows NT パフォーマンス モニタを使用して、ローカル・データベースとリモート・データベースのパフォーマンスを監視できるようにするツールです。	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の第9章「データベースの監視」
Oracle Protocol Support - LU6.2	8.1.7	<p>このアダプタは、IBM Advanced Program-to-Program Communication (APPC) アーキテクチャの一部です。APPC は、SNA (Systems Network Architecture) ネットワーク用の IBM のピアツーピア (プログラムツープログラム) プロトコルです。SNA は、ISO (International Standards Organization) の OSI (Open Systems Interconnect) モデルに似ている IBM 参照モデルです。</p> <p>LU6.2 プロトコルおよび PU2.1 (Physical Unit Type 2.1) プロトコルを使用する SNA ネットワークによって、APPC が実現されます。LU6.2 プロトコルは、2つのアプリケーション・プログラム間のセッションを定義します。LU6.2 はコンポーネントに依存しない LU タイプです。</p> <p>LU6.2 プロトコル・サポートによって、パーソナル・コンピュータ上の Oracle アプリケーションは Oracle データベースと通信できるようになります。この通信は、APPC をサポートするホスト・システム上の Oracle データベースと SNA ネットワークを介して行われます。</p>	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Oracle Protocol Support - Named Pipes	8.1.7	Named Pipes および Net8 を使用して、クライアント / サーバーがネットワークで通信できるようにするプロトコルです。Oracle コンポーネントのこの組合せによって、クライアントの Oracle アプリケーションは、Named Pipes を介してリモートの Oracle データベースと通信できるようになります (Oracle データベースを実行しているホスト・システムが、Named Pipes を使用したネットワーク通信をサポートしている場合)。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Protocol Support - SPX	8.1.7	SPX/IPX および Net8 を使用して、クライアント / サーバーがネットワークで通信できるようにするプロトコルです。Oracle コンポーネントのこの組合せによって、クライアントの Oracle アプリケーションは、SPX/IPX を介してリモートの Oracle データベースと通信できるようになります (Oracle データベースを実行しているホスト・システムが、SPX/IPX を使用したネットワーク通信をサポートしている場合)。このプロトコルは、主に Novell Directory Services (NDS) 環境で使用されます。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Oracle Protocol Support - TCP/IP	8.1.7	TCP/IP および Net8 を使用して、クライアント / サーバーがネットワークで通信できるようにするプロトコルです。Oracle コンポーネントのこの組合せによって、クライアントの Oracle アプリケーションは、TCP/IP を介してリモートの Oracle データベースと通信できるようになります (Oracle データベースを実行しているホスト・システムが、TCP/IP を使用したネットワーク通信をサポートしている場合)。	『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
Oracle Provider for OLE DB	8.1.7	アプリケーション、コンパイラおよびその他のデータベース・コンポーネントによる高いパフォーマンスと Oracle データへの効果的なアクセスを提供するインタフェースです。	『Oracle Provider for OLE DB ユーザーズ・ガイド』
Oracle Remote Configuration Agent	8.1.7	Oracle Administration Assistant for Windows NT からのリモート構成および監視を使用可能にするコンポーネントです。	なし
Oracle Schema Manager (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	クラスタ、索引、スナップショット、表およびビューのようなスキーマ・オブジェクトを作成、変更または削除できるようにするツールです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Security Manager (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	データベース・ユーザーおよび対応付けられた権限、プロファイルおよびロールを管理するツールです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	8.1.7	Oracle8 データベース・リリース 8.0.6 およびリリース 8.1.x と Microsoft Transaction Server を完全に統合するコンポーネントです。このコンポーネントによって、Microsoft Transaction Server を使用する COM ベースのアプリケーションの開発および配置が可能になります。	『Oracle8 と Microsoft Transaction Server の連携』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Servlet Engine (Oracle8i JVM の一部)	8.1.7	Oracle8i データベースに直接構築されている Web サーバーです。Oracle Servlet Engine には、HTTP リスナーが含まれ、Java Server Pages (JSP) の配布とサーブレットの実行をデータベース上で直接行う機能があります。	『Oracle8i Oracle Servlet Engine ユーザーズ・ガイド』
Oracle SNMP Agent	8.1.7	SNMP ベースの任意のネットワーク管理システムによって Oracle コンポーネントの識別、監視および位置の特定を行えるようにするコンポーネントです。	『Oracle SNMP サポート・リファレンス・ガイド』
Oracle Spatial (以前の名称は Oracle8i Spatial)	8.1.7	ユーザーが、より簡単かつ直感的に空間データの格納、取出しおよび操作を実行できるようにするコンポーネントです。	『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
Oracle Spatial Index Advisor (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の一部)	2.2	データの空間索引の分析およびチューニングを支援するツールです。その分析機能によって、問合せのパフォーマンスが最適化されるように索引が正しく定義されているかがわかります。また、視覚的な検証によってデータの配布を理解できるようになります。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle SQLJ	8.1.7	埋込み SQL 文を伴う Java プログラムに対するプリプロセッサです。JDBC コールを伴う Java プログラムを生成します。	『Oracle8i JDBC 開発者ガイドおよびリファレンス』
Oracle Storage Manager (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	データベース記憶域を最適化するために、表領域、データ・ファイル、REDO ログおよびロールバック・セグメントを管理できるようにするツールです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Trace	8.1.7	SQL 解析、実行、フェッチの統計および待機状況統計といった、パフォーマンスおよびリソース使用率データを収集するコンポーネントです。	『Oracle8i パフォーマンスのための設計およびチューニング』
Oracle Time Series (以前の名称は Oracle8i Time Series)	8.1.7	オブジェクト・データ型 (ODT) によって、タイムスタンプ付きのデータを格納し検索するコンポーネントです。	『Oracle8i Time Series ユーザーズ・ガイド』
Oracle Universal Installer	1.7.1	Oracle コンポーネントのインストール、更新、削除を短時間で実行できる GUI (グラフィカル・ユーザー・インタフェース) アプリケーションです。	「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer Concepts Guide」を選択します。

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Utilities	8.1.7	データベース管理に使用される一連のコンポーネントです。Oracle Utilities には、Server Manager、Export Utility、Import Utility、SQL*Loader、Database Verify Utility、Migration Utility および Recovery Manager が含まれます。	『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』 注意： ORADIM などの Windows NT のみのユーティリティについては、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』で説明します。
Oracle Visual Information Retrieval (以前の名称は Oracle8i Visual Information Retrieval)	8.1.7	オブジェクト・データ型を介してイメージの格納、内容に基づく取出し、および形式変換を行うコンポーネントです。このコンポーネントは、エンド・ユーザー向けのアプリケーションではなく、様々な画像処理アプリケーションの基本要素です。このコンポーネントの共通アプリケーションには、デジタル美術館、デジタル博物館、不動産販売、ドキュメントの画像処理があり、(ファッション・デザイナーや建築家のための) 写真コレクションがストックされています。デモも含まれています。	『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』
Oracle Visual Information Retrieval Client	8.1.7	このコンポーネントには、Oracle8i データベースによって管理されるイメージ・データを保存、取得および操作する機能があります。	『Oracle Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』
Oracle Wallet Manager	2.1	1 対の公開鍵と秘密鍵を生成して認証局に発行する証明書要求の作成、認証のための証明書のインストール、認証のための信頼できる認証局を構成するツールです。	『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』
Oracle Workflow	2.5.2	Oracle Workflow は、ビジネス・プロセスの定義および自動化をサポートする完全なワークフロー管理システムです。このテクノロジーにより、ビジネス・プロセスの自動化と継続的な改善が可能になり、ユーザー定義のビジネス・ルールに従って任意のタイプの情報をルーティングできます。	『Oracle Workflow ガイド』
Oracle Workflow Builder	2.5.2	Oracle Workflow Builder は、ワークフロー・プロセス定義を作成、表示および変更するためのグラフィカル・ユーザー・インタフェース・ツールです。Oracle Workflow Builder には、ビジネス・プロセスのアクティビティとコンポーネントを定義するナビゲータ・ウィンドウがあります。	『Oracle Workflow ガイド』

コンポーネント	リリース	説明	参照
Oracle Workflow Mailer	2.5.2	<p>このコンポーネントは、Oracle Workflow 通知システムの電子メール送信および応答処理を実行します。プログラムは、通知電子メール・メッセージをユーザーに送信し、ユーザー応答を解析して通知を完了します。このコンポーネントには、Windows NT 上の任意の MAPI 準拠メール・アプリケーションと直接統合できる実装があります。</p> <p>MAPI 準拠の実装を Windows NT コンピュータにインストールするには、「Oracle8i Client」最上位コンポーネントの「カスタム」インストール・タイプを使用して Oracle Workflow Mailer を選択します。この実装では、MAPI 準拠のメール・アプリケーションがコンピュータにインストールされ、メール・サーバーとして機能している必要があります。</p>	『Oracle Workflow ガイド』
Oracle XML Developer's Kit	8.1.7	<p>このキットは、XML データの受渡しと生成を行う API セットから構成されます。これらのインタフェースは、Java、C、C++ および PL/SQL 用に作成されています。このキットは、次のコンポーネントから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ XML Parser for Java ■ XML Parser for C ■ XML Parser for C++ ■ XML Parser for PL/SQL ■ XML Class Generator for Java ■ XML Class Generator for C++ ■ XML Transviewer Beans ■ XSQL Servlet 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド - XML』 ■ 『Oracle8i XML リファレンス・ガイド』
Oracle XML SQL Utility	2.0	<p>このユーティリティは、問合せが結果セットまたは XML にラップされているオブジェクトを返せるようにする Java クラスおよび PL/SQL ラッパーのセットです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド - XML』 ■ 『Oracle8i XML リファレンス・ガイド』
Oracle8i Server	8.1.7	Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition ソフトウェアのデータベース・コンポーネントです。	『Oracle8i 概要』
Oracle8i Windows Documentation (インストール・ガイドおよびリリース・ノート)	8.1.7	<p>インストール・ガイド（このガイド）では、Oracle コンポーネントのインストール方法を説明します。『Oracle8i for Windows リリース・ノート』には、重要な最新情報が記載されています。</p>	<p>このインストール・ガイド</p> <p>『Oracle8i for Windows リリース・ノート』</p>

コンポーネント	リリース	説明	参照
PL/SQL	8.1.7	Oracle による SQL のプロシージャ拡張である PL/SQL は、高度な第 4 世代プログラミング言語 (4GL) です。PL/SQL には、カプセル化、オーバーロード、コレクション型、例外処理、情報隠蔽などの最新機能が用意されています。PL/SQL では、透過的な SQL アクセス、Oracle サーバーとツールの緊密な統合、移植性およびセキュリティも提供されます。	『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
PL/SQL Embedded Gateway	8.1.7	このコンポーネントは、PL/SQL Gateway の汎用機能を Oracle8i データベースに直接組み込んでいます。このコンポーネントを使用すると、ユーザーは、ブラウザを使用して、Oracle8i データベースに格納されている PL/SQL プロシージャを起動できます。ストアド・プロシージャは、データベース内の表からデータを検索し、データを含む HTTP 応答（たとえば、HTML ページなど）を生成して、クライアントのブラウザに返すことができます。	『Oracle8i Oracle Servlet Engine ユーザーズ・ガイド』
Pro*C/C++	8.1.7	Pro*C/C++ プリコンパイラは、C および C++ プログラムに埋め込まれている SQL 文を受け取り、標準 C コードに変換します。このコードをプリコンパイルすると、C または C++ プログラムになります。このプログラムをコンパイルして、Oracle データベースにアクセスするアプリケーションを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Pro*C/C++ for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』
Pro*COBOL	8.1.7 および 1.8.52	Oracle8i データベースにアクセスするには、SQL という高級問合せ言語を使用します。通常は、SQL*Plus などの対話形式インタフェースを介して SQL を使用します。Pro*COBOL は、COBOL プログラム内に埋め込まれている SQL 文を標準 Oracle ランタイム・ライブラリ・コールに変換するプリコンパイラです。出力ファイルは、その後、COBOL コンパイラでコンパイルできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle8i Pro*COBOL プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Pro*COBOL for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』
Replication API	8.1.7	レプリケーション管理用にカスタマイズされたスクリプトを作成する API を提供するツールです。	『Oracle8i レプリケーション・マネージメント API リファレンス』
SQL*Plus	8.1.7	Windows 環境で、SQL および PL/SQL データベース言語を使用できるようにするツールです。SQL*Plus には、コマンドライン・バージョンと GUI バージョンがあります。	『Oracle8i SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』

コンポーネント	リリース	説明	参照
SQL*Plus Worksheet (Oracle DBA Management Pack の一部)	2.2	手動で、SQL、PL/SQL およびデータベース管理者のコマンドを入力したり、ストアド・スクリプトを実行したりするための GUI アプリケーションです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
SQLJ Runtime (Oracle SQLJ とともにインストールされる)	8.1.7	JDBC ドライバ上で実行する Pure Java コードのシン・レイヤーです。Oracle SQLJ によって SQLJ ソース・コードが変換されるときに、Java アプリケーションに埋め込まれた SQL コマンドは SQLJ Runtime コールに置換されません。	『Oracle8i SQLJ 開発者ガイドおよびリファレンス』
SQLJ Translator (Oracle SQLJ とともにインストールされる)	8.1.7	埋込み SQL 文が含まれている Java プログラムに対するプリプロセッサです。SQLJ Translator は、SQL 文を JDBC コールに変換します。	『Oracle8i SQLJ 開発者ガイドおよびリファレンス』
WINSOCK2 on Windows NT サポート	8.1.7	Net8 は、WINSOCK 1.1 および WINSOCK2 ソケット・インタフェースの両方をサポートします。Net8 は Windows NT 上の WINSOCK2 を自動的に検出し、使用可能な場合は WINSOCK2 を使用します。WINSOCK2 は、Windows NT リリース 4.0 オペレーティング・システムの標準機能です。Oracle は、Net8 で次の WINSOCK2 機能を使用します。 <ul style="list-style-type: none">■ イベントと重複した I/O■ 共有ソケット（オプション機能として使用可能）	『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録 E「Net8 の構成」

参照： [付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#) には、個々のコンポーネントをインストールするときのインストール・タイプの詳細があります。

各国語サポート

この付録では、各国語サポート（NLS）について説明します。

次の項目について説明します。

- [NLS_LANG パラメータ](#)
- [一般的に使用される NLS_LANG の値](#)
- [MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定](#)

NLS_LANG パラメータ

Oracle は各国語サポート (NLS) を提供します。これによってユーザーは、NLS_LANG パラメータに定義されたそれぞれの言語のデータベースを対話的に操作できます。Oracle8i コンポーネントをインストールすると、NLS_LANG パラメータは Net8 Client インストール・スクリプトによって登録されます。

インストール時の NLS_LANG パラメータのデフォルト値は、現在選択されている Oracle ホームの既存の NLS_LANG パラメータの値、またはオペレーティング・システムのデフォルト言語に対応する値です。デフォルト言語と NLS_LANG の値のマッピングのリストは、C-3 ページの「[一般的に使用される NLS_LANG の値](#)」にあります。

NLS_LANG パラメータは、
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\HOME\ID\NLS_LANG サブキーのレジストリに格納されています。ただし ID は Oracle ホームを識別する一意の番号です。

NLS_LANG パラメータは、次のような形式です。

`NLS_LANG = LANGUAGE_TERRITORY.CHARACTER_SET`

文字列の意味は、次のとおりです。

<code>LANGUAGE</code>	言語と、その言語でメッセージ、曜日、月を表示する場合の規則などを指定します。
<code>TERRITORY</code>	地域と、その地域で週数と日数を計算する場合の規則などを指定します。
<code>CHARACTER_SET</code>	メッセージを表示する場合に使用するキャラクタ・セットを制御します。

参照：

- 複数の Oracle ホームに対するサブキーの位置の詳細は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録 C を参照してください。
- 『Oracle8i NLS ガイド』には、NLS_LANG パラメータおよび NLS 初期化パラメータの詳細があります。

一般的に使用される NLS_LANG の値

次の表は、一般的に使用される様々な言語に対応する NLS_LANG の値を示しています。

言語	NLS_LANG の値
アラビア語	ARABIC_UNITED ARAB EMIRATES.AR8MSWIN1256
ブラジル・ポルトガル語	BRAZILIAN PORTUGUESE_BRAZIL.WE8ISO8859P1
ブルガリア語	BULGARIAN_BULGARIA.CL8MSWIN1251
カナダ・フランス語	CANADIAN FRENCH_CANADA.WE8ISO8859P1
カタロニア語	CATALAN_CATALONIA.WE8ISO8859P1
クロアチア語	CROATIAN_CROATIA.EE8MSWIN1250
チェコ語	CZECH_CZECH REPUBLIC.EE8MSWIN1250
デンマーク語	DANISH_DENMARK.WE8ISO8859P1
オランダ語	DUTCH_THE NETHERLANDS.WE8ISO8859P1
エジプト語	ARABIC_UNITED ARAB EMIRATES.AR8MSWIN1256
英語	AMERICAN_AMERICA.WE8ISO8859P1
英語 (イギリス)	ENGLISH_UNITED KINGDOM.WE8ISO8859P1
エストニア語	ESTONIAN_ESTONIA.BLT8MSWIN1257
フィンランド語	FINNISH_FINLAND.WE8ISO8859P1
フランス語	FRENCH_FRANCE.WE8ISO8859P1
ドイツ語	GERMAN_GERMANY.WE8ISO8859P1
ギリシャ語	GREEK_GREECE.EL8MSWIN1253
ヘブライ語	HEBREW_ISRAEL.IW8MSWIN1255
ハンガリー語	HUNGARIAN_HUNGARY.EE8MSWIN1250
アイスランド語	ICELANDIC_ICELAND.WE8ISO8859P1
インドネシア語	INDONESIAN_INDONESIA.WE8ISO8859P1
イタリア語	ITALIAN_ITALY.WE8ISO8859P1
日本語	JAPANESE_JAPAN.JA16SJIS
韓国語	KOREAN_KOREA.KO16KSC5601

言語	NLS_LANG の値
ラテンアメリカ・ スペイン語	LATIN AMERICAN SPANISH_AMERICA.WE8ISO8859P1
ラトビア語	LATVIAN_LATVIA.BLT8MSWIN1257
リトアニア語	LITHUANIAN_LITHUANIA.BLT8MSWIN1257
スペイン語（メキシコ）	MEXICAN SPANISH_MEXICO.WE8ISO8859P1
ノルウェー語	NORWEGIAN_NORWAY.WE8ISO8859P1
ポーランド語	POLISH_POLAND.EE8MSWIN1250
ポルトガル語	PORTUGUESE_PORTUGAL.WE8ISO8859P1
ルーマニア語	ROMANIAN_ROMANIA.EE8MSWIN1250
ロシア語	RUSSIAN_CIS.CL8MSWIN1251
中国語（簡体字）	SIMPLIFIED CHINESE_CHINA.ZHS16GBK
スロバキア語	SLOVAK_SLOVAKIA.EE8MSWIN1250
スペイン語	SPANISH_SPAIN.WE8ISO8859P1
スウェーデン語	SWEDISH_SWEDEN.WE8ISO8859P1
タイ語	THAI_THAILAND.TH8TISASCII
中国語（繁体字）	TRADITIONAL CHINESE_TAIWAN.ZHT16MSWIN950
トルコ語	TURKISH_TURKEY.WE8ISO8859P9
ウクライナ語	UKRAINIAN_UKRAINE.CL8MSWIN1251
ベトナム語	VIETNAMESE_VIETNAM.VN8MSWIN1258

MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定

Oracle Internet Directory コマンドライン・ツールや、SQL*Plus、SQL*Loader、Import、Export などの Oracle Utilities を MS-DOS モードで使用するときは、最初にそのセッションの NLS_LANG パラメータのキャラクタ・セット・フィールドを正しい値に設定する必要があります。

注意： Oracle Internet Directory コマンドライン・ツールは、コンピュータの MS-DOS コマンド・プロンプトから実行します。これらのツールを実行するために、Windows NT 用の UNIX エミュレーション・ユーティリティは不要です。エミュレーション・ユーティリティは、Oracle Internet Directory のシェル・スクリプト・ツールを実行する場合にのみ必要です。詳細は、『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

これは、いくつかの例外がありますが、MS-DOS モードでは OEM コード・ページなどの Windows (ANSI コード・ページ) とは異なるキャラクタ・セット (またはコード・ページ) を使用し、レジストリ内のデフォルトの Oracle ホームの NLS_LANG パラメータが常に該当する Windows コード・ページに設定されているためです。MS-DOS モード・セッションの NLS_LANG パラメータが適切に設定されていない場合、キャラクタ・セットの変換が正しく行われなためにエラー・メッセージやデータが破壊される可能性があります。

日本語、韓国語、中国語 (簡体字) および中国語 (繁体字) では、OEM コード・ページは ANSI コード・ページと同一です。このような場合は、MS-DOS モードで NLS_LANG パラメータを設定する必要はありません。

バッチ・モードでも同様に、バッチ・プロシージャの開始時に SET NLS_LANG コマンドを挿入して、プロシージャで処理するファイルのキャラクタ・セットに応じて、NLS_LANG に適切なキャラクタ・セット値を設定します。

次の表は、サポートされている各言語の MS-DOS モードでの OEM プライマリ・コード・ページに対応する Oracle キャラクタ・セットを示しています。

言語	キャラクタ・セット
アラビア語	AR8ASMO8X
ブラジル・ポルトガル語	WE8PC850
カタロニア語	WE8PC850
チェコ語	EE8PC852
デンマーク語	WE8PC850
オランダ語	WE8PC850
英語	US8PC437

言語	キャラクタ・セット
フィンランド語	WE8PC850
フランス語	WE8PC850
ドイツ語	WE8PC850
ギリシャ語	EL8PC737
ハンガリー語	EE8PC852
イタリア語	WE8PC850
日本語	JA16SJIS
韓国語	KO16KSC5601
ラテンアメリカ・スペイン語	WE8PC850
ノルウェー語	WE8PC850
ポーランド語	EE8PC852
ポルトガル語	WE8PC850
ルーマニア語	EE8PC852
ロシア語	RU8PC866
中国語（簡体字）	ZHS16GBK
スロバキア語	EE8PC852
スロベニア語	EE8PC852
スペイン語	WE8PC850
スウェーデン語	WE8PC850
中国語（繁体字）	ZHT16MSWIN950
トルコ語	TR8PC857

参照： Oracle Internet Directory NLS の問題および Oracle Internet Directory 環境の様々なコンポーネントおよびツールに必要な NLS_LANG 環境変数は、『Oracle8i Internet Directory 管理者ガイド』の第 11 章を参照してください。

Legato 製コンポーネントのインストールと削除

この付録では、Legato Storage Manager (LSM) コンポーネントのインストールおよび削除方法について説明します。

次の項目について説明します。

- [LSM Server](#)
- [LSM Administrator GUI](#)

注意： この 2 つの Legato 製コンポーネントを、同じコンピュータに別個にインストールする必要はありません。LSM Server ソフトウェアには LSM Administrator GUI が含まれています。LSM Server をインストールする場合は、その同じコンピュータに LSM Administrator GUI を別途インストールしないでください。LSM Server を別の Windows NT または Windows 2000 コンピュータから管理するには、その Windows NT または Windows 2000 コンピュータに LSM Administrator GUI をインストールします。インストール方法は、D-6 ページの「[LSM Administrator GUI のインストール](#)」を参照してください。

LSM Server

LSM Server はメディア管理レイヤー（MML）です。Oracle データベースのバックアップおよびリストアに Recovery Manager（RMAN）を使用している場合、テープ・ストレージへのバックアップおよびリストアには LSM のような MML が必要です。LSM は、Legato NetWorker の縮小版です。

ここでは、次の手順の実行方法について説明します。

- [LSM Server の更新](#)
- [LSM Server のインストール](#)
- [LSM Server の削除](#)

注意： この項の指示に従って LSM Server ソフトウェアをインストールした場合、その同じコンピュータに LSM Administrator GUI を別途インストールする必要はありません。

LSM Server の更新

次に、Windows NT で LSM Server を新しいバージョンに更新する手順を示します。

1. D-5 ページの「[LSM Server の削除](#)」の手順に従って「Partial」を選択し、LSM Server を部分削除します。
2. D-2 ページの「[LSM Server のインストール](#)」の手順に従って、LSM Server の更新済バージョンをインストールします。

LSM Server のインストール

Oracle Universal Installer を使用しない LSM Server のインストール

次に、LSM Server をインストールする手順を示します。

1. Windows NT または Windows 2000 の Administrator グループのメンバーとしてコンピュータにログインします。
2. SQL*Plus を使用して、Windows システム上のすべての Oracle インスタンスをシャットダウンします。
3. すべての Oracle データベース・サービスを停止します。Oracle データベース・サービスは、OracleServiceSID の形式です。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
 - b. 「サービス」を選択します。
 - c. 「OracleServiceSID」を選択し、「停止」を選択します。

- d. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
- 4. コンポーネント CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。「Autorun」ウィンドウが表示されます。

「Autorun」ウィンドウが表示されない場合は、次の操作を行います。

- a. 「スタート」→「実行」を選択します。
- b. 次のコマンドを入力します。

```
DRIVE_LETTER:¥AUTORUN¥AUTORUN.EXE
```

「Autorun」ウィンドウが表示されます。

- 5. 「CD-ROM を検索」を選択します。
- 6. LSM ディレクトリに移動します。
- 7. LSM57_NT.EXE 自己解凍 zip ファイルをダブルクリックします。
- 8. プロンプトで、ファイルを展開するディレクトリを指定します。
- 9. LSMINST.EXE ファイルのアイコンをダブルクリックします。

インストールが完了すると、LSM Server ソフトウェアは、デフォルトでは C:¥WIN32APP¥NSR ディレクトリにインストールされます。

重要： LSMINST.EXE を実行すると、デフォルトで、LSM Server ソフトウェアが C:¥WIN32APP¥NSR にインストールされます。十分な領域がない、C: ドライブが存在しないなどの理由で、LSM Server をこのディレクトリにインストールしない場合は、次の手順を実行します。

- 1. CD-ROM の LSM ディレクトリ全体を、LSM Server をインストールするドライブにコピーします。
- 2. LSM ディレクトリにある SERVER.ISS ファイルを変更します。
Path=C:¥WIN32APP¥NSR¥ を Path=< ドライブ >:< パス名 > に変更します。
ドライブ名（デフォルトは C）またはディレクトリのパス名（デフォルトは ¥WIN32APP¥NSR¥）のみを変更することも、その両方を変更することもできます。Path は ¥NSR で終わる必要があります。また、Path に空白を含まないでください。更新済の SERVER.ISS ファイルを上書き保存します。
- 3. LSMINST.EXE ファイルのアイコンをダブルクリックします。

次の手順に従って、インストール状況を検証します。

10. 次のように、Legato サービスが開始されたことを確認します。

- a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
- b. 「サービス」をダブルクリックします。
- c. 次のサービスが「開始」状態に設定されていることをチェックします。

NetWorker Backup and Recover Server
NetWorker Power Monitor (on Windows 2000 only)
NetWorker Remote Exec Service

11. 次のように、LSM をインストールしたディレクトリをシステムの検索パスに追加します。

- a. 「コントロール パネル」を開きます。
- b. 「システム」をダブルクリックします。
- c. 「環境」タブを選択します。
- d. 「システム環境変数」リスト・ボックスから「Path」を選択します。
- e. 「値」フィールドに次のパスを追加します。

;C:¥WIN32APP¥NSR¥BIN

セミコロン (;) によって、既存のエントリと新規のエントリとを区別します。デフォルト以外のドライブまたはディレクトリへ LSM をインストールした場合は、C:¥WIN32APP¥NSR¥BIN を正しいドライブ名とパス名に置き換えます。パス名は常に ¥BIN で終わります。

- f. 「設定」を選択します。
- g. 「OK」を選択します。
- h. コンピュータを再起動して、変更をすべて有効にします。

参照： 記憶デバイス構成の詳細は、『Oracle8i Legato Storage Manager 管理者ガイド』の「メディア管理」を参照してください。

LSM Server の削除

重要： LSM から Legato NetWorker Module for Oracle にアップグレードする場合は、索引を削除しないでください。「Partial」を選択します。ファイル索引 (¥NSR¥INDEX)、サーバー・リソース・ファイル (¥NSR¥RES)、メディア・データベース (¥NSR¥MM) の、最新の全体バックアップを必ずとるようにしてください。アップグレードするバージョンの『Installation Guide for the Legato NetWorker Module for Oracle』を参照してください。

Oracle Universal Installer を使用して LSM Server を削除することはできません。LSM Server ソフトウェアを削除するには、次の手順を実行します。

次に、LSM Server を削除する手順を示します。

1. Windows NT または Windows 2000 の Administrator グループのメンバーとしてコンピュータにログインします。
2. SQL*Plus を使用して、Windows システム上のすべての Oracle インスタンスをシャットダウンします。
3. すべての Oracle データベース・サービスを停止します。Oracle データベース・サービスは、OracleServiceSID の形式です。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
 - b. 「サービス」をダブルクリックします。
 - c. 「OracleServiceSID」を選択し、「停止」を選択します。
 - d. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
4. 「スタート」→「プログラム」→「NetWorker Group」→「Uninstall NetWorker」を選択します。
5. 「Complete」または「Partial」を選択します。

注意： すべてのデータベース、索引およびリソース・ファイルを削除する場合にのみ、「Complete」を選択してください。

NetWorker Uninstaller によって LSM がコンピュータから削除されます。

6. Windows NT 上で前のバージョンの LSM Server ソフトウェアからアップグレードする場合は、C:¥WINNT¥SYSTEM32 ディレクトリからインタフェース・ファイル ORASBT.DLL を削除します。WINNT は Windows NT のインストール・ディレクトリです。

7. 「Partial」を選択した場合は、NSR¥BIN ディレクトリを手動で削除してください。たとえば、LSM がデフォルト・ディレクトリにインストールされていた場合は、C:¥WIN32APP¥NSR¥BIN ディレクトリを削除してください。

LSM Administrator GUI

LSM Server を別の Windows NT または Windows 2000 コンピュータから管理する場合は、そのコンピュータに LSM Administrator GUI（コンポーネント CD-ROM に含まれています）をインストールする必要があります。

ここでは、次の手順の実行方法について説明します。

- [LSM Administrator GUI の更新](#)
- [LSM Administrator GUI のインストール](#)
- [LSM Administrator GUI の削除](#)

LSM Administrator GUI の更新

次に、Windows NT クライアント・コンピュータ上の LSM Administrator GUI を新しいバージョンに更新する手順を示します。

1. D-8 ページの「[LSM Administrator GUI の削除](#)」の手順に従って、既存の LSM Administrator GUI を完全に削除します。
2. D-6 ページの「[LSM Administrator GUI のインストール](#)」の手順に従って、更新されたバージョンの LSM Administrator GUI をインストールします。

LSM Administrator GUI のインストール

LSM Server を使用してテープにバックアップし、Windows NT または Windows 2000 クライアント・コンピュータから LSM Server を管理する場合は、クライアント・コンピュータ上に LSM Administrator GUI をインストールする必要があります。

注意： LSM Administrator GUI のインストールは、Windows NT および Windows 2000 でのみサポートされます。また、LSM Administrator GUI をインストールする前に、その Windows NT または Windows 2000 クライアント・コンピュータに、LSM Server および NetWorker ソフトウェアが現在インストールされていないことを確認してください。

次に、Windows NT または Windows 2000 クライアント・コンピュータに LSM Administrator GUI をインストールする手順を示します。

1. Windows NT または Windows 2000 の Administrator グループのメンバーとしてコンピュータにログインします。
2. コンポーネント CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. CD-ROM の LSM フォルダに移動します。
4. LSM57_NT.EXE 自己解凍 zip ファイルをダブルクリックします。
5. プロンプトで、ファイルを展開するディレクトリを指定します。
6. SETUP.EXE のアイコンをダブルクリックするか、コマンド・オプションを指定せずに MS-DOS コマンド・プロンプトから SETUP.EXE を実行します。「SETUP Options」が表示されます。
7. 「Client Only」を選択し、「Next」を選択します。
8. デフォルトの C:\Program Files\NSR ディレクトリに LSM Administrator GUI をインストールする場合は、「Choose destination directory」ウィンドウで「Next」を選択します。別のインストール先ディレクトリを選択する場合は、「Browse」を選択し、目的の位置を選択します。
9. 「Authorize NetWorker Servers」ウィンドウでは、フィールドを空白にしたまま、「Next」を選択します。

ソフトウェアが正常にインストールされたことを示すメッセージ・ボックスが表示されます。
10. 「OK」を選択します。
11. 次のように、Legato サービスが開始されたことを確認します。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
 - b. 「サービス」をダブルクリックします。
 - c. 次のサービスが「開始」状態に設定されていることをチェックします。

NetWorker Power Monitor (on Windows 2000 only)
NetWorker Remote Exec

参照：『Oracle8i Legato Storage Manager 管理者ガイド』には、LSM Administrator GUI の使用方法の詳細があります。

LSM Administrator GUI の削除

次に、Windows NT または Windows 2000 クライアント・コンピュータから LSM Administrator GUI を削除する手順を示します。

1. Windows NT または Windows 2000 の Administrator グループのメンバーとしてコンピュータにログインします。
2. SQL*Plus を使用して、Windows システム上のすべての Oracle インスタンスをシャットダウンします。
3. すべての Oracle データベース・サービスを停止します。Oracle データベース・サービスは、OracleServiceSID の形式です。
 - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
 - b. 「サービス」をダブルクリックします。
 - c. 「OracleServiceSID」を選択し、「停止」を選択します。
 - d. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
4. 「スタート」→「プログラム」→「NetWorker Group」→「Uninstall NetWorker」を選択します。
5. 「Uninstall NetWorker」ウィンドウで、削除オプションとして「Complete」を選択し、「OK」を選択します。
6. クライアントが正常に削除されたことを示すメッセージ・ボックスが表示されたら、「OK」を選択します。

用語集

IPC

データベースと通信するためにリスナーと同じノードに置かれる、クライアント・アプリケーションで使用されるプロトコル。

LDAP.ORA ファイル (LDAP.ORA file)

次のディレクトリ・アクセス情報を含む、Net8 Configuration Assistant により作成されるファイル。

- ディレクトリのタイプ
- ディレクトリの位置
- クライアントまたはサーバーがデータベース・サービスに接続するための接続識別子を検索または構成するために使用する、デフォルトの管理コンテキスト

LDAP.ORA ファイルは、`ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥NETWORK¥ADMIN` に置かれている。

LISTENER.ORA ファイル (LISTENER.ORA file)

リスナーが次を識別するための構成ファイル。

- リスナー名
- 接続要求を受け付けたプロトコル・アドレス
- リスニング中のサービス

LISTENER.ORA ファイルは、`ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥NETWORK¥ADMIN` に置かれている。

Oracle8i データベースはサービス登録によりデータベース・サービスの識別を必要としない。しかし Oracle Enterprise Manager を使用する計画がある場合は、Oracle8i データベースに静的サービス構成は必要である。

OPS\$

初期化ファイル・パラメータ OS_AUTHENT_PREFIX により、データベースに接続するユーザーを認証するために Oracle で使用される接頭辞をユーザーが指定できる。Oracle は、このパラメータの値をユーザーのオペレーティング・システム・アカウント名およびパスワードの前に連結する。接続要求が発行されると、Oracle は接頭辞の付いたユーザー名をデータベース内の Oracle ユーザー名と比較する。

このパラメータのデフォルト値は "" (NULL 文字列) であり、オペレーティング・システム・アカウント名に接頭辞が追加されたものは除去される。以前のリリースでは、OPS\$ (オペレーティング・システム固有の短縮名) がデフォルト設定だった。

Oracle Management Server

Oracle Enterprise Manager の中間層で、集中化されたインテリジェント機能と配布制御をコンソール・クライアントと管理対象ノードの間で実現する。

Oracle8i

使用可能な Oracle8i データベース・タイプの 1 つ。Oracle8i には、Oracle Parallel Server、Oracle Advanced Security、Oracle Partitioning、Oracle Spatial、Oracle Time Series、Oracle Visual Information Retrieval および Oracle Visual Information Retrieval Client は含まれない。

Oracle8i Enterprise Edition

完全なデータベース・タイプ。

Oracle8i Personal Edition for Windows NT

使用可能な Oracle8i データベース・タイプの 1 つ。Oracle8i Personal Edition for Windows NT には、Oracle Parallel Server が含まれない。

Oracle コンテキスト (Oracle Context)

相対識別名が cn=OracleContext のディレクトリ・サブツリーのルートで、すべての Oracle ソフトウェア情報が保持される。ディレクトリ内には 1 つ以上の Oracle コンテキストを含めることができる。Oracle コンテキストは、ディレクトリ・ネーミング・コンテキストと関連付けることができる。

Oracle コンテキストは、次の Oracle エントリを含めることができる。

- Net8 ディレクトリ・ネーミングとともに使用してデータベース接続を行う接続識別子
- Oracle Advanced Security とともに使用するエンタープライズ・ユーザー・セキュリティ

Oracle スキーマ (Oracle schema)

LDAP 準拠のディレクトリ・サーバーに格納できるものを決定する規則の集合。Oracle は、Net8 エントリを含む多くのタイプの Oracle エントリに適用される独自のスキーマを持つ。Net8 エントリ用の Oracle スキーマは、エントリに含まれる属性を含む。

Oracle ホーム (Oracle home)

Oracle コンポーネントをインストールするディレクトリ・パス（たとえば、D:\Oracle\Ora81 など）。Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ウィンドウの「パス」フィールドで、Oracle ホームの入力が要求される。

Oracle ホーム名 (Oracle home name)

現在の Oracle ホームの名前。各 Oracle ホームには、コンピュータ上のすべての Oracle ホームと区別するために名前が付いている。インストール時に、Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ウィンドウの「名前」フィールドで、Oracle ホーム名の入力が要求される。

SQLNET.ORA ファイル (SQLNET.ORA file)

クライアントまたはサーバーの構成ファイルで、次を指定する。

- 修飾されていないサービス名またはネット・サービス名に追加されるクライアント・ドメイン
- 名前を解決するときにクライアントが使用するネーミング・メソッドの順序
- 使用するロギング機能およびトレース機能
- 接続の経路
- Oracle Names サーバーの作業環境
- 外部ネーミング・パラメータ
- Oracle Advanced Security パラメータ

SQLNET.ORA ファイルは、ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\NETWORK\ADMIN に置かれている。

TNSNAMES.ORA ファイル (TNSNAMES.ORA file)

接続記述子にマップされるネット・サービス名を含む構成ファイル。このファイルは、ローカル・ネーミング・メソッド用に使用される。TNSNAMES.ORA ファイルは、ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\NETWORK\ADMIN に置かれている。

インストール・タイプ (installation types)

Oracle Universal Installer をコンポーネント CD-ROM から実行する場合は、インストール・タイプのインストールが要求される。各インストール・タイプには、一連のコンポーネントが含まれる。次のインストール・タイプをインストールに使用できる。

最上位コンポーネント	使用可能なインストール・タイプ
Oracle8i Enterprise Edition、Oracle8i または Oracle8i Personal Edition	<ul style="list-style-type: none">■ 標準■ 最小■ カスタム
Oracle8i Client	<ul style="list-style-type: none">■ 管理者■ プログラマ■ アプリケーション・ユーザー■ カスタム
Oracle8i Management and Integration	<ul style="list-style-type: none">■ Oracle Management Server■ Oracle Internet Directory■ Oracle Integration Server■ カスタム

参照： 各インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照。

オペレーティング・システムの認証による接続 (operating system authenticated connections)

Windows NT ログイン資格証明を Oracle8i データベースへのユーザー接続の認証に使用できる。Windows NT ネイティブの認証には、次の利点がある。

- ユーザーはユーザー名やパスワードを入力しなくても、複数の Oracle8i データベースに接続できる。
- Oracle8i データベースのユーザー認可情報を Windows NT で一元管理することによって、Oracle8i でユーザー・パスワードを保管または管理する必要がなくなる。

外部ルーチン (external routines)

Oracle サーバー上で実行される PL/SQL ルーチンは、C プログラミング言語で記述され、共有ライブラリに格納された外部プロシージャまたは外部関数をコールできる。Oracle8i データベースが外部ルーチンに接続するためには、サーバーがネット・サービス名付きで構成され、リスナーがプロトコル・アドレスおよびサービス情報付きで構成される必要がある。外部ルーチンは、以前は外部プロシージャと呼ばれていた。

管理コンテキスト (administrative context)

Oracle コンテキストが置かれるディレクトリ・エントリ。管理コンテキストは、ディレクトリ・ネーミング・コンテキストとなることも可能。ディレクトリ・アクセスの構成中に、クライアントはディレクトリ構成ファイル (LDAP.ORA) 内の管理コンテキストを使用して構成される。管理コンテキストは、クライアントがアクセスするディレクトリ内の Oracle コンテキストの場所を指定する。Windows 2000 では、ドメインが管理コンテキストになる。

クラスタ (cluster)

クラスタは、一般に 2 台以上のコンピュータ (ノード) から構成される。Oracle Parallel Server ソフトウェア、およびクラスタと呼ばれるハードウェアのコレクションは、各コンポーネントの処理能力を統合して、単一の堅牢なコンピューティング環境となる。Oracle Parallel Server は、相互接続された複数のコンピュータの処理能力を装備する堅牢なコンピューティング環境である。

サービス登録 (service registration)

PMON プロセス (インスタンス・バックグラウンド・プロセス) がリスナーに情報を自動的に登録する機能。この情報はリスナーに登録されるため、LISTENER.ORA ファイルはこの静的情報とともに構成する必要はない。

サービス登録はリスナーに次の情報を提供する。

- 実行中のデータベースの各インスタンス用のサービス名
- データベースのインスタンス名
- 各インスタンスで利用可能なサービス・ハンドラ (ディスパッチャおよび専用サーバー)

これにより、リスナーがクライアントの要求を正しく管理できる。

- ディスパッチャ、インスタンスおよびノードのロード情報

これにより、リスナーがクライアントの接続要求を処理できる最良のディスパッチャを決定できる。すべてのディスパッチャがブロックされている場合、リスナーは接続に対して専用サーバーを実行できる。

この情報により、リスナーはクライアント接続要求に対するサービスの程度を判断できる。

最上位コンポーネント (top-level components)

Oracle Universal Installer をコンポーネント CD-ROM から実行する場合は、「使用可能な製品」ウィンドウで、最上位コンポーネントのインストールが要求される。各最上位コンポーネントには、選択できる複数のインストール・タイプが含まれる。各インストール・タイプには、一連のコンポーネントが含まれる。各最上位コンポーネントで使用可能なインストール・タイプのリストは、用語集 -4 ページの「[インストール・タイプ](#)」を参照。

修飾されていない名前 (unqualified name)

ネットワーク・ドメインを含まないネット・サービス名。

接続記述子 (connect descriptor)

ネットワーク接続の宛先で、特別なフォーマットの記述のもの。接続記述子は宛先サービスおよびネットワーク経路情報を含む。

リリース 8.0 またはバージョン 7 の Oracle データベースでは、宛先サービスは Oracle8i データベース用のサービス名またはその Oracle システム識別子 (SID) を使用して表される。ネットワーク経路は、最低でも、ネットワーク・アドレスを使用してリスナーの場所を提供する。

接続識別子 (connect identifier)

接続記述子を解決する名前、ネット・サービス名またはサービス名。ユーザーは、接続するサービスに対する接続文字列内に、接続識別子とともにユーザー名およびパスワードを渡すことで接続要求を開始する。たとえば、次のようにする。

```
SQL> CONNECT USERNAME/PASSWORD@CONNECT_IDENTIFIER
```

ディレクトリ・サーバー (directory server)

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を使用してアクセスされる LDAP 準拠のディレクトリ・サーバー。ディレクトリは集中化された記憶領域を提供し、データベース・ネットワーク・コンポーネント、ユーザー方針およびコーポレート方針の作業環境、ユーザーの認証およびセキュリティの情報を取り出し、クライアント側とサーバー側のローカル・ファイルを置き換える。

ディレクトリ情報ツリー (Directory Information Tree: DIT)

エントリの識別名 (Distinguished Name: DN) のディレクトリ・サーバー内の階層的なツリー構造。

ディレクトリ・ネーミング・コンテキスト (directory naming context)

ディレクトリ・サーバー内の重要なサブツリー。通常、編成されているいくつかのサブツリーの一番上となる。一部のディレクトリでは固定されたコンテキストのみ許される。他はディレクトリ管理者によりゼロ個以上が構成される。

ディレクトリ・ネーミング・メソッド (directory naming method)

データベース・サービスまたはネット・サービス名を接続記述子に解決するネーミング・メソッドで、中央のディレクトリ・サーバーに格納される。

ディレクトリは、データベース・サービスおよびネット・サービス名の集中管理を提供し、サービスの追加または再配置に関連する作業量を軽減する。ネット・サービス名はサービスの別名として構成できるのに対し、ディレクトリはネット・サービス名を使用せずにデータベース・サービス・ディレクトリを参照できる。さらに構成を簡単にするために、インストール中にデータベース・サービスはディレクトリ内のエントリとして自動的に追加される。

デフォルト・ドメイン (default domain)

ほとんどのクライアント要求が置かれるネットワーク・ドメイン。クライアントが置かれるドメイン、またはクライアントがネットワーク・サービスを要求するドメインとなることがある。デフォルト・ドメインは、修飾されていないネットワーク名要求に追加されるドメインを決定するクライアント構成パラメータにもなる。"." 文字を含まない場合、名前要求は修飾されない。

ネーミング・メソッド (naming method)

データベース・サービスに接続するためにクライアント・アプリケーションで接続識別子をネットワーク・アドレスに解決するために使用される解決方法。Net8 は、次のネーミング・メソッドをサポートする。

- ローカル・ネーミング
- ディレクトリ・ネーミング
- Oracle Names
- ホスト・ネーミング
- 外部ネーミング

ネット・サービス名 (net service name)

接続記述子に解決されるサービスの単純名。ユーザーは、接続するサービスに対する接続文字列内に、ネット・サービス名とともにユーザー名およびパスワードを渡すことで接続要求を開始する。たとえば、次のようにする。

```
SQL> CONNECT USERNAME/PASSWORD@NET_SERVICE_NAME
```

要求に応じて、ネット・サービス名は次のような様々な場所に格納できる。

- ローカル構成ファイル（各クライアントの TNSNAMES.ORA）
- ディレクトリ・サーバー
- Oracle Names サーバー
- 外部ネーミング・サービス（Novell Directory Service（NDS）、Network Information Service（NIS）、Cell Directory Service（CDS）など）

プロトコル・アドレス (protocol address)

ネットワーク・オブジェクトのネットワーク・アドレスを識別するアドレス。

接続が行われるとき、クライアントとその要求の受信者（リスナー、Oracle Names Server または Oracle Connection Manager）は同じプロトコル・アドレスを使用して構成される。クライアントはこのアドレスを使用して接続要求を特定のネットワーク・オブジェクト位置に送信し、レスピエントはこのアドレスで要求のリスニングを行う。クライアントと接続レスピエントに対して同じプロトコルをインストールし、同じアドレスを構成することが重要である。

データベースと通信するためにリスナーと同じノードに置かれる、クライアント・アプリケーションで 사용되는プロトコル。

リスナー (listener)

クライアントからの接続要求をリスニングし、サーバーへの通信量を管理する責任のあるサーバーに置かれるプロセス。

クライアントがサーバーとのネットワーク・セッションを要求するたびに、リスナーは実際の要求を受け取る。クライアント情報がリスナーの情報と一致した場合、リスナーはサーバーへの接続を許可する。

リポジトリ (repository)

Oracle データベース内の一連の表で、Oracle Enterprise Manager によって管理および監視されるサービスの状態に関する情報、および個別にライセンス契約できる Management Pack に関する情報が格納される。Oracle Management Server によってバックエンド・ストアとして使用される。

ローカル・ネーミング・メソッド (local naming method)

クライアントの TNSNAMES.ORA ファイル内に格納されるネット・サービス名をサービスのネットワーク・アドレスおよび識別に解決するネーミング・メソッド。頻繁に変更されない少数のサービスを行う簡単な分散ネットワークには、ローカル・ネーミングが最も適している。

数字

- 3DES_112 Encryption サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-10
- 3DES_168 Integrity サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

A

- Active Directory サポート
 - 8.1.6 での新機能, 1-6
 - Oracle との統合のためのインストール前の要件, 3-13
- ADAMS ユーザー名, 6-5
 - データベース・ロール, 6-5
 - パスワード, 6-5
- Administrators グループ
 - Oracle インストールの要件, 5-3
- Adobe Acrobat Reader
 - インストール後のドキュメントの表示, 5-37
 - コンポーネント CD-ROM からのインストール, 5-36
 - メモリー・エラー, 5-37
- Advanced Program-to-Program Communication (APPC)
 - 定義, B-16
- Advanced Replication
 - インストール後の構成作業, 7-4
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-14
 - 定義, B-2
- Apache Configuration for Oracle Java Server Pages
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Apache Configuration for Oracle XML Developer's Kit
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Apache JServ

- 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Apache Module for Oracle Servlet Engine
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Apache Web Server Files
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- APPC アーキテクチャ, B-16
- Assistant Common Files
 - 定義, B-2
- AURORA\$JIS\$UTILITY\$ ユーザー名, 6-4
 - パスワード, 6-4
- AURORA\$ORB\$UNAUTHENTICATED ユーザー名, 6-4
 - パスワード, 6-4

B

- BaliShare, B-2
- Bequeath プロトコル・サポート
 - 定義, B-2
- BLAKE ユーザー名, 6-5
 - データベース・ロール, 6-5
 - パスワード, 6-5
- Business Components for Java (BC4J) Runtime
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6

C

- C:¥>
 - 定義, viii
- CATNSNMP.SQL ファイル
 - 機能, 6-3
- CLARK ユーザー名, 6-5
 - データベース・ロール, 6-5
 - パスワード, 6-5
- CONTROL01.CTL ファイル, 6-9

CONTROL02.CTL ファイル, 6-9
CONTROL03.CTL ファイル, 6-9
CTXSYS ユーザー名, 6-4
 データベース・ロール, 6-4
 パスワード, 6-4
CyberSafe サポート
 「カスタム」インストール・タイプによるインス
 トール, 5-14, 5-18, 5-32
 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

D

Data Collection Services
 使用可能なインストール・タイプ, A-5
 定義, B-2
Database Verify Utility, B-19
 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-17
DB_DOMAIN パラメータ, 6-5
DB_NAME パラメータ, 6-5
DBSNMP ユーザー名, 6-3
 CATNSNMP.SQL ファイルを使用した削除, 6-3
 データベース・ロール, 6-3
 パスワード, 6-3
DBUI, B-2
DCE サポート
 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
DES40 Encryption サポート
 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-3,
 A-9, A-10
DES56 Encryption サポート
 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-3,
 A-9, A-10
DR01.DBF
 データ・ファイル, 6-7
 含まれている表領域, 6-7
DRSYS 表領域
 説明, 6-7
DSS
 データ・ウェアハウス・データベース環境と同じ,
 4-4

E

Entrust サポート
 「カスタム」インストール・タイプによるインス
 トール, 5-14, 5-18, 5-32
 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

EWT, B-2
Export Utility, B-19
 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13,
 A-17

F

FAT
 システム要件, 3-2

G

Generic Connectivity
 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-14
 定義, B-3

H

HOME_NAME
 定義, x
HOMEID
 定義, x

I

ICE Browser, B-2
Identix サポート
 「カスタム」インストール・タイプによるインス
 トール, 5-14, 5-18, 5-32
 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
Import Utility, B-19
 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13,
 A-17
INDX01.DBF
 データ・ファイル, 6-7
 含まれている表領域, 6-7
INDX 表領域
 説明, 6-7
INSTALLATIONS.LOG ファイル, 3-14, 5-35
INTERNAL
 8.1.7 より後では使用できない, 6-2
 SYS および SYSDBA の別名, 6-2
 パスワード, 6-2
 ユーザー名, 6-2
IPC
 構成, 4-9
 定義, 用語集 -1

J

Java Runtime Environment

- 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-13, A-17
- 定義, B-3
- 要件, 3-2

Java Swing Components, B-2

Java VM

- 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-16
- 定義, B-3

Java が使用可能なブラウザ, 5-35

JDBC, B-14

JONES ユーザー名, 6-5

- データベース・ロール, 6-5
- パスワード, 6-5

JRE, 「Java Runtime Environment」を参照

JVM Accelerator

- 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-16
- 定義, B-3

K

Kerberos サポート

- 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18, 5-32
- 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

Kodiak, B-2

L

LDAP.ORA ファイル

- Net8 Configuration Assistant での構成, 4-10, 4-11, 4-12
- 定義, 用語集 -1

LDAP 準拠のディレクトリ・サーバー

- Oracle Message Broker, 5-27
- ディレクトリ・サーバーでクライアントを構成, 4-11, 4-12
- ディレクトリ・サーバーでデータベースを構成, 4-10

Legato

- Legato コンポーネントのインストール, D-1
- Legato コンポーネントの削除, D-1
- Recovery Manager での構成, 3-14
- コンポーネントの説明, B-3

LISTENER.ORA ファイル

- Net8 Configuration Assistant での構成, 4-9, 4-10, 4-12

- Oracle Database Configuration Assistant での構成, 4-9, 4-10

- 定義, 用語集 -1

LSM Administrator GUI

- LSM Server とともに使用, D-2, D-6
- インストール, D-6
- クライアント・コンピュータからの LSM Server の管理, D-6
- 更新, D-6
- 削除, D-8
- 定義, B-3

LSM Server

- LSM Administrator GUI とともに使用, D-2, D-6
- Recovery Manager での構成, 3-14, D-2
- Windows NT サービス, D-4, D-7
- 更新, D-2
- 削除, D-5
- 手動インストール, D-2
- 定義, B-3, D-2

LSMINST.EXE ファイル, D-3

LU6.2 プロトコル・サポート

- サポートしているトポロジー, B-16
- サポートしているネットワーク, B-16
- 定義, B-16

M

MD5 Integrity サポート

- 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

MDSYS ユーザー名, 6-4

- データベース・ロール, 6-4
- パスワード, 6-4

Microsoft ODBC 仕様

- Oracle ODBC Driver が準拠する, B-15

Microsoft 管理コンソール用の Oracle Snap-Ins

- Oracle との統合のためのインストール前の要件, 3-13

MIG, 「Migration Utility」を参照

Migration Utility, B-19

- 使用, 3-7, 3-8
- 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-17

MS-DOS モード

- NLS_LANG パラメータの設定, C-5

MTSSYS ユーザー名, 6-4

- データベース・ロール, 6-4

パスワード, 6-4

N

Named Pipes プロトコル・サポート
サポートしているベンダー, 3-18
定義, B-16

NDS Naming Integration
サポートしているベンダー, 3-18

NDS 外部ネーミング・サポート
サポートしているベンダー, 3-18

Net8
インストール後の構成作業, 7-5
クライアント環境の構成, 4-11
構成に必要なユーザー入力, 4-2
構成方法の選択, 4-8
サーバー環境の構成, 4-9
削除, 8-2
サポートされる構成方法, 4-2
ディレクトリ・サーバーでクライアントを構成,
4-11, 4-12
ディレクトリ・サーバーでデータベースを構成,
4-10
ネットワーク構成ファイルの場所, 4-8

Net8 Assistant
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9,
A-14
定義, B-4

Net8 Client
「カスタム」インストール・タイプによるインス
トール, 5-14, 5-18
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9,
A-14
定義, B-4

Net8 Configuration Assistant
LDAP.ORA ファイルの構成, 4-10, 4-11, 4-12
LISTENER.ORA ファイルの構成, 4-9, 4-10, 4-12
SQLNET.ORA ファイルの構成, 4-9, 4-10, 4-11,
4-12
TNSNAMES.ORA ファイルの構成, 4-9, 4-10,
4-11
インストール時に自動的に起動する, 5-8, 5-12,
5-21, 5-25, 5-27, 5-30, 5-34
クライアント環境の構成, 4-11
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9,
A-14
定義, B-5

ディレクトリ・サーバーにアクセスするようデー
タベースを構成, 4-9, 4-10
ディレクトリ・サーバーへのクライアント・アクセ
スの構成, 4-11

Net8 Server
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-14
定義, B-5
NLS_LANG パラメータ, C-2
MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの設定,
C-5
地域およびキャラクタ・セットのデフォルト, C-3
NLS サポート, C-3
NTFS
システム要件, 3-2
ファイル・システム権限の設定, 7-2

O

OAI Adapter SDK
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI CRM 11i Adapter
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI DB Adapter
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI JStudio
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI Management Console
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI Repository
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI SAP Adapter
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI XML AQ Adapter (Oracle8i データベース 8.1.5
用)
使用可能なインストール・タイプ, A-15
OAI XML AQ Adapter (Oracle8i データベース 8.1.6 以
上用)
使用可能なインストール・タイプ, A-15
Object INTYPE File Assistant
使用可能なインストール・タイプ, A-9
Object Type Translator
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9,
A-14
定義, B-5
OCI
使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11,
A-15

- 定義, B-6
- ODBC, 「Oracle ODBC Driver」を参照
- OEM_REPOSITORY.ORA
 - データ・ファイル, 6-7
- OiD Configuration Assistant
 - Oracle Database Configuration Assistant の自動的な起動, 5-25, 5-34
 - インストール時に自動的に起動する, 5-25, 5-34
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-16
 - 定義, B-13
- OiD Upgrade Assistant
 - インストール時に自動的に起動する, 5-27
- OIDCTL ユーティリティ
 - Oracle Internet Directory Server の停止, 8-4
- OIDMON ユーティリティ
 - Oracle Internet Directory Windows NT サービスの削除, 8-4
- OLTP
 - 定義, 4-4
 - データベース環境, 4-4
- Online Transaction Processing, 「OLTP」を参照
- Open Systems Interconnect (OSI) モデル, B-16
- OPSS
 - 構成, 4-9, 4-10, 4-12
 - 定義, 用語集-2
- Oracle Administration Assistant for Windows NT
 - インストール後の構成作業, 7-5
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
 - 定義, B-5
- Oracle Advanced Security
 - Oracle Enterprise Login Assistant, A-4, A-11, A-14
 - Oracle Enterprise Security Manager, A-4, A-11
 - Oracle Wallet Manager, A-4, A-11
 - SSO サポートの定義, B-6
 - Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート, A-3, A-10
 - 暗号化と整合性のサポート, A-2, A-9
 - 暗号化と整合性のサポートの定義, B-5
 - インストール後の構成作業, 7-5
 - インストール前の要件, 3-9
 - エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ, A-11
 - エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポートの定義, B-6
 - エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポートの認証, A-4
 - 概要の定義, B-5
- 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18, 5-32
- 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9, A-14
- 認可サポートの定義, B-5
- 認証サポート, A-3, A-10
- 認証サポートの定義, B-5
- Oracle Agent Extensions
 - Oracle Intelligent Agent ではインストールできない, B-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, B-6
- Oracle Applications InterConnect
 - インストール, 5-32
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-32
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-15
 - 定義, B-6
 - 独立したインストレーション・ガイド, 5-32
- Oracle AppWizard for Microsoft Visual C++
 - 8.1.7 では使用できない, A-19
- Oracle Call Interface
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11, A-15
 - 定義, B-6
- Oracle COM Automation Feature
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, B-6
- Oracle Connection Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-15
 - 定義, B-7
- Oracle Data Gatherer
 - Oracle Intelligent Agent とともにインストールされる, B-11
- Oracle Data Migration Assistant
 - Oracle Universal Installer での移行, 5-7, 5-10, 5-29
 - インストール時に自動的に起動する, 5-9, 5-12, 5-15, 5-27, 5-30
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-15
 - 定義, B-7
 - 同一のインストール・セッションで Oracle Database Configuration Assistant と同時には起動されない, 5-9, 5-12
- Oracle Database Configuration Assistant
 - LISTENER.ORA ファイルの構成, 4-9, 4-10
 - OLTP データベース環境の作成, 4-4

Oracle Parallel Server の構成, 4-9
インストール時に自動的に起動する, 5-8, 5-12,
5-30
「カスタム」データベース・タイプの作成, 4-7
使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-15
スタンドアロン・モードでの実行, 5-11
定義, B-7
データ・ウェアハウス・データベース環境の作成,
4-4
データベースおよびレジストリ・エントリの削除,
8-4
データベースの作成方法の選択, 4-4
同一のインストール・セッションで Oracle Data
Migration Assistant と同時には起動されない,
5-9, 5-12
汎用データベース環境の作成, 4-4
「標準」または「最小」データベース・タイプの作
成, 4-5
Oracle Database Demos
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-18
定義, B-7
Oracle DBA Management Pack
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11,
A-15
定義, B-7
Oracle DBA Studio
Oracle Replication Manager 機能を含む, A-5,
A-11, A-15
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11,
A-15
定義, B-7
Oracle Directory Manager
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12,
A-16
定義, B-7
Oracle Enterprise JavaBeans and CORBA Tools
使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11,
A-15
定義, B-7
Oracle Enterprise Login Assistant
Oracle Advanced Security の機能, A-4, A-11,
A-14
使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11,
A-14
定義, B-8

Oracle Enterprise Manager
Oracle Enterprise Manager Paging Server の要件,
3-17
Oracle Management Server の要件, 3-15
Web ブラウザの要件, 3-17
インストール後の構成作業, 7-6
インストール前の要件, 3-15
使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11,
A-15
定義, B-8
同一コンピュータで 3 層を実行する場合の要件,
3-3
Oracle Enterprise Manager Client
Web 対応のシステム要件, 3-5
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11,
A-15
定義, B-8
Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant
新しいリポジトリの作成, 3-16, 5-22, 7-6
インストール時に自動的に起動する, 5-21
既存のリポジトリの使用, 3-15, 5-21, 7-6
機能, 5-9
使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-16
定義, B-8
「標準」タイプのインストール後に自動的に実行さ
れない, 5-9
Oracle Enterprise Manager Events
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11,
A-16
定義, B-9
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12,
A-16
定義, B-9
Oracle Enterprise Manager Migration Assistant
新しいリポジトリへの移行, 5-20, 7-6
使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-11,
A-16
定義, B-9
Oracle Enterprise Manager Paging Server
インストール要件, 3-17
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12,
A-16
定義, B-9
Oracle Enterprise Manager Quick Tours
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12,
A-16

- 定義, B-9
- Oracle Enterprise Manager Web Site
 - サポートされる Web ブラウザ, 3-5
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-16
 - 定義, B-9
 - ブラウザの要件, 3-17
- Oracle Enterprise Manager コンソール
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11, A-15
 - 定義, B-8
- Oracle Enterprise Security Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-5, A-11, A-12, A-14, A-16
 - 定義, B-10
- Oracle Forms Server Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12, A-16
 - 定義, B-10
- Oracle Help for Java, B-2
- Oracle Home Selector
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-17
 - 定義, B-10
- Oracle HTTP Server
 - Oracle Enterprise Manager Web Site の要件, 3-17
 - インストール後の構成作業, 7-6
 - インストール時にサービスを自動的に起動する, 5-9, 5-12
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-10
- Oracle Instance Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11, A-15
 - 定義, B-10
- 「Oracle Integration Server」インストール・タイプ
 - インストール, 5-27
 - インストールされるコンポーネント, A-14
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-32
 - システム要件, 3-5
 - 定義, 2-4, B-11
 - データベースの自動的なインストール, 4-3
- Oracle Intelligent Agent
 - Oracle Agent Extensions をインストールできない, B-6, B-11
 - Windows 95 および 98 の Oracle8i Personal Edition
 - データベースではサポートされない, A-8
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-16
 - 定義, B-11
- Oracle *interMedia*
 - インストール後の構成作業, 7-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-11
- Oracle *interMedia* Audio
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-11
- Oracle *interMedia* Client Option
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-16
 - 定義, B-12
- Oracle *interMedia* Image
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-12
- Oracle *interMedia* Locator
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-12
- Oracle *interMedia* Text
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-12
- Oracle *interMedia* Text Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12, A-16
 - 定義, B-12
- Oracle *interMedia* Video
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
 - 定義, B-13
- Oracle Internet Directory
 - LDIF ベースのアップグレード, 3-11
 - MS-DOS モードでのコマンドライン・ツールの実行, C-5
 - NLS の問題, C-6
 - Oracle Internet Directory での 8.1.7 データベースの構成, 3-12
 - UNIX エミュレーション・ユーティリティの要件, 3-5, 7-7
 - UTF8 キャラクタ・セットの要件, 3-11, 3-12
 - アップグレード手順, 5-26
 - アップグレードの要件, 3-11
 - インストール後の構成作業, 7-7
 - インストール前の要件, 3-11, 3-12
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-32
 - 互換性のあるデータベース, 3-6
 - 最初のインストール, 5-23

- 削除, 8-2
- ダウングレード要件, 3-12
- ツールに必要な NLS_LANG 環境変数, C-6
- 定義, B-13
- データベースの自動的なインストール, 4-3
- 別々にインストールしたコンポーネントのアップグレード, 3-11
- Oracle Internet Directory Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-16
 - 定義, B-13
- Oracle Internet Directory Configuration Assistant, 「OiD Configuration Assistant」を参照
- Oracle Internet Directory Server
 - Oracle NT サービスの削除, 8-4
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-16
 - 定義, B-13
 - 停止, 8-4
- 「Oracle Internet Directory」インストール・タイプ
 - インストール, 5-23
 - インストールされるコンポーネント, A-14
 - システム要件, 3-5
 - 定義, 2-4
- Oracle Internet File System
 - CD-ROM が使用可能, B-13
 - 定義, B-13
- Oracle INTYPE File Assistant
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-14
 - 定義, B-14
- Oracle JDBC Drivers
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-17
 - 定義, B-14
- Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.1
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-17
- Oracle JDBC Thin Driver for JDK 1.2
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-17
- Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.1
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-17
- Oracle JDBC/OCI Driver for JDK 1.2
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-12, A-17
- Oracle Management Server
 - 新しいリポジトリの作成, 3-16, 5-20, 7-6
 - 移行およびアップグレードの制限事項, 5-19
 - インストール前の要件, 3-15
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14
 - 既存のリポジトリの使用, 3-15, 5-20, 7-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6, A-16
 - 定義, B-14
- 「Oracle Management Server」インストール・タイプ
 - インストール, 5-19
 - システム要件, 3-5
 - 定義, 2-4
- Oracle Message Broker
 - LDAP のベース・ネーミング・コンテキストおよび接尾辞情報の入力, 5-27
 - Oracle との統合のためのインストール前の要件, 3-12
 - インストール後の構成作業, 7-7
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-17
 - 定義, B-14
- Oracle Migration Workbench
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12
 - 定義, B-14
 - 非 Oracle データベースからの移行がサポートされる, B-14
- Oracle Mod PL/SQL Gateway
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Oracle Names
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 定義, B-15
- Oracle Objects for OLE
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
 - 定義, B-15
- Oracle ODBC Driver
 - Microsoft ODBC 仕様に準拠, B-15
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
 - 定義, B-15
- Oracle Open Database Connectivity Driver, 「Oracle ODBC Driver」を参照
- Oracle Parallel Server
 - Oracle Database Configuration Assistant での構成, 4-9
 - SID の割当て, 5-8
 - 移行およびアップグレードの要件, 3-9

- インストール後の構成作業, 7-7
- インストール前の要件, 3-10
- 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14
- 使用可能なインストール・タイプ, A-7
- 定義, B-15
- Oracle Parallel Server Management
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 定義, B-16
- Oracle Parallel Server Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12, A-16
 - 定義, B-15
- Oracle Partitioning
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-17
 - 定義, B-16
- Oracle Performance Monitor for Windows NT
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
 - 定義, B-16
- Oracle Perl Interpreter
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-6
- Oracle Protocol Support
 - LU6.2 の定義, B-16
 - Named Pipes の定義, B-16
 - SPX の定義, B-17
 - TCP/IP の定義, B-17
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9, A-14
- Oracle Provider for OLE DB
 - 8.1.6 の新規コンポーネント, 1-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
 - 定義, B-17
- Oracle Remote Configuration Agent
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-17
 - 定義, B-17
- Oracle Replication Manager
 - Oracle DBA Studio に含まれる機能, A-5, A-11, A-15
- Oracle SAP Bridge
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-15
- Oracle Schema Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11, A-15
 - 定義, B-17
- Oracle Security Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11, A-15
 - 定義, B-17
- Oracle Services for Microsoft Transaction Server
 - Microsoft Transaction Server のインストールが必要, 5-14, 5-18
 - インストール後の構成作業, 7-7
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12
 - 定義, B-17
- Oracle Servlet Engine
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-16
 - 定義, B-18
- Oracle SNMP Agent
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
 - 定義, B-18
- Oracle Spatial
 - インストール後の構成作業, 7-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 定義, B-18
- Oracle Spatial Index Advisor
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12, A-16
 - 定義, B-18
- Oracle SQLJ
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
 - 定義, B-18
- Oracle Storage Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-11, A-15
 - 定義, B-18
- Oracle Time Series
 - インストール後の構成作業, 7-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7
 - 定義, B-18
- Oracle Trace
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-17
 - 定義, B-18
- Oracle Universal Installer

- 8.1.5 より前のホームへのインストールの制限事項, 5-4
- Net8 Configuration Assistant の実行, 4-8
- Net8 環境の構成, 4-2
- Net8 構成方法の選択, 4-8
- Oracle Database Configuration Assistant の実行, 4-4
- Oracle コンポーネントの削除, 8-2
- インストールの概要, 2-5
- キーボード・ナビゲーション, 5-2
- コンポーネントのインストール, 2-5
- コンポーネントの削除, 8-4
- 使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-13, A-17
- 使用方法のドキュメント, 2-2
- 定義, 2-2, B-18
- データベースの作成, 4-2
- Oracle Utilities
 - Database Verify Utility, B-19
 - Export Utility, B-19
 - Import Utility, B-19
 - Migration Utility, B-19
 - MS-DOS モードでの設定, C-5
 - Recovery Manager, B-19
 - Server Manager, B-19
 - SQL*Loader, B-19
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-17
 - 定義, B-19
- Oracle Visual Information Retrieval
 - インストール後の構成作業, 7-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8
 - 定義, B-19
- Oracle Visual Information Retrieval Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
 - 定義, B-19
- Oracle Wallet Manager
 - Oracle Advanced Security の機能, A-4
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11, A-14
 - 定義, B-19
- Oracle Web Publishing Assistant
 - 8.1.7 では使用できない, A-19
- Oracle Windows NT サービス
 - インストール後の構成作業, 7-8
 - 停止, 5-3, 8-3
- Oracle Workflow
 - Oracle との統合のためのインストール前の要件, 3-13
 - インストール後の構成作業, 7-8
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-18
 - 定義, B-19
- Oracle Workflow Builder
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-13
 - 定義, B-19
- Oracle Workflow Install
 - インストール時に自動的に起動する, 5-30
- Oracle Workflow Mailer
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-13
 - 定義, B-20
- Oracle XML Developer's Kit
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
 - 定義, B-20
- Oracle XML SQL Utility
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
 - 定義, B-20
- ORACLE_BASE
 - 定義, ix
- ORACLE_HOME
 - 環境での設定の制限事項, 5-3
 - 定義, ix
- ORACLE_HOME 環境パラメータ
 - パスに設定しない, 5-3
- Oracle8i
 - Windows NT と UNIX でのインストールの相違, 5-2
 - インストール, 5-6
 - 機能, 1-2
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
 - 「Oracle8i Client」最上位コンポーネント
 - インストール, 5-16
 - 使用可能なインストール・タイプ, 2-3, 2-6, 3-4, A-9
 - 定義, 2-3
 - 「Oracle8i Enterprise Edition」最上位コンポーネント
 - インストール, 5-6
 - 使用可能なインストール・タイプ, 2-3, 2-6, 3-3, A-2
 - 定義, 2-3
- Oracle8i Enterprise Edition データベース・タイプ
 - 定義, 1-2

- Oracle8i JVM
Oracle8i データベース型のネーミング規則, B-14
使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-16
定義, B-14
- 「Oracle8i Management and Integration」最上位コンポーネント
インストール, 5-19
インストールされるコンポーネント, A-14
使用可能なインストール・タイプ, 2-4, 2-6, A-14
定義, 2-4
- 「Oracle8i Personal Edition」最上位コンポーネント
インストール, 5-6
使用可能なインストール・タイプ, 2-3, 2-6, 3-3
定義, 2-3
- Oracle8i Personal Edition データベース・タイプ
Windows 95/98 でのインストールおよび移行はこのドキュメント・セットでは説明しない, 1-2
Windows 95 および 98 上では Oracle Intelligent Agent をサポートしない, A-8
Windows NT および 2000 のみでのインストール, 1-2
定義, 1-2
- Oracle8i Server
「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-15
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-18
定義, B-20
- Oracle8i Windows Documentation
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
定義, B-20
- Oracle8i データベース・タイプ
定義, 1-2
- 「Oracle8i」最上位コンポーネント
インストール, 5-6
使用可能なインストール・タイプ, 2-3, 2-6, 3-3
定義, 2-3
- Oracle コンテキスト
定義, 用語集 -2
- Oracle サービス
停止, 5-3, 8-3
- Oracle スキーマ
定義, 用語集 -3
- Oracle データベース
汎用環境用の作成, 4-4
- Oracle ホーム
単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 3-14
単一ホーム・コンポーネントの2回目のインストール, 3-14
定義, 用語集 -3
- Oracle ホーム名
最大長, 5-4
定義, 用語集 -3
- ORADIM ユーティリティ
使用, 3-8
データベースの手動削除, 8-5
ドキュメント, B-19
- ORASBT.DLL ファイル, D-3, D-5
- ORDPLUGINS ユーザー名, 6-4
データベース・ロール, 6-4
パスワード, 6-4
- ORDSYS ユーザー名, 6-4
データベース・ロール, 6-4
パスワード, 6-4
- OSE\$HTTP\$ ADMIN ユーザー名, 6-5
パスワード, 6-5
- OTT
使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9, A-14
定義, B-5
- OUTLN ユーザー名, 6-3
データベース・ロール, 6-3
パスワード, 6-3
-
- P**
- PDF
コンポーネント CD-ROM からの Adobe Acrobat Reader のインストール, 5-36
- PL/SQL
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
定義, B-21
- PL/SQL Embedded Gateway
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-18
定義, B-21
- PL/SQL の外部ルーチン
インストール後の構成作業, 7-8
- PL/SQL モジュール
妥当性チェック, 7-3
- Pro*C/C++
使用可能なインストール・タイプ, A-13, A-18
定義, B-21
- Pro*COBOL

インストール後の構成作業, 7-8
使用可能なインストール・タイプ, A-13, A-18
定義, B-21

R

RADIUS サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
Radius サポート
「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18, 5-32
RBS01.DBF
データ・ファイル, 6-7
含まれている表領域, 6-7
RBS 表領域
説明, 6-7
RC4_128 Encryption サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
RC4_256 Integrity サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
RC4_40 Encryption サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
RC4_56 Encryption サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
Recovery Manager, B-19
LSM Server での構成, 3-14
MML の要件, D-2
インストール前の要件, 3-14
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-17
REDO01.LOG ファイル, 6-8
REDO02.LOG ファイル, 6-8
REDO03.LOG ファイル, 6-8
REDO ログ・ファイル
REDO01.LOG, 6-8
REDO02.LOG, 6-8
REDO03.LOG, 6-8
初期データベース, 6-8
Replication API
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
定義, B-21
RMAN, 「Recovery Manager」を参照

S

SCOTT ユーザー名, 6-4
データベース・ロール, 6-4
パスワード, 6-4
SecurID Authentication Adapter
サポートしているベンダー, 3-18
SecurID サポート
「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 5-14, 5-18, 5-32
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
Server Manager, B-19
8.1.7 より後では使用できない, A-8
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-17
SERVICE_NAMES パラメータ, 6-5
SHA-1 Encryption サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
SID, 「システム識別子」を参照
SMUI, B-2
SNA, B-16
SPX プロトコル・サポート
サポートしているベンダー, 3-18
定義, B-17
SQL*Loader, B-19
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-17
SQL*Plus
MS-DOS モードでの NLS_LANG パラメータの設定, C-5
オンライン・ヘルプのインストール, 7-8
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
定義, B-21
SQL*Plus Worksheet
使用可能なインストール・タイプ, A-5, A-12, A-15
定義, B-22
SQLJ Runtime
使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
定義, B-22
SQLJ Translator
使用可能なインストール・タイプ, A-7, A-12, A-17
定義, B-22

SQLNET.ORA ファイル

Net8 Configuration Assistant での構成, 4-9, 4-10,
4-11, 4-12

定義, 用語集 -3

SSL サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-11,
A-14

SSO サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10,
A-11, A-14

定義, B-6

Sun SDK

使用可能なインストール・タイプ, A-6

System Network Architecture (SNA), B-16

SYSTEM01.DBF

データ・ファイル, 6-6

含まれている表領域, 6-6

SYSTEM 表領域

説明, 6-6

SYSTEM ユーザー名, 6-2

データベース・ロール, 6-2

パスワード, 6-2

パスワードの変更, 6-2

SYS ユーザー名, 6-3

データベース・ロール, 6-3

パスワード, 6-3

パスワードの変更, 6-2

T

TCP/IP プロトコル・サポート

サポートしているベンダー, 3-18

定義, B-17

TEMP01.DBF

データ・ファイル, 6-6

含まれている表領域, 6-6

TEMP 表領域

説明, 6-6

Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10

TNSNAMES.ORA ファイル

Net8 Configuration Assistant での構成, 4-9, 4-10,
4-11

定義, 用語集 -3

TOOLS01.DBF

データ・ファイル, 6-7

含まれている表領域, 6-7

TOOLS 表領域

説明, 6-7

U

UNIX

Windows NT での Oracle のインストールとの相違,
5-2

USERS01.DBF

データ・ファイル, 6-6

含まれている表領域, 6-6

USERS 表領域

説明, 6-6

UTLRP.SQL ファイル, 7-3

W

Web ブラウザ

Oracle Enterprise Manager Web Site の実行でサ
ポートされるブラウザ, 3-5

Oracle Enterprise Manager の要件, 3-17

インストール, 5-35

インストール後のドキュメントの表示, 5-36

Windows 2000

サポートされるオペレーティング・システムのパー
ジョン, 1-3

Windows 95

最初の Oracle インストール後の再起動, 5-16

Windows 98

最初の Oracle インストール後の再起動, 5-16

Windows NT

UNIX での Oracle のインストールとの相違, 5-2

サポートされるオペレーティング・システムのパー
ジョン, 1-3

Windows Terminal Server

サポート, 1-3

Windows 固有の認証

8.1.6 での新機能, 1-6

サポートしているベンダー, 3-18

WINSOCK2 on Windows NT サポート

定義, B-22

X

X.509 サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-11, A-14

XML

Oracle XML Developer's Kit, A-8, A-13, A-18, B-20

Oracle XML SQL Utility, A-8, A-13, A-18

あ

アップグレード

アップグレード前のバックアップ, 5-3

アドバンスド・キューイング

使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9, A-14

定義, B-2

「アプリケーション・ユーザー」インストール・タイプ

インストール, 5-16

インストールされるコンポーネント, A-9

システム要件, 3-4

定義, 2-3

暗号化と整合性のサポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-9

定義, B-5

い

異機種間サービス, 「Generic Connectivity」を参照移行

7.1.3.3.6 より前のリリースからの, 3-7

Oracle Data Migration Assistant を使用, 5-7, 5-10, 5-29

Oracle Parallel Server の要件, 3-9

Oracle のコマンドライン・ツールの使用, 3-7

移行またはアップグレード前のバックアップ, 5-3

インストール時に Oracle Data Migration Assistant を自動的に起動する, 5-9, 5-12, 5-30

非 Oracle のデータベースから, B-14

必要な Oracle7 Server SQL*Net パッチのリリース, 3-8

要件, 3-7

意思決定支援システム, 「DSS」を参照

イタリック

定義, viii

インストール

8.1.5 より前のホームへのインストールの制限事項, 5-4

「Oracle Integration Server」インストール・タイプ, 5-27

「Oracle Internet Directory」インストール・タイプ, 5-23

「Oracle Management Server」インストール・タイプ, 5-19

「Oracle8i Client」最上位コンポーネントの選択, 5-16

「Oracle8i Enterprise Edition」、「Oracle8i」または「Oracle8i Personal Edition」最上位コンポーネントの選択, 5-6

「Oracle8i Management and Integration」最上位コンポーネントの選択, 5-19

UNIX と Windows NT での Oracle のインストールの相違, 5-2

「アプリケーション・ユーザー」インストール・タイプ, 5-16

インストール・セッションのログの確認, 5-35

インストール前, 5-3

概要, 2-5

「カスタム」インストール・タイプ, 5-13, 5-17, 5-31

「管理者」インストール・タイプ, 5-16

キーボード・ナビゲーション, 5-2

最上位コンポーネント, 2-2

「最小」インストール・タイプ, 5-10

使用可能なインストール・タイプ, A-1

使用可能なコンポーネント, 2-2, A-1

手順, 5-4

古い Oracle Installer 使用上の制限事項, 5-4

「プログラマ」インストール・タイプ, 5-16
要件, 3-2

インストール後

NTFS ファイル・システムの権限の設定, 7-2

Windows NT レジストリのセキュリティ設定, 7-3

個々のコンポーネントの構成要件, 7-4

パスワードの変更, 6-2

無効な PL/SQL モジュールの妥当性チェック, 7-3
インストール・タイプ

Oracle8i, 2-3, 3-3, A-2

Oracle8i Client, 2-3, 3-4, A-9

Oracle8i Enterprise Edition, 2-3, 3-3, A-2

Oracle8i Management and Integration, 2-4, 3-5, A-14

Oracle8i Personal Edition, 2-3, 3-3, A-2

- 各最上位コンポーネントで使用可能, 2-2
- 定義, 用語集 -4
- インストール・ドキュメント
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13, A-18
 - 定義, B-20
- インストール前
 - Active Directory と Oracle8i の統合の要件, 3-13
 - Microsoft 管理コンソール用の Oracle Snap-In の要件, 3-13
 - Oracle Advanced Security の要件, 3-9
 - Oracle Enterprise Manager の要件, 3-15
 - Oracle Internet Directory の要件, 3-11, 3-12
 - Oracle Management Server の要件, 3-15
 - Oracle Message Broker の要件, 3-12
 - Oracle Parallel Server の要件, 3-10
 - Oracle Workflow の要件, 3-13
 - Recovery Manager の要件, 3-14
 - 個々のコンポーネントの要件, 3-9
 - サービスの停止, 5-3
 - 作業, 5-3
 - データベース・バックアップの実行, 5-3

え

- 円記号 (¥)
 - 定義, viii
- エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4, A-11
 - 定義, B-6

お

- オペレーティング・システム
 - サポート, 1-3
- オペレーティング・システムの認証による接続
 - インストール中に作成, 6-2
 - 構成, 4-9, 4-10, 4-12
 - 定義, 用語集 -4

か

- 外部ルーチン
 - インストール後の構成作業, 7-8
 - 構成, 4-9, 4-10
 - 定義, 用語集 -4

概要

- Oracle8i for Windows NT, 1-2
- 「カスタム」インストール・タイプ
 - インストール, 5-13, 5-17, 5-31
 - 定義, 2-3, 2-4
- 環境
 - ORACLE_HOME 設定の制限事項, 5-3
- 管理コンテキスト
 - 構成, 4-10, 4-11, 4-12
 - 定義, 用語集 -5
- 「管理者」インストール・タイプ
 - インストール, 5-16
 - インストールされるコンポーネント, A-9
 - システム要件, 3-4
 - 定義, 2-3

き

- キーボード
 - ナビゲーション, 5-2
- 記号
 - リスト, x
- 機能
 - 8.1.6 の新規, 1-6
 - 8.1.7 の新規, 1-4
- 共通ドキュメントの参照先
 - Windows NT 固有の NLS_LANG の値, C-3
 - Windows NT 固有の NLS_TERRITORY の値, C-3
 - Windows NT 固有の REDO ログ・ファイルの位置, 6-8
 - Windows NT 固有の REDO ログ・ファイルのファイル・サイズ, 6-8
 - Windows NT 固有のパラメータ・ファイルのファイル名と位置, 6-7

く

- クライアント
 - インストール, 5-16
- グローバル・データベース名
 - 定義, 5-7, 5-11, 5-24, 5-29, 5-33, 6-5

こ

コード

このドキュメントで使用する表記規則, viii
固有の認証

Windows NT 版の 8.1.6 の新機能, 1-6
コンポーネント

8.1.6 の新規, 1-6

8.1.7 では使用できない, A-19

8.1.7 の新規, 1-4

Oracle Universal Installer で削除, 8-2

Windows 95/98 上で手動で削除, 8-7

Windows NT 上で手動で削除, 8-6

インストール, 5-4

インストール後の構成の手引き, 7-4

インストールに使用可能, 2-2, A-1

インストール前の必須要件, 3-9

説明, B-1

単一 Oracle ホーム, 3-14

単一 Oracle ホーム・コンポーネントの 2 回目のインストール, 3-14

データベース、Oracle Internet Directory および
Net8 サービスとレジストリ・エントリの削除,
8-2

さ

サービス

停止, 5-3, 8-3

サービス登録

定義, 用語集 -5

最上位コンポーネント

システム要件, 3-2

定義, 2-2, 用語集 -5

「最小」インストール・タイプ

インストール, 5-10

インストールされるコンポーネント, A-2

システム要件, 3-3

定義, 2-3

作業を始める

概要, 2-7

削除

Oracle Universal Installer で Oracle コンポーネント
を, 8-2

Oracle コンポーネント, 8-2, 8-6, 8-7

Oracle コンポーネントの手動, 8-5

Windows 95/98 上で手動で Oracle コンポーネント
を, 8-7

Windows NT 上で手動で Oracle コンポーネントを,
8-6

データベース、Oracle Internet Directory および
Net8 サービスとレジストリ・エントリ, 8-2
サポートされるオペレーティング・システム, 1-3

し

システム識別子

定義, 5-8, 5-11, 5-29, 5-33

複数 Oracle ホーム, 6-6

システム要件

FAT および NTFS ファイル・システム, 3-2

「Oracle Integration Server」インストール・タイプ,
3-5

「Oracle Internet Directory」インストール・タイプ,
3-5

「Oracle Management Server」インストール・タイ
プ, 3-5

Oracle8i Client のインストール・タイプ, 3-4

Oracle8i Enterprise Edition のインストール・タイ
プ, 3-3

Oracle8i Personal Edition, 3-3

Oracle8i のインストール・タイプ, 3-3

「アプリケーション・ユーザー」インストール・タ
イプ, 3-4

「管理者」インストール・タイプ, 3-4

最上位コンポーネント, 3-2

「最小」インストール・タイプ, 3-3

「標準」インストール・タイプ, 3-3

「プログラマ」インストール・タイプ, 3-4

修飾されていない名前

定義, 用語集 -5

初期化パラメータ・ファイル

INIT.ORA, 6-7

説明, 6-7

データベース, 6-7

新機能およびコンポーネント

8.1.6, 1-6

8.1.7, 1-4

す

スキーマ

- INTERNAL ユーザー名, 6-2
- 「スタート」 →
 - 定義, viii

せ

制御ファイル

- CONTROL01.CTL, 6-9
 - CONTROL02.CTL, 6-9
 - CONTROL03.CTL, 6-9
- ### 接続記述子
- 定義, 用語集 -6
- ### 接続識別子
- 定義, 用語集 -6

そ

相違

- Windows NT と UNIX での Oracle のインストール, 5-2

た

ターミナル・サーバー

- サポート, 1-3
- ### 大カッコ
- 定義, viii
- ### 単一 Oracle ホーム
- コンポーネント, 3-14
 - 単一ホーム・コンポーネントの 2 回目のインストール, 3-14

て

ディレクトリ・サーバー

- 「カスタム」インストール・タイプによるアクセスの構成, 4-9
 - 定義, 用語集 -6
 - ディレクトリ・サーバーへのクライアント・アクセスの構成, 4-11, 4-12
 - ディレクトリ・サーバーへのデータベース・アクセスの構成, 4-10
- ### ディレクトリ情報ツリー
- 定義, 用語集 -6

ディレクトリ・ネーミング・コンテキスト

- 定義, 用語集 -6
- ### ディレクトリ・ネーミング・メソッド
- 定義, 用語集 -6
- ### ディレクトリ名
- 使用される表記規則, viii
- ### データ・ウェアハウス
- DSS データベース環境と同じ, 4-4
 - 定義, 4-4
 - データベース環境, 4-4

データ・ディクショナリ

- 初期データベース, 6-10
- 説明, 6-10

データ・ファイル

- DR01.DBF, 6-7
- INDX01.DBF, 6-7
- OEM_REPOSITORY.ORA, 6-7
- RBS01.DBF, 6-7
- SYSTEM01.DBF, 6-6
- TEMP01.DBF, 6-6
- TOOLS01.DBF, 6-7
- USERS01.DBF, 6-6

データベース

- OLTP 環境用の作成, 4-4
- Oracle Internet Directory と互換性のあるリリース, 3-6
- REDO ログ・ファイル, 6-8
- 移行の要件, 3-7
- インストール, 5-10
- 「カスタム」インストール・タイプ, 4-7
- 「最小」インストール・タイプ, 4-5
- 削除, 8-2
- 作成に必要なユーザー入力, 4-2
- 作成方法の選択, 4-4
- サポートされる作成方法, 4-2
- 使用可能なインストール・タイプ, 4-5
- 使用可能なデータベース・タイプ, 1-2
- 初期化パラメータ・ファイル, 6-7
- 制御ファイル, 6-9
- ディレクトリ・サーバーで構成, 4-10
- データ・ウェアハウス環境用の作成, 4-4
- データ・ディクショナリ, 6-10
- データ・ファイル, 6-6
- データベース・パスワード, 6-2
- データベース・ユーザー名, 6-2
- 汎用環境用の作成, 4-4
- 「標準」インストール・タイプ, 4-5

表領域, 6-6
ロールバック・セグメント, 6-9
データベース・タイプ
 Oracle8i Enterprise Edition, Oracle8i, Oracle8i
 Personal Edition, 1-2
データベース・ロール
 ADAMS ユーザー名, 6-5
 BLAKE ユーザー名, 6-5
 CLARK ユーザー名, 6-5
 CTXSYS ユーザー名, 6-4
 DBSNMP ユーザー名, 6-3
 JONES ユーザー名, 6-5
 MDSYS ユーザー名, 6-4
 MTSSYS ユーザー名, 6-4
 ORDPLUGINS ユーザー名, 6-4
 ORDSYS ユーザー名, 6-4
 OUTLN ユーザー名, 6-3
 SCOTT ユーザー名, 6-4
 SYSTEM ユーザー名, 6-2
 SYS ユーザー名, 6-3
デフォルト REDO ログ・ファイル
 REDO01.LOG, 6-8
 REDO02.LOG, 6-8
 REDO03.LOG, 6-8
デフォルト・データ・ファイル
 DR01.DBF, 6-7
 INDX01.DBF, 6-7
 RBS01.DBF, 6-7
 SYSTEM01.DBF, 6-6
 TEMP01.DBF, 6-6
 TOOLS01.DBF, 6-7
 USERS01.DBF, 6-6
デフォルト・ドメイン
 構成, 4-9, 4-10, 4-11, 4-12
 定義, 用語集 -7
デフォルトの初期化パラメータ・ファイル
 INIT.ORA, 6-7
デフォルトの制御ファイル
 CONTROL01.CTL, 6-9
 CONTROL02.CTL, 6-9
 CONTROL03.CTL, 6-9
デフォルト表領域
 DRSYS, 6-7
 INDX, 6-7
 RBS, 6-7
 SYSTEM, 6-6
 TEMP, 6-6

TOOLS, 6-7
USERS, 6-6

と

ドキュメント
 HTML および PDF 形式の表示, 5-36
 Oracle Universal Installer の使用方法, 2-2
 Web ブラウザがない場合の表示, 5-37
 Web ブラウザでの表示, 5-36
 インストール後の PDF ドキュメントのみの表示,
 5-37
 このドキュメントで使用される表記規則, viii
 コンポーネント CD-ROM からの Adobe Acrobat
 Reader のインストール, 5-36

に

認可サポート
 定義, B-5
認証サポート
 インストール前の要件, 3-9
 使用可能なインストール・タイプ, A-3, A-10
 定義, B-5

ね

ネーミング・メソッド
 構成, 4-9, 4-10, 4-11, 4-12
 定義, 用語集 -7
ネット・サービス名
 構成, 4-9, 4-10, 4-11
 定義, 用語集 -7
ネットワーク
 LU6.2 プロトコルをサポートしているトポロジ,
 B-16
 Net8 構成方法の選択, 4-8
 ネットワーク構成ファイルの場所, 4-8
ネットワーク・プロトコル
 Oracle のサポート, A-2, A-9

は

パスワード

- ADAMS ユーザー名, 6-5
- AURORA\$JIS\$UTILITY\$ ユーザー名, 6-4
- AURORA\$ORB\$UNAUTHENTICATED ユーザー名, 6-4
- BLAKE ユーザー名, 6-5
- CLARK ユーザー名, 6-5
- CTXSYS ユーザー名, 6-4
- DBSNMP ユーザー名, 6-3
- INTERNAL ユーザー名, 6-2
- JONES ユーザー名, 6-5
- MDSYS ユーザー名, 6-4
- MTSSYS ユーザー名, 6-4
- ORDPLUGINS ユーザー名, 6-4
- ORDSYS ユーザー名, 6-4
- OSE\$HTTP\$ ADMIN ユーザー名, 6-5
- OUTLN ユーザー名, 6-3
- SCOTT ユーザー名, 6-4
- SYSTEM ユーザー名, 6-2
- SYS ユーザー名, 6-3
- インストール後の変更, 6-2

バックアップ

- 移行またはアップグレード前の実行, 5-3

バッチ・モード

- NLS_LANG パラメータの設定, C-5

汎用

- 定義, 4-4
- データベース環境, 4-4

ひ

必須、個々のコンポーネントの要件, 3-9

「標準」インストール・タイプ

- インストールされるコンポーネント, A-2
- システム要件, 3-3
- 定義, 2-3

表領域

- DRSYS, 6-7
- INDX, 6-7
- RBS, 6-7
- SYSTEM, 6-6
- TEMP, 6-6
- TOOLS, 6-7
- USERS, 6-6
- 大規模なソート処理のための拡張, 6-6

- データベース, 6-6
- 内容、DR01.DBF, 6-7
- 内容、INDX01.DBF, 6-7
- 内容、RBS01.DBF, 6-7
- 内容、SYSTEM01.DBF, 6-6
- 内容、TEMP01.DBF, 6-6
- 内容、TOOLS01.DBF, 6-7
- 内容、USERS01.DBF, 6-6

ふ

ファイル・システム

- システム要件, 3-2

ファイル名

- 使用される表記規則, viii

複数 Oracle ホーム

- システム識別子, 6-6
- 定義, ix

ブラウザ

- Java で使用可能, 5-35

「プログラマ」インストール・タイプ

- インストール, 5-16
- インストールされるコンポーネント, A-9
- システム要件, 3-4
- 定義, 2-3

プロトコル

- Oracle のサポート, A-2, A-9

プロトコル・アドレス

- 定義, 用語集 -8

プロトコル・サポート

- サポートしているベンダー, 3-18
- プロトコル・スタック・ベンダー要件, 3-18

へ

変数

- 使用される表記規則, viii

ほ

ホスト・ネーミング・アダプタ

- サポートしているベンダー, 3-18

ま

マルチスレッド・サーバー
インストール後の構成作業, 7-4
作成, 4-7

め

メディア管理レイヤー
定義, D-2

ゆ

ユーザー名
ADAMS, 6-5
AURORA\$JIS\$UTILITY\$, 6-4
AURORA\$ORB\$UNAUTHENTICATED, 6-4
BLAKE, 6-5
CLARK, 6-5
CTXSYS, 6-4
DBSNMP, 6-3
INTERNAL, 6-2
JONES, 6-5
MDSYS, 6-4
MTSSYS, 6-4
ORDPLUGINS, 6-4
ORDSYS, 6-4
OSE\$HTTP\$ ADMIN, 6-5
OUTLN, 6-3
SCOTT, 6-4
SYS, 6-3
SYSTEM, 6-2

よ

要件
Java Runtime Environment, 3-2
Oracle Enterprise Manager, 3-15
「Oracle Integration Server」 インストール・タイプ,
3-5
「Oracle Internet Directory」 インストール・タイプ,
3-5
「Oracle Management Server」 インストール・タイ
プ, 3-5
Oracle コンポーネントのインストール後, 7-4
「アプリケーション・ユーザー」 インストール・タ
イプ, 3-4

インストール前, 5-3
オペレーティング・システム, 1-3
「管理者」 インストール・タイプ, 3-4
個々のコンポーネント, 3-9
個々のコンポーネントのインストール前の要件,
3-9
最上位コンポーネント, 3-2
「最小」 インストール・タイプ, 3-3
データベースの移行, 3-7
「標準」 インストール・タイプ, 3-3
「プログラマ」 インストール・タイプ, 3-4

り

リスナー
インストール前の停止, 5-3
クライアント・ソフトウェアでディレクトリにデー
タベースをインストール, 5-5
構成, 4-9, 4-10
作成, 4-10
定義, 用語集 -8
リポジトリ
新しいリポジトリの作成, 3-16, 5-20, 7-6
移行およびアップグレードの制限事項, 3-15, 5-19
既存のリポジトリの使用, 3-15, 5-20, 7-6
専用の表領域とデータ・ファイルの作成, 6-7
定義, 用語集 -8
リリース・ノート
使用可能なインストール・タイプ, A-8, A-13,
A-18
定義, B-20

れ

レジストリ
使用時の注意, 8-6
セキュリティの設定, 7-3

ろ

ローカル・ネーミング・メソッド
定義, 用語集 -8
ロール
ADAMS ユーザー名, 6-5
BLAKE ユーザー名, 6-5
CLARK ユーザー名, 6-5
CTXSYS ユーザー名, 6-4

- DBSNMP ユーザー名, 6-3
- JONES ユーザー名, 6-5
- MDSYS ユーザー名, 6-4
- MTSSYS ユーザー名, 6-4
- ORDPLUGINS ユーザー名, 6-4
- ORDSYS ユーザー名, 6-4
- OUTLN ユーザー名, 6-3
- SCOTT ユーザー名, 6-4
- SYSTEM ユーザー名, 6-2
- SYS ユーザー名, 6-3
- ロールバック・セグメント
 - 初期データベース, 6-9
- ログ・ファイル
 - インストール・セッションの確認, 5-35

